

平成31年度（令和元年度）

全国及び市学力・学習状況調査  
結果分析と改善策について

令和元年（2019）10月1日

出雲市教育委員会

## 平成31年度（令和元年度）全国及び市学力・学習状況調査の結果分析と改善策について

出雲市教育委員会では、学校、家庭及び地域による学力向上の取組をより一層推進していくために、全国及び市学力・学習状況調査の学校別結果を公表します。

公表校は、調査対象学年の児童生徒数が16名以上である学校です。

「全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策」をご覧になる際には、下記の点にご留意いただきますようお願いいたします。

### 記

- 1 この学力調査結果は、学力の特定の一部であり、学力のすべてを表すものではありません。
- 2 結果分析からは、学校における教育指導だけでなく、家庭学習時間や規則正しい生活習慣、家族と学校での出来事について話すこと、地域や社会での出来事に興味があること等も、学力との関連が深いという結果が得られています。
- 3 この調査結果を参考に、学校及び教育委員会は、学力向上のための改善策に取り組んでいきます。ご家庭では、家庭での改善への取組内容をご確認いただき、学校と協力した取組を進めていただきますようお願いいたします。  
また、地域の皆様には、学校の教育活動の充実のために、引き続きご支援いただきますようお願いいたします。

## 《参考》

### 1 平成31年度（令和元年度）の全国学力・学習状況調査の概要

(1) 実施期日 平成31年4月18日（木）

(2) 対象学年及び教科

小学校6年生〔国語・算数〕 中学校3年生〔国語・数学・英語〕

※ 教科に関する調査のほかに、生活習慣や学校環境に関する調査を実施

### 2 平成31年度（令和元年度）の出雲市学力・学習状況調査の概要

(1) 実施期日 平成31年4月18日（木）19日（金）

(2) 対象学年及び教科

小学校4年生〔国語・算数〕 小学校5年生〔国語・算数・理科・社会〕

小学校6年生〔社会・理科〕

中学校2年生〔国語・数学・理科・社会・英語〕

※ 小学校第4・5学年及び中学校第2学年には、教科に関する調査のほかに、生活習慣や学校環境に関する調査を実施

### 3 公表校及び公表の方法

(1) 公表校 調査対象学年の児童生徒数が16人以上である学校

小学校 24校

今市小	大津小	塩冶小	神戸川小	高松小
長浜小	四絡小	高浜小	北陽小	神西小
平田小	灘分小	国富小	さくら小	東小
多伎小	湖陵小	大社小	荒木小	遙堪小
荘原小	西野小	中部小	出東小	

中学校 14校

第一中	第二中	第三中	河南中	浜山中
南中	平田中	向陽中	佐田中	多伎中
湖陵中	大社中	斐川東中	斐川西中	

(2) 公表の方法 出雲市ホームページ上で公表

(3) 各校の表の見方 成果を○、課題を●、改善策を□で示している

### 4 用語の解説

#### ① 「平均正答率」

各学年・教科において、児童生徒個人が正答した問題の割合（％）を国、県、市町村単位で平均した値。

#### ② 「観点」

指導や評価のために、児童生徒が身に付けた力を分析的に捉える視点。「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4つ。

#### ③ 「領域」

各教科の学習内容を系統的に示したもの。算数であれば「数と計算」など。

目 次

【小学校】

今市小学校	4
大津小学校	5
塩冶小学校	6
神戸川小学校	7
高松小学校	8
長浜小学校	9
四絡小学校	10
高浜小学校	11
北陽小学校	12
神西小学校	13
平田小学校	14
灘分小学校	15
国富小学校	16
さくら小学校	17
東小学校	18
多伎小学校	19
湖陵小学校	20
大社小学校	21
荒木小学校	22
遙堪小学校	23

荘原小学校	24
西野小学校	25
中部小学校	26
出東小学校	27

【中学校】

第一中学校	28
第二中学校	29
第三中学校	30
河南中学校	31
浜山中学校	32
南中学校	33
平田中学校	34
向陽中学校	35
佐田中学校	36
多伎中学校	37
湖陵中学校	38
大社中学校	39
斐川東中学校	40
斐川西中学校	41

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析及改善策

## 出雲市立今市小学校

### 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 6年生は、4教科とも全国・市の正答率を上回った。
- 5年生は、社会科で全国・市の正答率を上回った。
- 4年生は、国語の読む力に強みが見られた。
- 国語ではどの学年も共通して、話し手の意図を捉えたり、文章の内容を的確に押さえて読んだりする力に課題が見られた。
- どの教科でも、問題の意図に沿って、根拠を明らかにして文章を書いたり、説明したりすることに、共通して弱みが見られた。

### 2 学力調査結果分析及改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字の読みがよくできている。</li> <li>○登場人物の気持ちを読み取ることができている。</li> <li>●話の内容が事実・意見・具体例等の何に当たるか理解しながら聞く力が弱い。</li> <li>●文章のつながりを理解する力が弱く、設問に対して一問一答で答えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□結論から言う、根拠を示す等、話の組み立てを意識した話し方・聞き方を日常的に指導する。</li> <li>□補充学習の時間に、系統的に言語事項の指導を繰り返す。</li> </ul>
	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字の読み書きは概ねできている。</li> <li>○「書くこと」の内容で選択肢のあるものについては、適切な文章を選ぶことができる。</li> <li>●話し合いを聞き、発言内容の共通点を理解して、自分の考えを文章に表すことができていない。</li> <li>●書くことの内容を明確にし、指定された条件で文章を書くことができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□共通点や相違点、伝えたいことを知るキーワードは何かを意識した聞き方や、メモの取り方を指導する。</li> <li>□決められた条件の中で、伝えたいことをはっきりさせて、書く機会を増やし、指導する。</li> </ul>
	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる力がついている。</li> <li>○インタビュー形式の文章で、話し手の意図を捉えながら読み、自分の考えをまとめて書く力がついている。</li> <li>●既習漢字、特に同音異義語を使い分けて文中で正しく使う力が不足している。</li> <li>●複数の資料や説明の内容から、自分の考えを明確にして書く力に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□該当学年の漢字だけでなく、既習の漢字を定期的に復習する機会を設ける。</li> <li>□複数の資料のある説明的な文章に定期的に触れさせる。教科書教材だけでなく、配信プリント等も活用する。</li> </ul>
算数	4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○時刻と時間の計算は習得できている。</li> <li>○同分母の真分数+真分数=真分数の計算はできている。</li> <li>●分数のしくみや意味の理解が、不十分である。</li> <li>●わり算の問題場面を具体的にイメージする力が弱く、単位を正しく選べていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□図と関連つけた分数の計算練習に取り組む。</li> <li>□余りのあるわり算の文章題に定期的に取り組み、答えと余りの単位を理解できるようにする。</li> </ul>
	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○数直線や線分図を使って数量関係を捉える力、それをもとに立式する力がついている。</li> <li>●帯分数と仮分数の相互関係や分数での答え方の理解が不十分である。</li> <li>●図形の定義や作図の方法、算数用語の理解が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□分数の計算問題に定期的に取り組むとともに、帯分数⇔仮分数の関係を理解できるように指導する。</li> <li>□補充学習の時間に、既習の作図学習にも定期的に取り組む。</li> </ul>
	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計算の仕方やきまりを理解している。</li> <li>○例を参考にしながら解決の見通しをもち、自力で問題を解決することができる。</li> <li>●問題文や資料から、課題解決に必要な情報を読み取る力が不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□資料から必要な情報を取り出して解決する問題に、定期的に取り組む。</li> <li>□学習用語を用いて、考えの根拠を示しながら表現する学習を意識的に組む。</li> </ul>
社会	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「安全な暮らし-火事」に関する内容を正しく理解している。</li> <li>○基本的な資料の読み取りは、概ねできている。</li> <li>●資料から読み取ったことを既習事項と結び付けて考えたり、問いに答える形で表現したりする力に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□資料から読み取ったことを表現する経験を積む。</li> <li>□読み取ったことなどを友だちと交流する活動を通して、表現の仕方を知る。</li> </ul>
	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○与えられた資料から情報を読み取ったり、生活経験と照らし合わせて記述をしたりすることができる。</li> <li>●社会科用語を含む定着しているべき語彙が身につけていない。</li> <li>●日本の国土の特色を十分に理解できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□新出用語を簡単な言葉で説明する機会を増やして、定着を図る。</li> <li>□複数の資料から課題解決にふさわしい資料を選んで考える活動を多く設定する。</li> </ul>
理科	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「物の体積と温度」や「水のすがた」の学習内容をよく理解している。</li> <li>○気温の変化や水の温度の変わり方を表すグラフの読み取りができている。</li> <li>●理科の学習用語の理解が不十分である。</li> <li>●学習用語を用い、問いに答える形で、既習内容を正しく説明することができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□授業中、学習用語を使って説明する機会を増やし、定着を図る。</li> </ul>
	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「物のとけ方」や「ふりこのきまり」の学習内容をよく理解している。</li> <li>●学習用語や実験用具の使い方などについて、定着が不十分な単元がある。</li> <li>●資料から読み取ったことを既習内容とつなげて考えたり、問題文に沿う形で表現したりする力に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□授業の中で、理科用語を使って説明する機会を増やして、定着を図る。</li> <li>□複数の資料が示されている問題に、練習プリント等で慣れさせる。</li> </ul>

### 3 学習状況調査結果分析及改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○先生や友達の話をしっかり聞き、きちんとノートをとっていると感じている児童が8割以上いる。</li> <li>●質問や発表など、積極的な態度で授業に参加することができていないと感じている児童が多い(約5割)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□考えや思いを書いたり話したりする場を授業時間に意図的に設け、伝える力、比べて聞く力、練り上げていく力を育てる。</li> </ul>
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○宿題として出された課題は、きちんとできていると感じている児童が8割以上いる。</li> <li>●予習、復習を自主的に行うことができていると感じている児童は5割程度である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□宿題や自主学習の内容や方法について、職員間での情報交換を行い、個に応じた助言や肯定的な言葉がけを行う。</li> </ul>
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○すこやかチャレンジ週間・家庭学習パワーアップ週間の期間中には、生活習慣や家庭での学習習慣について自己目標を意識して取り組むことができている。</li> <li>●「地域行事に参加している」と答えた児童は6割程度である。</li> <li>●全国的に同様の傾向であるが、新聞記事を読む児童が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□親子で取り組む活動(すこやかチャレンジ・家庭学習パワーアップ週間・親子読書等)を活性化していく。</li> <li>□地域で企画される催しや行事への参加を積極的に呼びかける。</li> </ul>

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立大津小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

【全国】	○国語、算数とも全国平均並みであった。 ●国語では「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、全国平均を下回った。 ○算数では全ての領域で全国平均並みであった。 ○関心を尋ねる項目では、国語算数とも全国平均を上回った。その他の項目でも全国平均を上回った。
【出雲市】	○4年生は国語算数とも全国平均並みだった。 ●5年生は国語算数理科で全国平均を下回った。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○漢字の読み書き ●説明文の読み取り ●作文	□目的を明確に条件をつけるなどして、書く活動を充実する。 □多くの文章にふれるようにする。 □新聞、本、ポスターなど情報を読み取る活動を設定する。 □辞典を積極的に活用する。
	5年	○話の内容を聞き取る ○漢字を書く ○物語の内容を読み取る ●漢字を読む ●説明文の内容を読み取る ●ポスターを作る	□読んだり聞いたりした内容を要約し、情報を再構成しながら相手に伝える活動を行う。 □書く活動において、条件の内容を明確にしながら、その条件に応じて書く活動を行う。 □漢字学習においては、音読み、訓読みとも習熟を図る。
	6年	○目的に応じて書く ●説明文の内容を読み取る ●漢字を正しく書く ●文章を条件付きで書く	□読んだり聞いたりした内容を要約し、情報を再構成しながら相手に伝える活動を行う。 □条件付きで書く活動を充実する。 □繰り返しの練習だけでなく、生活の中で漢字を意識的に使うよう指導を行う。
算数	4年	○道のり ○小数、分数の計算 ●足し算・引き算・かけ算 ●理由の説明	□基礎基本の定着のために繰り返し指導を行う。 □理由や根拠を図式化・文章化して表す場を設定する。
	5年	○面積 ●億と兆・がい数の表し方 ●わり算 ●折れ線グラフと表	□除数が2位数以上のわり算では、計算会で仮商を立てる経験を重ねることにより、習熟を図る。 □棒グラフや折れ線グラフを正確に読み取り、分かったことを言語化したり記述したりする活動を行う。
	6年	○図形や数量についての知識・理解 ●理由の説明 ●目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだす	□理由や根拠を伝え合う活動を充実する。 □導入で、日常の事象を数学化する展開の授業を設定する。
社会	5年	○安全な暮らし ○ごみの処理と利用 ●地域の発展につくした人たち ●地図の見方	□地図記号や八方位について復習する機会を設ける。 □教科書と地図帳とを関連付けながら、地図を読み取る力をつける。 □社会科で使うことばの意味を社会生活と関連づけながら、理解できるようにする。
	6年	○日本の国土と人々の暮らし ○日本の農業と水産業 ●工業生産と貿易 ●わたしたちの生活と情報 ●私たちの生活と環境	□問題文と資料を関連付けて考え、資料の読み取りができるようになる。 □社会の用語を意識して確認する場を設定する。 □考えたり読み取ったりした内容を、相手に分かりやすく伝える活動を行う。
理科	5年	○1年間の動物のようす ○天気の様子と気温 ●電気のはたらきと気温 ●物のあたため方 ●動物のからだづくりと運動	□実験だけで終わらず、何が分かったのかを言葉や文章で的確に表すことができるようにする。 □身近な生活における科学の力を意識した授業展開を心がけ、科学的な知識が理解ができるようにする。
	6年	○植物の花のつくりと実 ○流れる水のはたらき ○物のとけ方 ●人のたんじょう ●顕微鏡の使い方	□理科の用語を意識して確認する場を設定する。 □実験内容の理解だけでなく、実験方法や用具の使い方についての理解も重視する。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○教科への関心を尋ねる項目では、肯定的な回答をした児童の割合が高い。 ○「授業の内容がよく分かる」という児童の割合は高いが、特に算数では難しさを感じている児童の割合も高い。 ●新聞の記事を読んでいる児童の割合が低い。 ●授業中、自分の考えや意見を発表することが得意でないという児童の割合が高い。 ●勉強に辞書を利用している児童の割合が低い。	□「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善プロジェクト事業」で全教職員で算数と道徳の授業研究に取り組み、授業改善を図る。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○家で読書をする児童の割合が高い。 ●家庭学習の時間については、1時間以上勉強している児童も多いが、1時間より少ない児童の割合が全国より高い。	□家庭学習の課題の与え方について、「学習の手引き」を活用して共通理解を図り、自主学習への取組も充実させる。 □「おすすめ本」を朝読書だけでなく、家庭にも広げる。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	●「地域の行事に参加している」という項目に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は全国平均を上回っている。	□地域との連携をより図り、情報の受発信を行うことで、家庭や地域とのつながりをさらに深めていく。 □「すこやか週間」の取組により、生活習慣の改善を図る。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立塩冶小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 4年生の国語・算数とも全国とほぼ同程度で、概ね良好な状況である。
- 5年生の国語・社会・理科は、全国とほぼ同程度で、概ね良好な状況である。
- 5年生の算数においては、特に小数に関する問題に課題が見られる。
- 6年生の社会・理科は、大幅に全国平均を上回り、大変良好な状況である。
- 6年生の国語・算数は、全国とほぼ同程度で、概ね良好な状況である。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○内容別では、「話し合いの内容を聞き取る」正答率は80%を超え、良好な状態である。 ●内容別では、「漢字を読む」「言葉の学習」「説明文の読み取り」「作文」の力が不足しているという結果が出ている。全般に言葉に触れる機会が少ないことが考えられる。	□「漢字を読む」「説明文の読み取り」の力の底上げとして、いろいろな種類の本を読むことのよさと楽しさを意識づける。 □「作文」「言葉の学習」の力の向上に向けて、日記指導や国語単元での指導や文づくりの指導を重視して行い、活用の力に結び付ける。
	5年	○「話し合いの内容を聞き取る」、「言葉の学習」では大変良好な結果である。 ●「説明文の内容を読み取る」では、段落のまとまりを理解して、文章の内容を的確に読み取る力に課題がある。	□説明文の文章構成、要旨、要約、キーセンテンス、キーワードなど読み取る技能を身に付けさせる。 □行、字数、段落数など条件をつけて、自分の考えを書く。資料から読み取ったことを入れて、自分の考えが明確になるよう具体的に書く力をつける。
	6年	○すべての領域で、県・全国の平均正答率を上回っている。 ●資料や文章の読み取りをもとに文章を書く設問の正答率が高いが、同設問に対して無回答だった児童も15%近くいた。	□様々な文章を読み取り、自分の考えや感想をまとめて書く活動を取り入れ、読解力の育成に取り組む。 □書いた文章が伝わりやすい構成や文と文のつながりなど、段落や接続語を意識した作文指導を行う。
算数	4年	○全国より正答率がやや高く、良好な状況である。特に「大きい数・小数・分数」「長さ・重さ」「円と球・三角形」の正答率は80%を超え、良好な状況である。 ●内容別の「かけ算」は、全国よりも正答率が高いが、他の内容と比較するとよい状況とは言えない。	□たし算・ひき算については、毎週実施している九九の100ます計算に加えて、たし算・ひき算の計算も行うような手立てを実施する。 □社会の資料の読み取りをいねいに指導するなど、グラフ等を読み取る力を日常的に積み上げていくように意識して指導する。
	5年	○小数の加法・減法、概数の表し方に成果が見られる。 ●わり算では、数直線などを使って文章に合った立式をすることに課題がある。 ●折れ線グラフと表の読み取りと説明に苦手意識が見られる。	□図・表・グラフをしっかりと読み、その図・表・グラフは何を意味しているのか、児童が算数的な言葉を使って説明できるようにする。 □図形の意味や成り立ちを算数的な言葉を使って、児童が説明できるようにする。大切な用語の復習を繰り返す。
	6年	○すべての領域で、県・全国の平均正答率を上回っている。 ●計算の仕方や式の意味について記述したり、選んだりする設問に対して正答率は低く、無回答も多い。 ● $6 \div 0.5 \times 2$ の正答率は60%であった。計算のきまりを間違えた児童が26%もいた。	□立式の意味や自分の解き方について順序立てて説明したり、友達の考えを聞いたりする活動を取り入れる。 □朝学習などの時間を使い、既習事項の復習に取り組む。
社会	5年	○それぞれの領域の「資料」を読み取る力に成果が見られる。 ●「地図の見方」の2地点の距離を求めたり、断面図を読み取る力に課題がある。 ●「先人の働き」の資料を読み取り、願いについて考え、表現する力に課題がある。	□教材として取り上げられている場所を確認したり、距離を測ったり(出雲市からなど)する活動のために地図を活用する。 □思考・表現する力をつけるために、単元のまとめの「やってみよう」をやり、書き方を話し合う。
	6年	○すべての領域で、県・全国の平均正答率を上回っている。基礎、活用問題の正答率も高い。30問の設問のうち、目標値を下回ったのは1問だった。 ●グラフや資料の読み取りや近年起こった自然災害についての正答率が低かった。	□社会科だけでなく、他教科においてもグラフや資料の特徴や性質について読み取るような学習活動を取り入れる。 □ニュースや新聞等で話題になっていることを紹介し、今起こっている出来事や事象、時事問題について関心をもたせる。
理科	5年	○「植物の成長」のへちまの中に種ができることや「月と星」の星座早見板の使い方に成果が見られた。 ●「自然の中の水」の蒸発についての理解に課題が見られる。 ●各単元の推測、説明するような設問の無回答率が10%を超えている。	□4年生の内容で定着が不十分な内容は、5年生の関連内容で再度指導する。 □各単元の現象、変化、改善点等を記述で説明する力をつけるために、単元のまとめの「考えよう」の記述式問題をやり、書き方を話し合う。
	6年	○すべての領域で、県・全国の平均正答率を上回っている。基礎、活用問題の正答率も高い。32問の設問のうち、目標値を下回ったのは2問だった。 ●顕微鏡の使い方、電磁石のはたらきやふりこのきまりについての記述問題の正答率が低かった。	□既習事項について随時、振り返りや現在の学習と関連して復習を行う。 □実験の結果や単元のまとめなど、わかりやすく自分の言葉で書いたり、発表したりする活動を取り入れる。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○話を聞く、習ったことを復習する割合は、全国よりもやや高く、知識の習得に対しての意欲は高い方であると考えられる。 ○授業において課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと答えた児童の割合は高く、主体的に授業に取り組もうとする姿勢が見られた。 ●わからないことを質問したり、辞書を引いて解決したりする割合は全国よりも低く、深く探求しようとする意欲が低い。	□挙手だけでなく、意図的指名をして、発言することに慣れさせていく。ペアやグループ学習を意図的に取り入れ、少人数の中での発言回数を増やしていく。 □課題に対してまず個人で考え、その後意見交換したり、根拠を基に議論したりする学習を多く取り入れる。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○宿題をきちんとする、自分から進んで学習する、計画を立てて学習する割合は全国よりも高く、学習の見通しをもって取り組もうとする意欲をもっていると考えられる。 ●図書館を利用したり、新聞の記事を読んだり、参考書などを使用したりするような学習をしている割合は、全国よりも低く、新たな知識を得ようとする意欲はやや低いと考えられる。	□家庭学習の充実(書き方、量、内容、評価)をはかるために、学習計画を立てて、取り組む経験を低学年から発達段階に合わせ指導する。 □図書館を活用した学習について、授業の中で取り扱う時間を増やすように工夫をする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○家族との会話は全国よりも高く、生活や学習の仕方について家族の支えが大きな役割を果たしていると考えられる。 ○外国人と友達になりたい、外国について知りたいと考えている児童の割合は高い。外国籍の児童も多く児童にとって身近な存在でもあり、外国への関心も高いと思われる。 ●家の手伝いをしたり、地域の行事に参加したり、困っている人の手助けをしたりする割合は、全国よりもやや低い。	□メディアアンケートを実施して実態を把握し、家庭と連絡協力して取り組む。 □学習内容の活用・補充・深化につながるように、学んだことを家の人に紹介したり説明したりすることを促す。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立神戸川小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 国語においては、全体的には4年、6年は市平均、県平均とほぼ同程度で、おおむね良好の状況である。
- 国語においては、4年は活用に課題があり、5年は基礎に課題がある。
- 算数においては、全体的にはどの学年も市平均、県平均とほぼ同程度で、おおむね良好の状況である。
- 算数においては、4年、5年は活用に課題がある。
- 社会においては、全体的には5年6年ともに市平均・全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況である。
- 理科においては、全体的には5年は市平均・全国平均とほぼ同程度で良好な状況であり、6年は全国平均を上回りたいへん良好な状況である。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○説明文、物語文の読解はよくできている。 ●題意をとらえ読んだり書いたりすることができにくい。	□文章の大事なところを読み取るために要約学習に取り組ませる。 □文の組み立てを考えて、短作文を書く活動に取り組ませる。
	5年	○聞き取りはできている。 ●条件が多くある問題を読むことに抵抗がある。 ●漢字や言葉の意味の理解に課題がある。	□書き取り会を計画的に実施し、定着を図る。 □読み取ったことを自分でまとめる要約学習に定期的に取り組ませる。
	6年	○文章を読み取り、問題を解くことはできている。 ●条件に合わせて、制限字数に合わせて文にまとめることに課題がある。 ●漢字の持つ意味を分かり、文字を書くことができていない。	□同音異義語では、意味や成り立ち、使い方を意識して覚え練習する。 □条件に合わせて、文にまとめる練習する機会を設ける。
算数	4年	○基礎的な計算問題はできている。 ●「□を使った式」や理由を説明する問題に課題がある。	□題意を考えながら問題文を読み取り、絵、図、グラフ、言葉、式などに表す活動を多く取り入れる。 □適用問題や発展的な問題にも多く取り組ませる。
	5年	○四則計算(計算のきまり)や数量関係(変わり方)はよくできている。 ●「いろいろな形」、「折れ線グラフと表」に課題がある。 ●角の大きさの分度器の使い方の定着に課題がある。	□計算ドリルやプリントで反復学習を行い、問題に多く取り組ませる。 □計算会を計画的に実施し、定着を図る。
	6年	○県平均をやや上回っている。 ●説明問題が苦手、問題によっては無解答もある。 ●問題の形に慣れておらず、解答のパターンをつかめていない。	□式を読むなど、人の説明を聞いて理解できるような活動を取り入れる。 □いろいろな形式の問題に慣れさせる。
社会	5年	○安全を守る活動の学習は良くできていた。経験に基づいた学習は良く理解している。 ●読解力が必要な問題や論理的に答える問題に課題がある。 ●資料がたくさんある問題は、情報の取舍選択ができにくい。	□生活経験と重ね合わせて、社会科の用語や関連語彙を覚えられるようにする。 □キーワードとなる言葉(社会用語)を授業でしっかりとおさえる。
	6年	○基礎的な内容は理解している。 ●複数の資料を題意に関連させて読み取ることに課題がある。	□生活経験と重ね合わせて、社会科の用語や関連語彙を覚えられるようにする。 □問題の解答の方法について、テスト直しなど利用して学ばせる。
理科	5年	○基礎的な内容は理解している。 ●物質・エネルギーの分野に課題があり、学習したことと日常生活が結びついていない。 ●言葉で理解できていても、現象をイメージすることができにくい。	□言葉と事象を関連付けて考えられるように、自分で言葉にしたり、図や表にまとめたりする活動を取り入れる。
	6年	○基礎的な内容は理解している。 ●用語を使って説明することに課題がある。	□習った言葉をそのまま使おうとするのではなく、自分が理解した言葉で話したり、書いたりする活動を取り入れる。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○話をしっかり聞いたりきちんとノートをとることはよくできている。(95%) ●分からないことを質問したり、自分の考えを進んで話したりすることには、個人差がかなりある。	□意欲的に取り組める学習のめあてを設定し、めあてに合った学習活動を取り入れる等、学習過程を工夫する。 □自分の考えをきちんと持つことができるよう支援を工夫し、伝えあう意欲を育てる。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○家庭学習にきちんと取り組むことはできている。(98%) ●新聞記事を読んだり、学習に辞書やパソコン、図書館を利用したりすることが少ない。	□課題の見られた教科の事項が改善するような内容を家庭学習に出題する。 □自学・読書を推奨し、自分に必要な学習内容に工夫して取り組む力や態度を育てる。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○起床時刻(80%)、睡眠時間(80%)、朝ごはん(95%)等は全国平均の数値であり、基本的な生活習慣は、身につけている児童が多い。 ●上位層に比べて中・下位層は、進んで勉強に取り組むことや時間を決めてテレビを見ることに課題がある(15%~20%の差がある)。	□家庭学習の取り組みが充実するように、懇談や学年・学級だより等で趣旨や具体的な進め方について発信する。 □メディアの使用などについて、各家庭でルール作りが行われるように積極的に呼びかける。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立高松小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○4年 国語・算数、5年 国語・算数・社会・理科、6年 算数・社会・理科は、概ね良好である。昨年度と比較すると、特に6年の社会・理科が伸びている。  
 ●全学年、問題の情報量が多いと正答率が下がる傾向がある。  
 国語 ○4・5年生は、言語についての知識・理解・技能が良好である。●全学年とも書く能力に課題が見られた。  
 算数 ○全学年、数量や図形の技能が良好である。  
 社会 ○5年生、6年生とも全観点で全国平均を上回っている。特に、観察・資料活用の技能が高い傾向がある。  
 理科 ○5年生は、観察実験の技能、6年生は科学的思考・表現が良い傾向がある。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○漢字の読み書きが定着している。 ●主語と述語の関係や段落の役割など文の構成に対する理解が不十分であった。 ●時間不足も考えられるが、作文の問題において、約30%の児童が無解答であった。	□主語・述語を意識して、文章を読み取ったり、書いたりする学習活動を行う。 □音読や読書活動を通して活字にたくさん触れることで、文章を読むことへの抵抗をなくし、スピード感をもって読み取らせる。
	5年	○漢字の読み書きが定着している。 ○修飾語や指示語などの使い方について理解している。 ●段落のまとまりを理解して、文章の内容を読み取ることに課題が見られた。 ●時間不足も考えられるが、作文の問題において、約30%の児童が無解答であった。	□段落のまとまりや構成を意識しながら、物語文や説明文の内容を読み取る学習活動を行う。 □感想や授業の振り返りを短時間で書く活動を通して、書くことへの抵抗が少なくなるようにする。
	6年	○読むことに関する問題は、よくできている。 ●漢字を書く力が定着していない。 ●文章を聞いたり、読んだり、与えられた条件の中で自分の考えをまとめて書くことに課題がある。	□書き取り会等を利用して、漢字の定着を図る。 □文字数や使う語句を指定するなどの条件のもと、短作文を書く活動を定期的に取り入れる。
算数	4年	○大きい数、小数、分数、かけ算の計算がよくできている。 ○長さ・重さといった量と測定の問題や、円と球・三角形といった図形の問題がよくできている。 ●1分=60秒と考え直して問題を解いていくことが苦手であった。	□日常生活の中で時間や時刻を意識して生活させる。 □自分の考えを式や図などを用いて書いたり、説明する機会を設け、理解を深める。
	5年	○わり算、分数などの計算や計算のきまりと変わり方の理解が良くできていた。 ●億と兆やがいの数の表し方の問題に課題が見られた。 ●折れ線グラフと表に関する問題は、情報量が多く、読み取りに課題が見られた。	□計算会等を利用して、基礎・基本の積み上げと定着を図る。 □情報量の多い問題を正しく読み取るために、ペアやグループによる話し合い活動を取り入れ、根拠を明確にしなが問題を説いていく学習活動を取り入れる。
	6年	○図形の定義や性質について理解している。 ○基礎的な計算力が身につけている。 ●複数の資料を読み取る問題や解答に理由を記述する問題に課題が見られた。	□ノート等に自分の考えを書く学習課題を取り入れる。 □友達が書いた式や図を使って、どのような考え方を理解する学習活動を行う。
社会	5年	○交通事故と事件やごみの処理と利用については、見学を通してよく理解している。 ○地図の見方や県の地形の特徴についてよく理解している。 ●2つの資料をもとに、決められた言葉を用い、考えたことを表現する問題は、無解答が約30%いた。	□資料から何を読み取れるのか考えさせたり、読み取ったことをもとに自分の考えをまとめさせたりするような学習活動を取り入れる。
	6年	○全て領域・観点でよく理解している。 ○世界や日本の国土、日本の農業や水産業などをよく理解している。 ●自分と身近でない工業に関する問題などに課題が見られた。	□身近でないものにも関心をもてるように、映像資料などを使って授業する。 □テレビや新聞などのニュースで知った情報をまとめたり、友だちの前で紹介したりする場面を取り入れ、いろいろな出来事に関心をもたせる。
理科	5年	○自分たちの身近にある動物や植物の様子や天気の様子と気温の関係についてよく理解している。 ●実験しても、目に見えない事象(電気のはたらきなど)についての知識・理解について課題が見られた。	□予想→実験・観察→考察という問題解決の流れや、実験・観察の条件設定のねらいを意識させながら授業を進める。結果から分かることを自分の言葉でまとめる場面を設定する。
	6年	○全体的によく理解できている。 ●顕微鏡の扱い方に関する問題に課題が見られた。	□予想→実験・観察→考察という問題解決の流れや、実験・観察の条件設定のねらいを意識させながら授業を進める。 □顕微鏡の扱い方を一人ひとりが習得できるようにする。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○どの学年でもそれぞれの教科でしっかりと話を聞いたり、ノートをとったりしている児童が多い。 ○4、5年生で、話し合いで自分の考えを進んで話したり、相手の話をしっかり聞き取ったりしている児童が多い。 ●4、5年生で授業で分からないことがあれば先生に質問しているという児童が全国平均より下回った。	□本校の校内研究で「学び合いのある授業づくり」に取り組んでいる。分かる児童も分からない児童も全員が参加して、互いの考えを伝え合ったり、分かるまで説明したりするなどして、学習意欲を高め、個々の学力向上につながるよう努めていく。また、分からないことがあれば、放っておかず教師に聞くよう促していく。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○どの学年も、自分で計画を立てて勉強しているなどの家庭学習の質問に対して全国平均を上回っており、学習習慣が身につけている児童が多い。 ●4・5年生において、宿題は大方取り組んでいるが、予習に取り組んでいる児童は、多くの教科で50%程度で全国平均を下回った。	□家庭学習の継続と充実を図り、基礎学力を定着させる。 ・「10分×学年+10分」の家庭学習時間の確保を意識させる。 ・家庭学習の手引きを全家庭に配布する。 ・学年ごとに取り組む自主学習や課題プリント、ドリル学習等によって、予習や復習の充実を図る。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○自分の住んでいる地域が好きと答えた児童が9割いた。 ○どの学年も、自分には良いところがあり、家族や友達、先生と感じている割合は全国より多いか同程度であった。 ●朝食をきちんと食べている児童は、4、5年生は約94%程度で全国並みだったが、6年生は約89%であり、全国平均より約6%下回った。	□本校は、様々な学習活動において地域の方に講師やボランティアとして協力していただいている。また、PTA活動も熱心に行われている。このような支援を今後も継続し、連携を図る。 □「生活ふりかえり週間」の際に、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、家庭学習の時間の確保やメディアとの関わりについて、家族で話し合ってきたり決めて実践する。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立長浜小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 全国学力調査の6年生の国語及び算数において、全国平均を上回っている。
- 市学力調査の4年生の国語において、市平均を上回っている。
- 市学力調査の4年生の算数、5年生の全教科、6年生の理科、社会において、市平均を下回っている。
- 家庭学習の時間、読書の時間、新聞や辞書に触れる時間が市平均や全国平均を下回っている。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○漢字の読み書き、言葉の学習など、基礎基本の力が身についている。 ●書くこととすることの中心を明確にし、理由や事例を挙げたりして文章を書く力を高める必要がある。	□条件に合わせて書くことを継続して取り組む。 □補充学習の時間を活用して、資料を読んで要約したり、自分の考えを述べたりする問題に取り組むようにする。
	5年	○話し方の工夫に注意して聞くことができる。物語、説明文の内容を読み取る力が身についている。 ●漢字の読み書きの力が身につけていない。 ●条件に従って字数を意識して書く力を高める必要がある。	□漢字学習では、音読、国語辞典や漢字辞典を活用しての意味理解、書取会に向けての反復練習等、様々な形で取り組むことで定着を図る。 □様々な条件に合わせて書くことを継続して取り組む。
	6年	○全体を通して、概ね平均正答率を超えている。 ●目的や意図に応じて、自分の考えやその理由を表現する力、要約する力を伸ばす必要がある。	□補充学習の時間を活用して、資料を読んで要約したり、自分の考えを述べたりする問題に取り組むようにする。 □国語辞典や漢字辞典を活用したり、読書習慣を見直したりして、言葉や世の中の出来事への関心を高めていく。
算数	4年	○基礎的な計算力が身についている。 ●作図、グラフの読み取り、工夫した計算の仕方やグラフの書き方などの説明(記述)する力を高める必要がある。	□作図やグラフの読み取りなど、計算以外の単元も反復学習する。 □問題文を読み取る力を付けるために、補充学習の時間を活用して、読解力を伸ばす問題に取り組むようにする。
	5年	●四則計算の定着を図る必要がある。 ●問題文を正確に読み取る力を伸ばす必要がある。 ●作図、割り算の仕方の説明に課題がみられる。	□問題文を読み取る力を付けるために、補充学習の時間を活用して、読解力を伸ばす問題に取り組むようにする。 □割り算を中心に反復練習することで四則計算の定着を図る。
	6年	○前年度までに学習した四則計算や図形の性質や特徴を概ね理解している。 ●資料から必要な情報を読み取り、立式したり、答えたりする力を伸ばす必要がある。	□問題文を読み取る力を付けるために、補充学習の時間を活用して、読解力を伸ばす問題に取り組むようにする。 □適用題への取り組みを充実させることで、発展活用力を伸ばしていく。
社会	5年	○住みよいくらしを支える仕組みに関する学習内容が概ね定着している。 ●資料から必要な情報を読み取る力を伸ばす必要がある。	□地図やグラフ、表に触れる機会を多くもち、資料の見方を教えたり、資料を比較・関連して読み取る練習を取り入れたりする。 □社会科用語の意味理解を図ったり、自分の考えを社会科用語を使って文章にまとめたりする場面を意図的に設定した授業を行うようにする。
	6年	○日本の主な工業に関する学習内容が概ね定着している。 ●複数の資料から必要な情報を読み取る力を伸ばす必要がある。	□資料から分かったことを社会科用語を使ってまとめたり、社会事象の中の問題解決に向けて話し合ったりする場面を意図的に設定した授業を行うようにする。 □グラフや図などの資料を読み取ったり、活用したりしながら、自分の考えを表現する活動を取り入れるようにする。
理科	5年	○金属の体積変化に関する学習内容が概ね定着している。 ●文章や図を読み取る力、理科用語を理解活用する力を伸ばす必要がある。 ●植物や動物の様子に関わる知識・理解が十分定着していない。	□実験の結果から分かったことを理科用語を使ってまとめたり、伝えたりする場面を意図的に設定した授業を行うようにする。 □図やグラフに触れる機会を多くもち、資料の見方を教えたり、資料を比較・関連して読み取る練習を取り入れたりする。
	6年	○水の働きや人体に関する学習内容が概ね定着している。 ●文章や図を読み取る力、理科用語を理解活用する力を伸ばす必要がある。	□たくさんの情報の中から必要なことを選んで考えたり、実験の結果から分かったことを理科用語を使ってまとめたり、伝えたりする場面を意図的に設定した授業を行うようにする。 □これまでに学習したことを基に、身の回りのことについて論理的に考える場面を授業の中に設定するようにする。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○自分の力を伸ばしたいと向上心をもっている児童が多い。 ●話し合いを通して考えを深めることや、学んだことを他に生かす良さを感じることができるとする授業づくりに努める必要がある。 ●辞書を活用する場を増やしたり、読書習慣を見直したりする必要がある。 ●地域や社会の出来事に関心が向くように新聞やニュースを活用する必要がある。	□授業の中で、めあての設定とまとめ、振り返りを行い、1単位時間での変容が実感できるようにしていく。 □授業の中で、自分の考えや思いを伝え合える少人数対話を取り入れる。 □「おすすめの本リスト」を全児童に配布し、本への関心を高める。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○宿題には前向きに取り組んでいる児童が多い。 ●家庭学習で予習に取り組む等、自主学習を充実させる必要がある。	□家庭での学習時間、内容・質の改善を図る。意欲的に取り組めるように、自主学習のモデルを示したり、「家庭学習の手引き」をもとに呼びかけたりする等、積極的に情報発信・啓発を行う。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○早寝早起き等、生活リズムが整っている児童が多い。 ○全国学力調査において「今住んでいる地域の行事に参加している。」「地域のボランティア活動に参加したことがある。」と回答している児童が多い。 ○市学力調査において「自分が住んでいる地域が好きである。」と回答する児童が多い。 ●起床時刻が定まっていない児童、メディアと接触が多い児童、規範意識が低い児童が見られる。	□メディア利用や情報モラルについて意図的な教材を取り入れて指導し、ダウンメディアを呼び掛ける。 □学校行事での取り組みを具体的に評価する。認める。 □委員会活動と連携して子ども発信で生活目標を設定し評価する。認める。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立四絡小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○4年生の国語においては、聞き取りと読み取りの問題において、全国平均を上回る良好な結果である。●記述問題において、やや課題が残った。●4年生の算数においては、基礎的な力に課題がある。そのことが順序立てて考える問題にも影響しているため、知識・理解面と技能面を今後伸ばしていく必要がある。○5年生の国語においては、概ね全国平均以上で良好な結果である。●漢字を読むことと書くことにやや課題がある。○5年生の算数においては、全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好である。●分数の問題に課題がある。○5・6年の理科・社会においては、概ね全国平均を上回る良好な結果である。○6年生の国語においては、全国平均を上回る良好な結果である。○6年生の算数においては、概ね全国平均を上回っており良好な結果である。●6年生の国語・算数において記述式の問題にやや課題がある。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○「話し合いの内容を聞き取る」正答率が高い。 ●「漢字を書く」力や「作文」の力に課題がある。	□3年時までに習った漢字の復習を家庭学習に取り入れるなどしながら、繰り返し復習を行う。 □語彙力を増やし、言語についての知識・理解・技能を高めるため、あらゆる教科の中で辞書を引く習慣を身につけられるようにする。
	5年	○「話し合いの内容を聞き取る」力や「物語や説明文を読み取る」力が定着しつつある。 ●「漢字を書く」「漢字を読む」力に課題がある。また「作文」する力にも課題がある。	□漢字の読み書きの力を定着させるための「書取会」を月2回とし、反復的な家庭学習にも目標をもって取り組めるようにする。 □自分の考えを書いたり、筆者の意見をまとめるような活動を授業の中に計画的に設定し、書く習慣を身につけられるようにする。
	6年	○「話すこと・聞くこと」「読むこと」の正答率が高い。 ●「書くこと」の正答率にやや課題がある。また記述式の設問に、無回答が10%を超えるものがある。	□学校図書館や新聞を活用した授業を計画的に取り入れ、いろいろな読み物に触れる機会を確保する。 □書く力を高めるために、主語・述語の関係など、文法を意識した指導を繰り返す。また、家庭学習においての日記等を通して、書く習慣を身につけられるようにする。
算数	4年	○「時刻と時間」や「長さ・重さ」の正答率が高い。 ●「大きい数・小数・分数」「たし算・ひき算」等の基礎的な力に課題があることが、順序立てて考える問題にも影響している。	□数の概念を身につけさせるために、具体物を用いた操作活動の機会を必要に応じて設ける。 □問題場面を把握する方法を習得させるために、図に表す方法を定着させ、思考したことを順序立てて説明する時間を計画的に設定する。
	5年	○「小数」や「角の大きさ」の正答率が高い。 ●「億と兆・概数の表し方」や「分数」の正答率に課題がある。 ●全体的な正答率に二極化が見られる。	□分数の学習において、問題を図や表に置き換えることを授業の中で繰り返すことで、分数を感覚的に捉える力を身につけられるようにする。 □学習内容の定着が難しい児童が授業に主体的に参加できるよう、児童同士での教え合いの時間の確保、個々の考えを視覚的に捉えさせるためのICT機器の有効活用を図る。
	6年	○「数量や図形」の正答率が高い。 ●記述式の設問に、無回答の児童が10%を超えるものがある。	□課題についてペアで説明し合ったり、図や言葉で書いたりする時間を確保することで、順序立てて説明する力を身につけられるようにする。 □ICT機器を使って、考えたことを提示しながら説明するなどし、互いの考えのよさに気づくことができる場面を増やすことで、算数の楽しさを味わえるようにする。
社会	5年	○全体的に全国平均を上回り、良好な状況である。 ●「地図の見方」の正答率がやや低い。	□1時間の授業で学んだことを、自分の言葉でノートに整理したり、それを全体に広げたりする習慣を身につけさせることで、児童のより主体的な授業参加を目指す。 □方位の認識や等高線の理解に課題が見られるため、授業の中で積極的に地図帳を活用する。
	6年	○全体的に全国平均を上回り、良好な状況である。 ●「日本の食糧生産」の正答率がやや低い。	□「割合」の意味理解が乏しいことが設問の正答率に影響している。算数の授業で割合の学習や数値の読み取りに力を入れる。 □文章をしっかり読んで設問にこたえる習慣を身につけさせるため、教科書でポイントになる部分に線を引くなど、正確に読み取る習慣をつけられるようにする。
理科	5年	○全体的に全国平均を上回り、良好な状況である。「関心・意欲・態度」や「観察・実験の技能」も高く、意欲的に学習に取り組もうとする児童が多い。 ●「1年間の動物や植物の成長」や「月と星」の正答率にやや課題がある。	□科学館学習では様々な実験を見ながら実感を持った学習ができています。学んだことを自分の言葉でノートにまとめながら、さらに深い理解へとつなげていくようにする。 □変化に気づき、その要因を探っていくという探究活動を、児童が主体となることができるよう、出てきた疑問を大切に授業を構成する。
	6年	○全国平均を上回り、たいへん良好な状況である。 ●顕微鏡の使い方等、実験器具の操作に慣れていない児童がいる。	□科学館学習のみで単元の学習を終えるのではなく、学んだことを自分の言葉でまとめるような学習活動を取り入れることで、さらに理解を深める。 □可能な限り一人一実験を目指し、実験器具の扱いに慣れられるようにする。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「学級の友だちと話し合う活動をよく行っていた」という項目に「とてもあてはまる」と回答した児童が出雲市平均より4ポイント高い。 ●「授業中に自分の考えを発表することが得意である」という項目に「とてもあてはまる」と回答した児童が出雲市平均よりおよそ2ポイント低い。 ●「学習のねらいやめあてが黒板に示されていた」「授業の終わりに内容を振り返る活動をした」という項目に肯定的な回答をした児童の割合が低い。	□自分の考えを発表するよさを感じさせるため、担任が児童同士の調和的な関係づくりや学級の明るい雰囲気づくりに継続して努める。 □児童が1時間の授業で何を学んだのか、各自でまとめる時間を確保し、主体的に学びに向かう姿勢を養う。そのために、教師が児童に明確なめあてをもたせた授業実践を行う。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○5年生は「家の人から言われなくても、進んで勉強している」という項目が全国平均より12ポイント高い。さらに「自分で勉強の計画を立てて、勉強している」という項目が4.5年生ともにおよそ6ポイント高い。 ○「家では、勉強する場所を決めている」という項目が全国平均よりおよそ5ポイント高い。 ●「新聞の記事を読んでいる」という項目が全国平均より10ポイント以上低い。 ●平日に1時間以上家庭学習をする時間が出雲市平均と比べておよそ7ポイント低い。	□「家庭学習の手引き」を基本とし、児童が家庭学習に取り組む習慣を定着させる。また、参考になる実践例を紹介するなどし、家庭学習の質の向上を図る。 □メディア教育を計画的に行い、家庭でのメディアに関するルールの明確化を喚起する。併せて、家庭における読書活動や新聞を読む活動への推進に向けた啓発を行う。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○生活科・総合的な学習の時間における校内研究を通して、地域の「ひと・もの・こと」を活用した学習活動から地域よさや課題に関心をもって。 ○「地域や社会の出来事、問題に関心がある」という項目に「とてもあてはまる」と回答した児童が、出雲市平均よりおよそ3ポイント高い。 ●「家の人とは、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか」という項目に肯定的な回答をした児童が、出雲市平均よりおよそ3ポイント低い。	□今年度本校で作成した1年生における「スタートカリキュラム」をもとにしながら幼児小の連携を図り、基本的な生活習慣を確立させることで小学校初期段階からの学力向上を目指す。 □生活科・総合的な学習の時間において、地域の「ひと・もの・こと」を活用した実践を続けることで、地域との連携を密にしなが、児童のふるさとへの愛着を育てる。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立高浜小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○算数科については、全学年で「基礎」・「活用」問題ともによく解けており、学年によっては平均正答率が市・全国より、かなり高かった。領域別の正答率に偏りはなく、学習した内容を大体理解できていた。観点別に見ると、技能や知識・理解の正答率が高かったため、これらの基礎力をもとに数学的思考力や応用力をさらに伸ばしていく必要がある。また、5年生及び6年生について、昨年度調査結果の課題として挙げていた数量関係と図形の領域について、領域別の平均正答率が大きく向上しており、指導の成果が感じられた。

●国語科については、学年によって市・全国の平均正答率との差が見られた。条件に合わせて表現(作文)する問題での正答率は全体的に低く、全学年共通の課題である。

○社会科及び理科について、校内平均正答率は、市・全国の結果と比べると高かった。観点別に見ると、社会科は知識・理解、理科は技能の平均正答率が市・全国よりもかなり高かった。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○「話す・聞く」の問題の聞き取りの問題で正答率が高かった。 ●漢字の読みは市・全国平均並みの正答率だが、漢字を書く問題で正答率が低かった。 ●適切な情報を読み取り、条件に合わせて表現(作文)することに課題が見られた。また、作文に関する問題の無回答率が4割を超えていた。	□授業や家庭学習等で既習漢字を定期的に復習し、定着を図っていく。 □書く活動を日常的に取り入れていく。作文では、テーマや条件を決めて書く活動を取り入れる。
	5年	○漢字の読みについては、目標値を達成していた。 ○物語文や説明文の読解について、心情や内容を読み取ることができていた。 ●適切な情報を読み取り、条件に合わせて表現(作文)することに、課題がみられた。書く力については個人差が大きかった。	□授業の中で、キーワードとなる言葉を見つけたり、文章の要旨を読み取ったりする活動を取り入れる。 □字数やキーワードなどの条件を設け、読み取った内容や自分の考えを表現する機会を継続的に設ける。
	6年	○平均正答率、各領域(話す聞く・書く・読む・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)、各問題形式別解答(選択式、記述式)、いずれもすべて全国の平均正答率よりかなり高かった。細かく問題を見ると、ことわざに関する内容のみ、全国の平均正答率とほぼ同値であった。	□読書活動、調べ学習や各教科における新聞作り、学んだことをまとめるノートや作文・意見文など、現在の学習を継続していく。 □ことわざや慣用語、古文や漢文など、児童の日常生活から少し発展した言葉や活字に触れる機会を多くしていく。
算数	4年	○計算問題や数の仕組みなどの基本的な問題は正答率が高かった。 ○はかりや三角形の作図など算数的活動を多く行った内容は良く解けていた。 ●活用力を問われる問題や、文章が長い問題は正答率が低かった。 ●理由を説明する問題の無回答が目立った。	□問題をイメージさせるための手立てとして、教直線や線分図などのツールを使えるようにするために授業中にも積極的に活用する。 □毎時間自分の考えをノートに書く時間を確保するとともに、一単元のどこかで必ず「表現」をねらいとした授業を行う。
	5年	○「基礎」は、市より高く、「活用」は全国・市よりも平均正答率が高かった。 ●角の問題や作図の問題は、正答率が低く、図形の理解が課題と感じた。 ●割り算など基本的な問題での正答率も低かった。	□基礎を確実に定着させるために、適宜復習問題に取り組む。 □問題をイメージさせるための手立てとして、具体物を用いた活動を取り入れ、量感や図形の理解につなげる。 □視覚的な支援をするなど、授業づくりの工夫を入れていく。
	6年	○全領域の平均正答率が県・全国よりも高く、全体の平均正答率も市・県・全国よりかなり高かった。これまで図形領域に課題が見られたが、改善されていた。 ●条件付き記述問題において、正答率が低かった。解答類型を分析すると、指定された用語を使用して記述できていたが、それらを用い結論付けて文章をまとめることができていなかった。	□立式や解法について接続詞や学習用語を用いながら、自分の考えを整理して書く活動、さらには他者に説明する活動を意図的に取り入れる。 □発展的・応用的に考えたりする問題を取り入れ、基礎力及び活用力が身に付くように繰り返し指導に当たる。
社会	5年	○「基礎」「活用」の平均正答率が全国よりも高かった。記述形式の回答にも意欲的に取り組んでいた。 ●似たような語句を正しく覚えることができず、誤答につながっていた。 ●問題の後半になるにつれ、無回答率が高くなっており、時間内に解き切ることができていなかった。 ●グラフ、複数資料、長文の資料、既習事項を活かした資料の読み取る力に課題が見られた。	□授業中に資料やグラフについて個人で読み取る時間を設ける。また、国語科や算数科、図書館活用等と関連させて資料やグラフの読み取りを指導する。 □授業内容に合わせて、既習事項を振り返りながら指導する。
	6年	○「基礎」「活用」ともに市・全国の平均正答率よりも高かった。短答・記述とも正答率が高く、意欲的に取り組んでいた。 ●問題の後半になるにつれ、無回答率が高くなっており、時間内に解き切ることができていなかった。 ●多くの情報が載っている資料から、必要な情報を読み取る力に課題が見られた。	□資料にある多くの情報の中から、必要な情報だけを読み取っていくような学習場面を授業に取り入れる。 □身近な新聞記事、雑誌等の資料を用い、幅広い知識を身に付けることができるよう、授業づくりの工夫を行う。
理科	5年	○教科に対する関心・意欲が高い児童が多く、「活用」の平均正答率は市よりも高かった。 ●四季を通した、動植物の観察に課題が見られ、幼児期からの外遊びや生活経験、地域を取り巻く環境等の影響が感じられた。 ●身近な現象と学習した内容を関連付けて考える力に課題が見られた。	□四季の変化と動植物の様子について、観察したことやそれぞれの経験を出し合って関連付けて考えられるようにするとともに、必要に応じて写真や映像など視覚的な資料も活用する。 □身の回りの現象を取り上げて、その原因を既習内容を活用して科学的に考えるような活動を単元の中に設定する。
	6年	○教科に対する関心・意欲が高い児童が多く、「基礎」は平均正答率が市・全国より高く、「活用」は全国よりも高かった。 ○昨年に比べ記述(条件の付いた問題)への正答率が向上し、改善が見られた。 ●イメージが持ちにくい内容(電流・水溶液)は、正答率が低かった。 ●学習用語の定着に課題が見られた。	□自分の予想と結果を比べながら考察するなど、学習に主体的に取り組めるようにする。また、イメージしにくい内容も、図や絵を活用しながら、具体的にイメージできるようにする。 □学習用語を単に押さえるだけでなく、学習活動(実験・観察)と関連付けたり、イメージしやすいように視覚的資料と関連付けるなどして学習内容が定着するように工夫する。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「国語や算数の授業で先生や友達の話をしっかり聞いている」という児童は9割をこえ、全国の平均よりも高かった。 ●「自分の考えや勉強したことを進んで話している」という児童は7割程度で、聞くことに対して話すことは平均が低かった。	□考えたことだけでなく、聞いたことを話すという場を授業の中にする。 □ペア対話、グループ対話の時に机間指導を積極的にを行い、支援、指導をする。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○「自分で計画を立て、家の人に言われなくても勉強している」という児童は8割程度で、全国の平均よりも高かった。 ○「家庭学習で宿題以外の予習、復習に取り組む」という児童は6割程度で、出雲市の平均よりも高かった。	□家庭学習の内容が読み、書き、計算の反復練習に偏っていないか、内容の検討(調査)を行い、自学(自主学習)の内容の指導を実施する。 □家庭学習の手引きの内容を検討し、主体的な学習に結びつくような探究的な課題も取り入れる。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「地域や社会の出来事、問題への関心あり」「地域の行事への参加あり」と答えた児童は7割をこえ、全国、市の平均よりも高かった。 ●「新聞の記事を読む」と答えた児童は3割以下で、全国の平均よりも低かった。	□新聞の記事を読む時間を意図的に設定して、社会の出来事・問題に関心をもちさせる。 □身近な社会(地域)への愛着、関心はとて高いので、地域の問題を総合的な学習の時間などに取り上げ、地域と連携して学習を進める。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立北陽小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

<p>【市学力調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4年6年の結果については、市・県・全国の平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況である。</li> <li>・5年の結果については、社会を除いて、市・県・全国の平均を大きく下回り、課題が見られる。特に算数と理科では、市平均が全国を下回り課題が見られるが、本校はさらにそれを下回っており、改善が急務である。</li> <li>・6年生の理科は、全国平均とほぼ同等であるが、市全体が昨年度より大幅に改善されている状況からみると、少し低いといえる。</li> </ul> <p>【全国学力調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語・算数ともに市・県・全国の平均を上回っており、おおむね良好な状況である。</li> </ul>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話し方の工夫に注意して聞き取ったり、話題に沿った意見と理由を考えて話したりする能力が高い。</li> <li>○ローマ字のつづりが理解できている。</li> <li>●決まった長さの文を書いたり、文の構成を考えて書いたりすることに難しさが見られる。</li> <li>●書こうとすることの中心を明確にして文章を書くことが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□学習の振り返り等、日常的に文を書く習慣化を図り、書くことに慣れさせる。</li> <li>□対象を明確にした文章を書く場面設定を行い、誰に何を書くのかを意識して作文ができるようにする。</li> <li>□総合的な学習の時間をもとに、根拠を明らかにして考えたり、説明したりする力をつけていく。</li> </ul>
	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文の構成についての理解ができている。</li> <li>●配当漢字を読んだり書いたりすることが難しい。</li> <li>●段落のまとまりを意識して、文章の内容を読み取ることが難しい。</li> <li>●決まった長さの文を書いたり、文の構成を考えて書いたりすることが難しい。</li> <li>●書こうとすることの中心を明確にして文章を書くことが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□書取り会や繰り返し練習を通して、漢字の習熟を図る。</li> <li>□図書館教育と連携を図り、読む活動を充実させる。</li> <li>□日記等、日常的な書く活動を継続し書くことに慣れさせる。</li> <li>□総合的な学習の時間をもとに、根拠を明らかにして考えたり、説明したりする力をつけていく。</li> </ul>
	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全国平均と比較しても、全体的に平均正答率とほぼ同程度である。</li> <li>○読み取って分かったことからまとめて書くことが、全国的に課題であるが、全国、島根県と比較してもできている。</li> <li>●同音異義語に注意して書くことが、島根県の傾向と同じく難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□書取り会等を通して漢字の習熟を図るとともに、出題の仕方を工夫し、同音異義語の使い分けを意識できるようにする。</li> <li>□総合的な学習の時間をもとに、根拠を明らかにして考えたり、説明したりする力をつけていく。</li> </ul>
算数	4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○道のりの意味や表し方など、量と測定についての理解ができている。</li> <li>○計算の工夫の仕方が理解できている。</li> <li>●3桁の繰り下がりのあるひき算や2桁×2桁のかけ算などの基礎的計算に難しさが見られる。</li> <li>●数と計算や数量関係についての理解に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□基礎計算の繰り返し練習の場面や計画的な計算会などにより、計算力をつける。</li> <li>□生活の中に量の測定場面を取り入れ、予想したり、体感したりする経験を増やす。</li> <li>□総合的な学習の時間をもとに、数学的に思考し、説明する力をつける。</li> </ul>
	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●倍とわり算の関係図や立式など、数と計算についての理解に課題がある。</li> <li>●除法の計算のしかたを工夫して行うことが難しい。</li> <li>●分度器の読み取り方や180°をこえる角度の求め方の理解に課題がある。</li> <li>●四角形の対角線の性質やひし形の作図など、図形の理解に課題がある。</li> <li>●伴って変わる2量の数量関係についての理解に課題がある。</li> <li>●複数の情報から数量関係を読み取り考えることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□前学年の振り返りを行いながら、現在の学習とつなげ、弱みを克服しながら現在の学習の力も付くようにしていく。</li> <li>□計画的な学習会、繰り返し学習により習熟を図るとともに、支援が必要な児童への個別支援で全体を底上げする。</li> <li>□総合的な学習の時間をもとに、数学的に思考し、説明する力をつける。</li> </ul>
	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全国平均と比較しても、全体的に平均正答率とほぼ同程度である。</li> <li>○全国的に課題である示された式から計算の仕方を解釈し、わり算に関して成り立つ性質を説明する問題でよく理解できている様子が見られた。</li> <li>●複合図形(長方形から三角形の面積を減じた形)の面積の求め方を解釈し、説明する力に課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□繰り返し学習や計算会などを通して、基礎的な計算力が実につくようにする。</li> <li>□活用場面で学び合いを重視し、説明力がつくようにする。</li> <li>□総合的な学習の時間をもとに、数学的に思考し、説明する力をつける。</li> </ul>
社会	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○交通事故や事件について防ぐための工夫を資料から読み取ったり、資料を基に表現したりすることができている。</li> <li>○水道水の使用料について資料を読み取ることができる。</li> <li>●地域の発展に尽くした先人の工夫についての資料の読み取りや資料を基に考え表現することに課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□学習での資料活用場面を重視し、資料から読み取る力を伸ばすとともに、国語と連動させ、読み取った内容を使って考えたことを書く活動を取り入れることで、資料活用力をつける。</li> <li>□総合的な学習の時間をもとに、社会的事象の見方や考え方をはたらかせて考えたり、説明したりする力をつけていく。</li> </ul>
	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○世界の主な海洋の名称や位置について理解できている。</li> <li>○森林を守るための間伐など、国土の自然の様子について理解できている。</li> <li>●溶接工場での作業の様子や工業生産についての理解に課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□修学旅行等での工場見学などを活用し、全学年までの内容について関心を高め、ふり返る場面を作る。</li> <li>□総合的な学習の時間をもとに、社会的事象の見方や考え方をはたらかせて考えたり、説明したりする力をつけていく。</li> </ul>
理科	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○気温の測り方について正しく理解できている。</li> <li>○グラフから水の状態を正しく読み取ることができる。</li> <li>●月と星の内容についての理解に課題が見られる。</li> <li>●自然の中の水の様子についての理解に課題が見られる。</li> <li>●電気の働きについての理解に課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□新しい学習と前学年までの学習やこれまでの学習を結び付けながら体験的に学ぶ場面を作ったり、生活場面と結び付けたりして習熟を図る。</li> <li>□総合的な学習の時間をもとに、科学的な視点でとらえて考えたり、説明したりする力をつけていく。</li> </ul>
	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ふりこの1往復する時間に関係する要因について理解できている。</li> <li>○もののとけ方について理解できている。実験の誤りについて推測できる。</li> <li>●アサガオのおしべとめしべについての理解や顕微鏡で見た時の花粉の様子についての理解に課題が見られる。</li> <li>●人のたんじょうについての理解に難しさが見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□新しい学習と前学年までの学習やこれまでの学習を結び付けながら体験的に学ぶ場面を作ったり、生活場面と結び付けたりして習熟を図る。</li> <li>□総合的な学習の時間をもとに、科学的な視点でとらえて考えたり、説明したりする力をつけていく。</li> </ul>

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国語の学習については、意欲的に学習できていると感じていたり、内容がよくわかると感じていたりする児童が多い。</li> <li>○4・6年生では、学習全般において、学習内容を活用して考えたり、自分の生活と結び付けて考えられる児童が多い。</li> <li>●算数の学習を大切な学習だとは思っていないものの苦手に感じている児童が多い。</li> <li>●5年生は、社会・算数・理科において活用への意欲が薄い状況が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□算数では、繰り返し練習や計算会などの場面を生かしながら、基礎的な計算力や思考力をつける。</li> <li>□総合的な学習の時間を中心に据えたカリキュラムマネジメントを行い、必要感をもって話す力やまとめる力を高め、他教科でも活用できるよう意欲づけをする。また、題材への出合わせ方を工夫する等授業改善を行い、主体的な学びにつなげる。</li> </ul>
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分から計画的に家庭学習に取り組む姿が見られる。</li> <li>●新聞を読んでいない児童が多かったり、辞書の活用ができていない児童が多かったりする。</li> <li>●読書習慣がついていない児童が多い。</li> <li>●友達や家族から認められていないと感じる児童が多く、自尊感情も低い。</li> <li>●よくなりしたいという気持ちをもっている児童が多いが、具体的な目標が持っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□学力パワーアップの取組を継続し、計画的に自分から学べる姿を維持していく。</li> <li>□自主学習を活用し、読書や新聞の読み取り等で語彙力や読み取る力を高め、主体的に学ぶための基礎力をつける。</li> <li>□学級経営やPTA活動などを通し、お互いに認め合える場づくりを行うことで、自尊感情を高める。</li> </ul>
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域行事への参加が少ない様子が見られる。</li> <li>●メディア接触が多い様子が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□総合的な学習の時間を生かして、地域とのかかわりを深める。</li> <li>□ノーメディア週間等、家庭と連携した活動を行い、メディア接触の仕方について考える。</li> <li>□睡眠習慣の改善を図るよう、校報や公開日などを活用し、家庭・地域へ投げかける。</li> </ul>

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析及改善策

## 出雲市立神西小学校

### 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 全教科を通じて、基本的な学習はおおむね定着している。
- 自分の考えを文章に表したり、条件に合った文章を書くことに課題が見られる。
- 校内平均正答率が、学年や教科によって市・県・全国平均正答率を下回り、中には大きく下回るものもあった。

### 2 学力調査結果分析及改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○既習漢字の読み書きは、ほぼ定着している。 ●文の構成や、理由や考えなどを明確にした文章を書くことに課題が見られる。 ●文章にある主語と述語を正しく見つけることに課題が見られる。	□読み取ったことなどから自分の考えを発表する際に、理由として根拠となる言葉や文を挙げて説明させるようにする。 □読書を奨励する。
	5年	○文の構成について理解している。 ○物語の内容を理解して、登場人物の気持ちを読み取ることが出来る。 ●漢字を正しく読んだり書いたりすることに課題が見られる。 ●段落のまとまりを理解して、文章の内容を的確に読み取ること課題が見られる。	□第4学年の漢字の復習を適宜行う。 □普段から要約学習を行い、内容的に読み取ることが出来るようにする。 □いろいろなパターンの説明文に慣れて、文に表すことを継続して行う。
	6年	○正しく漢字を書くことが出来る。 ○インタビューの聞き取りで、話の展開に沿った質問を考えることが出来る。 ●目的や意図に応じて、自分の考えを文章に書くことに課題が見られる。 ●読む能力では「目的に応じて本や文章全体を概観して効果的に読む」問題に課題が見られる。	□各教科の学習で、考えたことや読み取ったことを図式化する活動を取り入れる。 □読書量を増やし、多読、速読の力を付ける。 □目的や条件を意識して書くことの指導を行う。(社会科、総合的な学習の時間等も通して指導を行う)
算数	4年	○大きい数、わり算の計算の仕方は定着している。 ●□を使った式でのテープ図の意味や棒グラフの作図の方法の理解ができていない。 ●かけ算の筆算のしくみが理解できていない。 ●あまりのあるわり算での、あまりの処理の仕方が定着していない。	□復習プリントなどを活用してかけ算の筆算のしくみやわり算のあまりの意味について触れ、理解を深める。 □線分図やテープ図をノートにかくなどして、作図に慣れるようにする。
	5年	○数直線にかかれた分数の読み取り方を理解している。 ○示された図と関連しているわり算の式を選ぶことが出来る。 ●折れ線グラフや表から情報を読み取ること課題が見られる。 ●平行四辺形などの図形の性質に関する理解に課題が見られる。	□各グラフの特徴を踏まえて、グラフの表していることを記述するように指導する。 □図、表、言葉の式、数直線などを使いながら、自分の考えを構築する時間を設ける。
	6年	○台形などの図形の特徴を理解している。 ○棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることが出来る。 ○示された除法の式の意味を理解している。 ●加法と乗法の混合した整数と小数の計算の仕方に課題が見られる。 ●350-97について、ひく数の97を100にした式にして計算する問題に課題が見られる。	□図や表、半具体物等を用いた学習を効果的に取り入れることによって、数量のイメージを育てる。 □十進法のしくみの理解に基づいて、小数の加法減法、乗法除法の計算における小数点の扱いを復習する。
社会	5年	○どの内容も、おおむね目標値を上回っている。 ●資料から、地域の発展に尽くした先人の働きを読み取ること課題が見られる。 ●地図上の方位に関する理解に課題が見られる。	□読みとった文章や図を文章に表す指導を行う。 □地図記号の復習をする。
	6年	○国土の地形について理解している。 ○化学工業の製品について理解している。 ●自動車会社の工場と自動車の関連工場の立地について、資料から読み取ること課題が見られる。 ●日本の貿易相手国について、複数の資料から読み取ること課題が見られる。	□資料から分かることを見つけ、文章に表したり発表したりすることを指導する。 □複数の資料を関連付ける演習問題を行う。
理科	5年	○水をあたためると体積が大きくなることを理解している。 ○空気ではたつきを調べる仕組みを理解している。 ●電気のはたらきの理解に課題が見られる。 ●蒸発や容器の蓋につく水滴など、自然の中の水に関する理解に課題が見られる。 ●空気や水、金属など、物のあたらまり方に関する理解に課題が見られる。	□「乾電池のつなぎ方と電流の大きさの関係」について、実験を通して理解を図る。 □「蒸発」について、映像や図で確認し、イメージを再構成させる。 □「空気」「金属」「水」のあたらまり方について、生活と関連させて、図をかりて復習する。
	6年	○メダカの育ち方について理解している。 ○ふりこきまりを調べる実験の仕方を理解している。 ●植物の発芽と成長の理解に課題が見られる。 ●顕微鏡の使い方についての理解に課題が見られる。	□実験、観察の結果から結論を導き出し、一般化する学習を行う。 □自然事象については、見通しをもった実験計画によって、実感を持った理解となるようにする。 □カード、写真資料の提示などを通して、器具や実験方法についての定着を図るための視覚的支援をする。

### 3 学習状況調査結果分析及改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「話し合いで、自分の考えを進んで話している」と答えている児童が多い。 ○「話し合いで、相手の話をしっかり聞き取っている」と答えている児童が多い。 ●分からないことがあれば、先生に質問している児童が少ない。	□児童の言葉を取り上げためあての設定や、問題の解決方法を話し合う学習活動を行う。 □分からないことをそのままにしない、分からないことは悪いことではない学級の雰囲気づくりを行い、児童が安心して学習できるようにする。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○「宿題をきちんとしている」と答えている児童が多い。 ●予習をしている児童は少ない。	□学校が発行した「家庭学習のびき」に目を通し、家庭学習で子どもが取り組む学習内容(音読、漢字、計算など)を確認する。 □学年に応じた家庭学習の時間のめやすを確認する。 □自主学习(自学)にも積極的に取り組ませる。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○学校が好きと感じている児童が多い。 ○自分が住んでいる地域が好きと感じている児童が多い。 ●テレビを観たり、パソコンやスマートフォンなどを用いたゲームをした時間が1時間以上と回答している児童が多い。	□家庭でのメディア機器の使い方について、家族で話し合っでルールを決めることを推奨し、基本的な生活習慣が身につくようにする。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

## 出雲市立平田小学校

### 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

全体的に全国平均と比較してやや下の正答率であったが、5年生の社会科、5、6年の理科については全国平均と同様か、それ以上の正答率であった。  
 <国語科>●説明文の読み取り、要約等、文章の要旨を掴む力が必要な問題に課題が見られた。また、条件に合わせて自分の考えを書く問題の正答率の低さから、問題文の読み取りや表現する力が十分育っていないことが予想される。  
 <算数科>○基礎的な計算、作図等、反復練習で身につく内容はできている。●文章題の読解や記述式の問題に課題が見られることから、算数科の指導に合わせて、文章を流暢に読む力や自分の考えをしっかりと書くための言語的な能力の補充が必要だと考えている。  
 <社会科>●資料の読み取りが苦手な児童が多い。また、学習で使用する用語の定着が不十分である。  
 <理科>○科学館学習の効果も大きく、基礎的な内容理解はできている。●活用問題に課題が見られた。

### 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○漢字の読み書きは概ねできている児童が多い。 ○文章の内容は理解できるが、感覚的な場合が多い。 ●主述の関係等、言葉に関する知識理解が不十分である。 ●条件付き作文は条件を正確に読み取れていないため、十分に書けない傾向がある。 ●国語辞典の使い方や用語が身につけていない。	□毎日の漢字練習、毎月の書き取り会を継続する。 □主述の関係、文章構成等、構造的に文章を読み取る指導を行う。 □ニーズに対応した教材を活用し、文章を正確に読むことができるようにする。 □朝学習や宿題で条件付き作文や言語事項に関する課題に取り組みせ、不十分な内容を補充する。
	5年	○漢字が書けている。 ○作文が書けている。 ○聞いて理解することができる。 ●内容を要約して文章にまとめることを苦手とする児童が多い。 ●文章の構成を理解する点に課題が見られる。 ●問題文を十分に読んでいない傾向が見られる。	□視写をする。 □聞いたことをもとに、作文を書く。時間を区切って条件作文のトレーニングを積み重ねる。 □音読をして語彙を増やし、考えたことを言葉にする。 □構造を押さえる授業を行う。(教材研究)
	6年	●「書く」・・・ 題意が読み取れず、分かったことをもとに自分の考えをまとめることが苦手である。 ●「読む」・・・ 選択肢の文章を読みとったり、記述したりすることに抵抗を感じる児童が多い。全体的に10ポイント以上下回っている。文章の内容を的確に捉えることが苦手である。	□読解力の困難さへのアプローチを行う。 ①朝活動でのミニテスト ②配信プリントの活用 ③読書活動の推進
算数	4年	○基礎的な計算ができている。 ●2桁×2桁のかけ算の筆算を苦手とする児童が多い。 ● $25 \times 4 = 100$ や、計算のきまりを利用するよさについて気づく児童が少ない。 ●自分の考えを順序立てて伝えることが苦手である。 ●様々な出題形式に慣れていない。	□プリント配信システムを活用し、朝学習や家庭学習等で定着が不十分な内容を継続して復習させる。 □小集団の学習をベースに、考えを伝え合う活動を増やす。 □「わかっていること」「問い」に印をつける等、問題文を正確に読み取る指導を日頃から行っていく。
	5年	○基礎的な計算ができている。 ●大きい数、十進法の習得が十分でない。 ●作図を苦手とする児童が多い。 ●図形の領域が全般的に難しい様子がみられる。	□量感を意識させた授業を効果的に取り入れる。 □分かりやすい読み方を教える。コツを教える。位の部屋割りなど。 □用語を使って説明をさせるようにする。
	6年	●中間～下位層の割合が多い。 ●記述式の問題を苦手とする児童が多く、無回答率も高い。 ●問題を把握することが難しい児童が多く、何を問われているのかを理解しにくい児童が多い。 ●既習事項の定着や積み上げが不十分な傾向にある。	□授業中に既習事項を確認しながら授業を進める。 □既習事項の定着に向け、朝活動で配信プリントを活用する。 □「わからない」も含め、「問い」を大切に授業を行うことで、考える力を育てる。
社会	5年	○全体的に理解している。 ●資料の読み取りができていない児童が多い。 ●指定された言葉を使って、記述することが苦手である。	□授業の中で、資料を活用する機会を増やす。 □振り返りの時に、本時で学習してわかったことを文章でまとめて書く。(キーワードを提示して)
	6年	○経年比較では伸びている。 ●平均はおおむね全国に近いが、中央値が低い。 ●農業・水産業分野の正答率が低い。	□既習事項の確認を、朝学習や授業の時間に行う。 □家庭学習で復習プリントに取り組みせ、既習事項を定着させる。
理科	5年	○全体的に理解している。 ●活用問題に弱みが見られる。図と文章を見比べて思考することが苦手である。	□活用場面でキット等を使用する場合は必ずその仕組みについて説明できるようにする。 □キットを使う前に、様々な活用事例について話し合う。
	6年	○経年比較では伸びてきている。 ●市平均の正答率に比べ、全般的に正答率が低い。 ●観察・実験の技能の観点の正答率が低い。	□実験方法や器具についての手順や名称、留意点を明確に表示したり、ノートに記述させたりする。

### 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	●「授業で分からないところがあっても、先生に質問しないで分からないままにしている」と回答した児童が多い。 ●話を聞くことができていない児童、話は聞いているが、内容を理解しようとして聞いていない児童が多い。 ●失敗や苦労に抵抗感を強く示す児童が多く、挑戦する意欲に課題がみられる。	□トリオで話し合い・教え合いの時間を確保する。 □要約学習、スピーチ、フリートーク等を学習の中に位置づけ、「聞くことが楽しい」と感じられる体験を積み重ねる。 □授業中の発言の場や小集団学習での場での話す場面を増やす。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	●予習・復習をしていない。どのように自学をしていいかが分からない。 ●メディアに触れる時間が長い児童が多い。そのため、情報源の多くがテレビやインターネットになり、新聞を読む児童がほとんどいない。 ●家庭学習の時間が少ない。宿題をしなくても平気な児童がいる。	□自学ノートの活用(参考になるテーマを提示) □「平小チャレンジ週間」等を機会にメディアとの接触について家庭でも考えてもらう。 □講演会(子育てに関する講演)の実施。 □終礼のときに宿題の手がかりを与える。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○地域との関わりは、ほぼ平均を示し概ねよい。 ●自分のやりたいこと(目標)がはっきりしない児童が多く、内的動機づけにつながっていない傾向にある。 ●新聞を読む児童が少ない。 ●児童の得意なことや課題、担任の指導方針を具体的に保護者に伝えきれていない。	□総合的な学習の時間におけるキャリア教育との関連を図った取り組みや、地域講師を活用したふるさと教育の充実。 □読売ワークシートや子ども新聞等を活用し、様々な情報に触れられること等、新聞を読むよさに気づけるような指導を行う。 □保護者と定期的な面談、情報共有等を行い、家庭との連携を密にする。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

## 出雲市立灘分小学校

### 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

<p>国語…○●4年生、5年生は全国平均を下回っているが、6年生は、全国平均・県平均共に上回っている。○各学年とも「読むこと」の領域はよくできている。●「書くこと」の領域があまりできていない。特に、文字数を満たす文章を書くこと、自分の考えを明確にして書くことが難しい。</p> <p>社会…○5年生・6年生共に全国・市平均を上回っている。○5年生、6年生共に、各領域、各観点でほぼバランスよくできている。●6年生の「社会事象への関心・意欲・態度」の観点で全国・市平均を下回っている。</p> <p>算数…○●全国・県平均に対して、4年生は下回っており、5年生は、上回っており、6年生は、ほぼ同じであった。○各学年共に基礎・基本の平均正答率は高い。●長い文章題を読みながら、大事な情報を的確にとらえて処理したり、数学的なポイントを押さえて説明したりすることが難しい。</p> <p>理科…○5年生・6年生共に全国・市平均を上回っている。○すべての領域・観点においてよくできていた。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○話し合いの内容を聞き取る力がついている。 ●考えて書く問いに対して、無回答が半数だったことから、自分の考えを持って書き表す力が不足している。	□主語、述語を意識して書いたり、条件作文を書いたりする活動を取り入れていく。
	5年	○書くこととすることの中心を明確にして文章を書く力がついている。 ●登場人物の言葉の奥にある気持ちをイメージして読み取ることが十分ではない。	□日ごろの授業の中で、自分の考えをもち、考えや思ったことを書いたり、伝えたりして表現する力をつけていく。
	6年	○話し手の意図をとらえながら聞き、自分の考えや感想を持つことがよくできている。 ●必要な情報を取捨選択し、自分の考えを明確にしながら要点をまとめて書くことが十分ではない。	□調べ学習で、自分で適切な資料を探し出し、情報を取捨選択して必要なものを情報カードや付箋などに簡潔にまとめることができる力をつけていく。
算数	4年	○数の相対的な大きさ、分数の数直線上での表し方、□を使った文章題、円の直径などの知識・理解が定着している。 ●問題を読み取り、言葉や数を使って、説明することが難しい。	□図や式、言葉を使って自分の考えを表現するためにノートを活用する。
	5年	○学習したことが平均的によく身についている。 ●棒グラフと折れ線グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明するなど記述で答える力が十分でない。	□他の教科と連動した問題、生活の中に生じた問題などいろいろな問題に出合わせ、学習したことを使って説明するようにする。
	6年	○グラフの読み取り、加法・乗法混合の整数と小数の計算、複数の数量から必要な数量を選んで立式する力がついている。 ●2極化が見られ、問題の意味や解答の仕方が分からないためと思われる無答が見られる。 ●除法の計算を簡単にする工夫の意味を言葉で説明するなど、算数の言葉を使って説明する力が十分でない。	□図形の定義や四則計算の法則などを使いながら、説明することを取り入れていく。
社会	5年	○各領域・観点で力がついている。 ●資料(地図)から情報を読み取り、説明文の内容とむすびつけること、場面を想像し、実生活と結びつけることが、十分でない。	□いろいろな用語や学習内容を生活と結びつけてとらえることで理解が深まるようにする。
	6年	○各領域の基礎的な知識が身についている。 ●社会的な事象への関心・意欲が低い。	□いろいろな用語や学習内容を生活と結びつけてとらえることで理解が深まるようにする。
理科	5年	○科学的な事象についての関心が高く、各領域で力がついている。 ●月の形の名称(半月)理解、半月の動き方の理解が十分でない。	□実験の結果から推測できることを自分の言葉でまとめている。
	6年	○科学的な事象についての関心が高く、各領域で力がついている。 ●天気の変化、顕微鏡の使い方についての理解が十分でない。	□全実験を予想を立てて取り組み結果を確認し、なぜそのような結果になるかのまとめを続ける。

### 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○算数で新しい問題に興味を持って取り組み、分からない時にもあきらめずにいろいろな方法を考える項目で肯定的に答えている児童が全国平均に比べて5ポイント以上高い。 ●学級の友達と話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりできていると思うという項目では全国平均に比べて約10ポイント低い。	□友達と話し合いたいくなる話題でペア学習やグループ学習を取り入れる。 □めあてと振り返りを継続して行い、振り返りの中で友達の発言や話し合い活動の良かったことなどを認めていく。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○1時間以上家庭学習をしている児童が7割以上おり、約7ポイント高い。 ●3割弱の児童が家庭学習の時間が1時間に満たない。	□学期に一回実施している「てつじんウィーク」(家庭学習調べ)を継続して行い、児童に適切な声掛けをしていく。 □家庭学習の焦点化など内容の充実を図る。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○住んでいる地域の行事に進んで参加している児童が7割強おり、全国平均に比べて5ポイント以上高い。 ●家庭で学校の出来事について話をする児童が全国平均に比べて10ポイント以上低い。 ●同じ時刻に寝たり、起きたりしていないため、質の良い睡眠ができていない児童がいる。	□講演会を開き、質の良い睡眠・生活習慣の大切さについての理解を深めるようにする。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

## 出雲市立国富小学校

### 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 4年生の国語と算数、5・6年生の理科は、全国平均を上回っており、良好な状況。
- 国語の物語文の内容、登場人物の気持ちの読み取りができています。
- 説明文の段落どうしのつながりや他の段落とどうかかわっているかなど、文章全体を構造的に捉えることに課題がある。
- 資料や調査結果をもとに、条件に合わせて文章を表現することに課題がある。

### 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○学年の配当漢字の読み書きについてはほぼできています。 ○物語の場面の様子や登場人物の気持ちなど正しく読み取れている。 ●理由(根拠)をはっきりさせて自分の考えを述べる(記述する)ことに課題がある。 ●段落どうしのつながりや他の段落とどうかかわっているかなど、文章全体を構造的に捉えることに課題がある。	□漢字・言葉の知識など基礎基本の内容については、繰り返し練習するなどして定着を図る。 □理由・根拠を入れながらわかりやすく説明したり、条件を設定して文章を書いたりする活動を取り入れる。
	5年	○漢字の読み書き、文の構成・漢字辞典の使い方の理解ができています。 ○物語文の内容、登場人物の気持ちの読み取りができています。 ●説明文の構成を正しくとらえることに課題がある。 ●資料や調査結果をもとに、条件に合わせて文章を表現することに課題がある。 ●作文での無回答が多く、最終問題までたどり着くことに難しさが見られる。	□資料の読み取りや文章構成を理解するための時間を充実していく。 □分量、条件、時間などを設定した作文、体験日記等を書く時間を確保する。 □国語辞典を活用した意味調べや読書時間の確保を行う。
	6年	○情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を理解している。○目的に応じて、文章の内容を理解し、内容に合う答えを見つけることができる。 ●漢字の定着が十分でない。●文と文のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことに課題がある。●目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことに課題がある。	□漢字・言葉など基礎基本の内容については、定期的に復習する場を設け、定着を図る。 □文を書く際に、目的や意図を明確にするために条件(○字以内で、○○の言葉を使って)を設け、それらを踏まえた文章を書く活動を取り入れる。
算数	4年	○数と計算、円と球、□を使った式については、理解が定着している。 ●かけ算の筆算の意味を正しく理解している児童が少ない。 ●文章問題で、文章から手がかりを読み取って式をたてたり、一定時間が経過する前後の時間を読み取ったりすることに課題がある。 ●棒グラフの1目盛りあたりの数の設定理由を説明する問題では、その理由を論理的に説明することに課題がある。	□計算技能の習熟を図る。 □文章問題を正しく読み取り、図化して考えるなど論理的に解決する学習を行い、応用力や活用力を高める。
	5年	○計算問題は比較的得意で、数の位取りについて理解している。○コンパスを使ったひし形の作図がよくできていることから、作業的なことが得意であると考えられる。 ●繰り返り下がりや2回以上行わなければならない、隣の位が空位になるといった手順が多くなる引き算に課題がある。●全体的に、手順や説明が複雑になっているもの、関係性を求めるものに課題がある。	□問題文を読みながら情報の取捨選択、メモ、図式化といったことを意識的に指導し、しっかり意味が読み取れるようにする。 □単元によっては、家庭学習でプリントを習熟度別に選べるようにして、全ての子どもが力が出るようにする。
	6年	○数量や図形についての知識・理解、技能は定着が見られる。 ●数学的な考えを問う問題かつ、記述式の問題の誤答率が高い。	□問題に対して、筋道を立てて説明する活動を取り入れ、書く活動で定着させるようにする。 □分かりかけや分からない状態を大事にし、自分の考えたことを話すことができる授業づくり、環境づくりをする。
社会	5年	●複数の学習用語を用いて、要約する問題の正答率が低い。 ●社会科学用語の習得や問題の読み取りに課題があり、正答をしぼりきれず、解答が分散してしまっている。	□学習時間の終末に、その時間で学習したことを要約し、プレゼン等にまとめる活動を継続して行う。 □調べ学習を効果的に取り入れ、主体的に課題解決を図る力を育てる。 □基礎基本の内容について、繰り返し復習をするなどして定着を図る。
	6年	●複数の学習用語を用いて、要約する問題の正答率が低い。 ●社会科学用語の習得や問題の読み取りに課題があり、正答をしぼりきれず、解答が分散してしまっている。	□学習時間の終末に、その時間で学習したことを要約し、プレゼン等にまとめる活動を継続して行う。 □調べ学習を効果的に取り入れ、主体的に課題解決を図る力を育てる。 □基礎基本の内容について、繰り返し復習をするなどして定着を図る。
理科	5年	○既習の理科用語の定着が見られる。 ●授業中に扱った実験方法などについては定着しているが、それらが少し変わってくると(使う道具が違ったり、観察する方位が変わる、仕組みをおもちゃに応用してある等)対応できていない。 ●「電流のはたらき」「月と星」の単元の定着が他の単元と比べて弱い。	□基礎基本の内容について、繰り返し復習をするなどして定着を図る。 □実験を行う際に、見通しを持たせて取り組むようにする。
	6年	○既習の理科用語の定着が見られる。 ●多面的に考察し、より妥当な結論を導くことに課題がある。	□基礎基本の内容について、繰り返し復習をするなどして定着を図る。 □実験を行う際に、見通しを持たせて取り組むようにする。

### 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業	○きちんとノートをとっている。 ○先生は丁寧にわかるまで教えてくれていると感じている。 ○ICTを活用した学習を少ないと感じ、もっと活用したいと思っている児童が多い。 ●わからないことを質問しない児童が多い。●「将来の夢をもっている」「先生から認められている」が低い。●算数では他の解法を根気強く考えたり、算数が生活の中でどのように活用できるのか考えたりすることに課題がある。	□ICT機器等を有効活用した授業を行う。 □毎時間振り返りを行い、分からないことについては個別に指導したり、次時におさえたりする。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○挨拶をしたり、自分で学習の準備をしたりする児童が多い。 ○家の人と一緒にテレビのニュースを見ている。 ○家の人に学習したことを話している。 ●平日のメディア接触の時間が多く、図書館利用をせず全く読書をしないう児童の割合が高い。(勉強以外にメディアを利用している時間が多い。)●図書館利用、情報収集(新聞記事・パソコン・調べ学習等)のための施設やツール利用率が低い。	□家庭学習の手引きの活用をさらに促す。 □様々な自学の取組について紹介し、自主的に家庭学習に取り組めるようにする。 □基本的な生活習慣を確立する。(さわやか貯金の取組)
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○家族が学校行事に参加している。 ○比較的地域の行事に参加している。 ●地域の行事に参加している児童は多いが、地域や社会をよくするために何をすべきか考えることはあまりしていない。	□コミセンと連携し、地域の人・もの・こととの活用をすすめる。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立さくら小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 興味・関心のあることや生活に身近なこと、観察・実験に関する内容は理解できている。
- 家庭学習に進んで取り組む児童が多い。
- 自分の考えを書き表したり、資料を読み取って関連付けたりする力が弱い。
- 自分から進んで発言や質問をしたり、本や新聞などを利用したりして学習を深めようとする児童が少なく、自分で課題解決する力が弱い。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○話し方の工夫について理解している。 ●場面の様子や登場人物の気持ちを読み取る力が弱い。 ●構成を意識して、指定された長さで文章を書く力が弱い。	□物語を読んだ後、自分の好きな場面や登場人物の気持ちなどを下級生に伝える場を設定する。 □説明文の学習の中で段落の構成や意味、役割などを押さえ、学習後にそれを生かして文章を書く活動を大切にする。
	5年	○場面の様子や登場人物の心情、説明の内容を正しく読み取っている。 ●条件に応じて書く力が弱い。	□自分の考えを伝えるための書き方を指導し、書く活動を適時取り入れていく。 □様々なジャンルの本や新聞を読むようにしていく。
	6年	○話し方の工夫について理解している。 ●内容を要約して書く力が弱い。 ●漢字の書取が不十分である。	□条件に応じて、本文の中の言葉を使用しながら書く指導をし、書くことができるという経験を積む。 □普段から既習の漢字を使用して書く指導を繰り返す。
算数	4年	○時刻やグラフ、表などの生活で身近なことはよく理解している。 ●自分の考えを説明したり、考えの矛盾点を指摘したりして書く力が弱い。 ●数のしくみや位、単位についての理解が不十分である。	□生活の場面に置き換えて考えたり、授業の中で繰り返し復習したりして、学習したことが定着するようにする。 □自分の考えを図や言葉で書き表す活動を大切にする。
	5年	○基本の計算や図形の基本事項が定着している。 ●理由を説明する問題(記述)に弱い。	□自分の考えを説明したり、考えの根拠を書いたりする活動を大切にし、算数で培った力を日常生活で扱った問題に取り組むようにする。 □資料が表す意味を読み取ることができるように、社会科でも資料をきちんと扱う。
	6年	○基礎的な計算力が身につけてきている。 ●考え方を説明する力が不十分である。	□基本的な問題を繰り返して練習する。 □実生活の中で生かされるような応用問題を授業で扱う時間を増やす。
社会	5年	○学習したことについて、基本的な事柄は理解できている。 ●与えられた資料を読み取ったり、複数の資料を関連させて考えることが難しい。 ●学習したことを応用して考えることが難しい。	□色々な資料を読み取る機会を作り、分かること、考えられることを自分の力で表現させる。 □他地域についての資料を読んだり、問題に取り組ませたりし、応用力を高める。
	6年	○日本の国土、農業、水産業、工業地帯、情報産業や情報化社会等、自分たちの身近なことについて理解している。 ●資料をもとに関連づけて考えることが苦手としている。 ●世界の国々の名前やその位置などが十分に理解できていない。	□課題(資料等)を出し、みんなで考え、話し合うような学習の機会を増やす。 □作業(白地図、プリント等)を通して、理解の定着を図る。
理科	5年	○授業で行った実験や観察の結果についてよく理解している。(特に動植物について) ●水の変化や物の温まり方など、学習したことと生活場面とを結びつけて考えることが難しい。 ●正しく覚えていない学習用語がある。	□学習したことと生活場面とを結びつけて考える時間を設ける。応用問題に取り組ませる。
	6年	○観察・実験の結果の理解等ができる。 ○自然現象に対する関心が高い。 ●基礎的な学力の定着が十分でない児童が多い。 ●自分の生活に結び付かないものに対して興味・関心が薄く、それが理解につながっていない。	□視覚的(図・写真・動画等)なものを使って興味・関心をもたせ、理解の定着を図る。 □実験・観察の結果を自分なりの言葉でまとめ(分析・考察)、全体で話し合う。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○児童一人一人が学習内容を理解できるように、教師は個別の指導をしっかりと行っている。 ○児童が自分の考えを伝えることができるように、教師は授業中に思考する時間や場を設定している。 ●授業中に自分から進んで発言したり、質問したりする児童は少ない。 ●自尊心(自分が好き、友達から認められている等)が低い児童が多い。	□ペアやグループで話し合う場を工夫し、自分の考えをもったり深めたりすることができるようにする。 □自尊心を高めるために、思っていることや分かっていること等素直に表現できる人間関係づくりや学級づくりを行う。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○家庭学習に進んで取り組んでいる児童が多い。 ●自分で課題を見つけ、その解決に取り組もうとする力は低い。 ●図書館を利用したり、新聞を活用したりする児童は少ない。	□読書活動(家庭学習を含む)の推進を行う。 □自主学習の仕方が分かるように指導するとともに、家庭へも再度通知する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○学校のきまりを守ったり、人との関わりを大切にしたりする児童が多い。 ●家での手伝いを進んでしようとする児童が少ない。 ●学習の用意を家の人がしていたり、自分で起床できなかつたりする児童が多く、基本的な生活習慣が身につけていない。	□進んで挨拶したり、朝の身支度をしたりすることができるように、基本的な生活習慣の確立に向けた取組を継続する。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立東小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 4年国語については全国や市を上回っている。4年算数, 5年6年社会・理科, 6年国語は全国や市とほぼ同程度でおおむね良好といえる。  
 ●5年国語・算数, 6年算数については, 全国や市を大きく下回り, 課題である。  
 ●大事なことをまとめたり, それについて自分の考えを持ちたりして, 相手とやりとりしたり発信したりすることが苦手な児童が多い。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○話し合いの内容を聞き取る, 3年の配当漢字の読み書き, 説明文・物語文の読み取りなどの内容がよくできていた。 ●言葉の学習(主語―述語, ローマ字, 国語辞典の使い方)に課題がある。 ●インタビューの質問を考えることや, 指定の長さで作文を書く, 中心を明確にして書くなどについて目標値に届いていない。	<input type="checkbox"/> 国語辞典を机の上に置き, 使う習慣を作る。 <input type="checkbox"/> ローマ字しりとり, ローマ字日記等を取り入れ, ローマ字に書き慣れていくようにする。
	5年	○4年の配当漢字を書くことができていた。 ●漢字を読む, 説明文の内容を読み取ることに課題がある。 ●指定の長さで作文を書く, 考えを明確にして具体的に書くことができていない。	<input type="checkbox"/> 漢字の読みを大切に漢字学習を行う。 <input type="checkbox"/> テーマや条件を決めた短作文指導を行う。
	6年	○領域「読むこと」, 観点「読む能力」が全国を上回っている。 ●領域「話すこと・聞くこと」, 観点「話す聞く能力」が全国を下回っている。これらの問題に対しては約30%(5人)が無回答である。12月の県の学力調査においては, 作文について無回答が40%だった。	<input type="checkbox"/> 質問したり自分の考えを伝え合ったりしながら理解を深めていけるようなペア・グループ対話の学習環境を作る。
算数	4年	●内容は「円と球・三角形」「ぼうグラフ」に課題がある。 ●領域「図形」, 「観点「数学的な考え方」」に課題がある。 ●問題で問われていることが十分にとらえられていない。	<input type="checkbox"/> 図形学習では立体模型などを使い, 図形に対するイメージをしっかりと持たせるようにする。 <input type="checkbox"/> シンプルでわかりやすい板書で, 学んだことをふり返りやすくする。 <input type="checkbox"/> 発展的な問題に触れさせる。
	5年	●内容は「分数」「いろいろな形」に課題がある。 ●領域「図形」, 観点「数量や図形についての知識・理解」に課題がある。	<input type="checkbox"/> 計算のドリル学習を積み, 基礎を定着させる。 <input type="checkbox"/> 集中して取り組む習慣をつけていく。
	6年	●領域「図形」「数と計算」, 観点「数量や図形についての知識・理解」に課題がある。 ●「記述式」の問題に無回答率が高い。	<input type="checkbox"/> 課題が見つかった領域について特に復習を行う。 <input type="checkbox"/> 質問したり自分の考えを伝えたり教え合ったりしながら理解を深めていけるようなペア・グループ対話の学習環境を作る。
社会	5年	●内容は「地図の見方」「安全なくらし―火事」に課題がある。 ○内容「安全なくらし―交通事故や事件」「県の様子」の正答率が高い。	<input type="checkbox"/> 地図記号など既習事項の中で定着していないことについて, 生活と結びつけて取り上げていく。 <input type="checkbox"/> 学習用語を確認し, その用語を使ってまとめたりふり返りを書いたりさせる。 <input type="checkbox"/> 時間を設定して統計資料の読み取り方を指導する。
	6年	○内容は「わたしたちの生活と環境」の正答率が高い。 ●内容「工場生産と貿易」「日本の国土と人々のくらし」に課題がある。	<input type="checkbox"/> 時間を設定して, 2つの資料を比べて読み取ることを指導する。
理科	5年	○内容「月と星」「天気のようにすと気温」は正答率が高い。 ●内容「物の体積と力」「自然の中の水」に課題がある	<input type="checkbox"/> 「条件を制御しながら」調べる活動を通して, 予想や仮説を基に解決の方法を考えさせる。
	6年	○内容「天気の変化」は正答率が高い。 ●内容「植物の花のつくりと実」「電流のはたらき」に課題がある。 ●観点「自然事象への関心・意欲・態度」に課題がある。	<input type="checkbox"/> 「多面的に」調べる活動を通して, 予想や仮説を基に解決の方法を考えさせる。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	●「自分の考えをうまく伝える工夫をしている」と回答した児童が半数程度であり, 全国や県を下回っている。 ●「学習したことを生活の中で活用できないか考える」とした児童が, 全国を10ポイント下回っている。	<input type="checkbox"/> 学年や授業によってふり返りの内容や方法を工夫するとともに, 学びの成果が実感できるように本校の「ふり返りの言葉」を参考にして, 自分の言葉で記述させることを大切にする。 <input type="checkbox"/> 補充学習の時間に, 短作文指導を行う。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○「家で自分で計画を立てて勉強している」という児童が全国や県を20ポイント上回っている。 ○平日の家庭学習の時間は, 1~3時間未満の児童で占め, 全国や県と同程度である。全国や県に見られる「3時間を超えている」や「全くしない」という児童はいない。 ○読書時間や学校図書館等に行く回数, 新聞を読む程度は全国や県をやや上回っている。	<input type="checkbox"/> 家庭学習の手引きを手がかりにしながら, 家庭学習の習慣作りについて保護者と話し合う機会を持つようにしていることで家庭の意識が高まり家庭学習の時間の確保ができてきたと思われるので, さらに, 取り組んでいる内容や取り組み方を紹介し合わせたり, 評価したりすることで学びを充実させる。
(3) 家庭・地域との連携・社会との関わり	○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている」「地域の行事に参加している」と回答している児童が全国や県を30ポイント程度上回っていて, 地域との良好なつながりが維持できているといえる。	<input type="checkbox"/> 基本的な生活習慣の定着をねらった「さわやかウィーク」の取組を実践を継続する。 <input type="checkbox"/> テレビ視聴やインターネットの閲覧, ゲーム, スマートフォンなどの利用に関して家庭でルールをつくり, それを実行するようにする。 <input type="checkbox"/> 親子での会話やふれあいを大切にする。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

## 出雲市立多伎小学校

### 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

<p>○5・6年生の国語、算数については平均正答率が市・全国平均を大きく上回っている。</p> <p>●5・6年生の理科については平均正答率が市・全国平均を下回っている。</p> <p>●4年生の国語、算数ともに市・全国平均共に4ポイント以上下回っている。</p> <p>●領域別にみると、国語は書くことに課題があり、算数では図形を苦手をしている児童が多いことがわかる。また、実験の器具の使い方等の知識・理解について課題がある。</p> <p>●観点別にみると、記述式の正答率が低いことから書く能力と問題を読む能力に課題があるといえる。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●書く意欲が低く、作文の問題の正答率が低い。</li> <li>●インタビューをする問題の正答率が低く、質問を考えることが苦手としている。</li> <li>●内容の読み取りの正答率が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□朝活動等で書くことに慣れるためのトレーニングを行う。</li> <li>□視写を積極的に取り入れ、正しい文章を書く力を育む。</li> <li>□NIEワークやテキストを活用するなど、速く読む力やイメージする力を身につけさせる。</li> <li>□漢字プリントを朝活動で積極的に活用する。</li> </ul>
	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○どの領域においても着実に力をつけている。</li> <li>●「話し合いの内容を聞き取る」問題の正答率が低い傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□聞く力を高めるために、対話場面を積極的に設け、友達の見解と自分の意見を聞き比べる活動を行う。</li> </ul>
	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○記述の問題が1問あたり9ポイント平均を超えている。</li> <li>○選択問題は8/9が平均を超えている。100%や20ポイント以上平均より高いものもある。</li> <li>●漢字の習得に課題がある。平均よりも20ポイント低いものもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ドリルの練習だけでなく、プリントを活用して考えながら学習をするなかで漢字を定着させる。</li> </ul>
算数	4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計算の復習ができています。</li> <li>●立式したり、文章問題を解いたりすることに課題がある。</li> <li>●最後の問題の正答率が低いため、時間配分に課題がある。</li> <li>●わけを文章で説明することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□既習事項を使って、説明したり、関連付けて説明したりする活動を積極的に取り入れる。</li> <li>□子ども同士が対話することで考えを深めたり広げたりする活動を積極的に取り入れる。</li> </ul>
	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎問題における正答率が高い。</li> <li>○量と測定の領域における正答率が高い。</li> <li>●対角線が垂直である四角形を見つける等の図形領域に課題がある。</li> <li>●折れ線グラフと表において2つの要素を関連付けて考えることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□既習事項の復習を継続して行う。</li> </ul>
	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成するなど図形領域の正答率が高い。</li> <li>○数量や図形についての技能、知識・理解における正答率が高い。</li> <li>●資料の特徴や傾向を関連付けて理由を記述することの数量関係における正答率が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□生活の中で数量に結び付けて考えるようにする。</li> </ul>
社会	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○活用問題の正答率が高い。</li> <li>○社会的現象への関心・意欲・態度が高い。</li> <li>●基礎的な観察・資料の読み取りや活用の技能に課題がある。</li> <li>●県の様子について答える問題において、地図の読み取りに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□グラフを読み取るポイントを示す。問題や資料を読み取りができるようにする。また、重要な語句に注目できるようにする。</li> <li>□他教科との関連として、算数の時間に習った資料の読み取りの仕方等を振り返る。</li> <li>□地図帳を積極的に活用する。</li> </ul>
	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○活用問題は、市・全国平均よりやや低いものの、目標値より5ポイント以上高い。</li> <li>○基礎的な問題は、市・全国よりも約4ポイント正答率が高い。</li> <li>●情報から自分の生活と結び付けて考える正答率が低い。</li> <li>●資料から情報を読み取ることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□新聞を使った家庭学習を取り入れる。</li> <li>□ニュースや新聞に興味を持てるように、日常的に紹介したり、会話の中で取り上げたりする。</li> </ul>
理科	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元「天気の様子と気温」、「1年間の植物や動物の様子」における正答率が高い。</li> <li>●知識を問う問題に課題がある。</li> <li>●活用よりも基礎に課題がある。</li> <li>●後の問題になるにつれ正答率が低くなるため、時間配分に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ICTデジタル教材を補的に用いる。(天体・物質の変化)</li> <li>□自然の事象・現象の変化について、その要因や規則性、見解を推論する活動を取り入れる。</li> </ul>
	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実体験のある分野「ふりこのきまり」、「魚のたんじょう」、「物のとけ方」の正答率が高い。</li> <li>●顕微鏡の使い方を理解していない。観察・実験の技能が定着していない。</li> <li>●単元「天気の変化」における思考問題の正答率が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□実験・観察器具の正しい使い方を身につけさせ、実験・観察した結果からわかることを話し合う学習を進める。</li> <li>□天気予報を見ることで雲の動きや天気の変化の規則性に着目させる。</li> </ul>

### 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ふるさと教育として地域の方に来ていただいたり、現地に行ったりする活動を通して、興味関心が高まっている。</li> <li>●学習意欲が低い児童が多い。</li> <li>●対話場面では、積極的に対話を行う児童とそうでない児童の二極化がある。</li> <li>●対話によって話し合ったことを全体に広げようとする児童が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□本校の研究で「対話」に焦点を当てて研究を進めている。今後も研究授業を通して「対話」による「深い学び」について研究を続ける。</li> <li>□理想的な話し合いの姿を教員間で共通理解し、各教室に話し合いの雛型を掲示する。</li> </ul>
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○4年では、勉強に図書館を利用している割合は全国平均並み。</li> <li>●家庭学習を1時間未満の児童の割合は4年が72%、5年が80%、6年が65.4%と全体的に少ない傾向にある。</li> <li>●読書をする児童が少ない。4年においては全くしないが34.3%もいる。</li> <li>●新聞を読んでいる児童が少ない。</li> <li>●勉強にパソコンを利用している割合は2割以下となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□家庭学習推進週間を設定する。</li> <li>□がんばり表などをもうけ、読書をしない子どもへの手立てを考える。</li> <li>□学級の活動や授業に新聞記事を積極的に活用する。</li> <li>□宿題の在り方を工夫し、長時間勉強できるような習慣をつける。</li> </ul>
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○5・6年では、家で学校での出来事を話す児童が多い。(5年86.7%、6年88.4%)</li> <li>○5年では、自立起床を比較的できる児童が多い。</li> <li>●4年では、家で学校での出来事を話す児童がやや低い。(4年65.7%)</li> <li>●4年では、自立起床ができていない児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□生活習慣の改善と重点化を図る。</li> </ul>

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立湖陵小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 昨年と比較して社会、算数、理科に日頃の指導の成果が表れていることがうかがえる。
- 生活行動意識調査の結果より、宿題に真面目に取り組んでいる児童や、授業中話を聞いている児童が多い。
- 生活行動意識調査の結果より、予習、復習をしている児童の割合が少ない。
- 国語に課題がある。特に、「書く能力」「言語についての知識・理解」について課題がある。
- 算数では、「数学的な考え方」の領域が低く、「活用する力」に課題がある。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○「話す・聞く能力」については、全国とほぼ同じである。 ●全国と比較して、「書く能力」及び「言語についての知識・理解・技能」についての正答率が低く、「書くこと」や「言葉の力」に課題がある。	□学習内容に応じて学級文庫を準備したり、読書カードを活用したりするなど、読書環境を整える。 □視点を明確にして作文や日記を書くように指導をするとともに、辞書を用いて漢字を使うように促す。
	5年	○漢字辞典の使い方や話し方の工夫に注意して聞き取ることは、概ねできている。 ●指定された長さや段落構成等、条件を満たした作文を書くことに課題がある。 ●読み取りに時間がかかり、時間内に問題を解くことができない児童が多い。	□朝学習や家庭学習で、新聞記事や説明文、物語文をもとにしたプリントに取り組むことで読解力を伸ばす。 □読書の習慣が身に着くよう、学校司書と連携を図り読書環境を整える。
	6年	○「読む能力」については全国とほぼ同じである。 ○「書く能力」はやや低いが、問われていることに合わせた表現を使って文章を書くことはできる。 ●どのように話したらよいかを考え、適切な言葉を選んで話すことに課題がある。	□冊数や分類などの目標を決めたり、図書の紹介をしりして読書量を増やす。 □学習中や日記などの書く活動の中で辞書を用いて漢字を使うように促す。
算数	4年	○全国に比べて算数への「関心・意欲・態度」が高い。 ●「数量や図形についての知識・理解」や「数学的考え方」の観点が高いことから、学習したことが定着していないこと、また、思考し、活用する力が弱いことがうかがえる。	□学習のねらいを明確にし、ペア、グループ、全体での話し合いを通して学ぶ学習を行う。 □図、式、言葉を用いて考えることよさが実感できるよう、数学的活動を取り入れる。
	5年	○四則計算は、概ね理解している。 ●対角線、垂直、辺、など図形の理解について課題がある。 ●情報を読み取り、活用したり、理由を論理的に記述したりすることに課題がある。時間内に問題を解くことができない児童が多い。	□数や図形の感覚を豊かにするために、体験を取り入れた数学的活動を取り入れる。 □計算や測定の結果を見積もったり、求めた結果を振り返って確かめたりする活動を充実する。
	6年	○昨年の調査で課題になっていた「図形」領域は全国を上回る。 ●「量と測定」領域や数学的考え方を生かして説明する記述式の問題に課題がある。	□算数の用語を使ってペア、グループで説明し合う活動を積極的に行う。 □読み取ったことを数直線図に表す指導を重視する。
社会	5年	●どの領域においても、複数の資料を読み取り、まとめることに課題がある。 ●読み取りに時間がかかり、時間内に問題を解くことができない児童が多い。	□授業の中で、ペアやグループ学習を取り入れ、資料を読み取って話し合う活動を重視する。 □家庭学習を活用し、新しい言葉や知識などの理解を深める。
	6年	○基礎的な知識・理解は全国より高い。 ●社会の出来事に対する興味・関心や活用力が低い。学習対象が広範囲になり資料の読み取りが必要になるが、言葉や文章の理解力不足が理解の妨げになっている。	□視覚的な資料を活用する。 □単元の終わりに学んだことをまとめ、自分の考えや感想を書く活動を行う。
理科	5年	●実験などから分かることを文章にしてまとめることに課題がある。 ●実験結果をもとに推測したり、まとめて説明したりすることに課題がある。	□実験方法や結果などをグループのみんなで話し合い、理解を深める。 □実験・観察の際、結果だけではなく、自分の言葉で考察や結論を書く活動を続ける。
	6年	○全国に比べると、正答率は概ね上回り、特に活用、記述式の問題では大きく上回っている。 ●実験・観察の技能は目標の数値を下回っている。	□実験・観察を可能な限り体験できるようにする。 □単元の終わりに学んだことをまとめ、自分の考えや感想を書く活動を行う。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○日々の授業において「めあて」を明確にし、「振り返り」の場を設けることにより、児童は見通しをもって学習することができた。 ●算数に関するアンケートの結果よりペアやグループでの学習に意欲的な児童の割合に比べて、自分の考えを話すことに消極的な児童が多い。 ●学力調査やまとめのテストの結果より、学んだことが定着していない内容が見られる。	□単元、本時の目標を期待される子どもの具体的な姿で示し、それに対応した「振り返り」の場を設ける。 □ペア学習やグループ学習、一斉学習の意図を明確にし、効果的に取り入れる。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○音読や宿題に真面目に取り組む児童が多い。 ●自学の内容に課題が見られる。 ●家庭での読書時間が少ない児童が多い。	□学習プリント配信システムを活用し、これまでに学習した内容を復習したり、学習内容の定着を図ったりする。 □日記や作文など書く活動を適時取り入れる。 □音読の教材選定や漢字練習の仕方を工夫する。 □学年の実態に応じて自学の取組について指導する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○チャレンジ週間の取組を通して、睡眠やメディアの時間に対する意識が向上した。 ○地域の自然や人材を活かした学習に、児童が意欲的に取り組んだ。 ●メディア接触の時間に個人差が見られる。	□総合的な学習や生活科、ふるさと学習等において経験を豊かにし、情報を活用し、まとめたり表現したりする活動を充実する。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立大社小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

<p>○全国学力調査の結果は、無回答率が低く特に活用問題に粘り強く取り組むことができている。</p> <p>○市学力調査では、学年や教科の内容によって理解度にばらつきがある。</p> <p>《国語》 ○作文を書く力はついてきている。 ●自分の思いや考えを表現するために語彙を増やす必要がある。</p> <p>《算数》 ○基礎的な計算力はついてきている。 ●自分の考えをわかりやすく説明することに課題がある。</p> <p>《社会》 ○見学や調べ学習をした内容は、概ね理解している。 ●資料と実際の生活を結び付けて考える力に課題がみられる。</p> <p>《理科》 ○実際に実験したり観察したりした単元については概ね理解している。 ●実験や観察から得られた結果をもとに、論理的に考えたり、表現したりすることに課題がある。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○話し合いの内容を聞き取ることはできた。 ○漢字の読みはほとんどの児童ができていた。 ●漢字を書くことはむずかしい。言語事項は全体的に弱い。 ●インタビューの問題の質問の意図やねらいを捉えるのは苦手である。	□語彙が少ないので、漢字練習のときはテストに出るものだけでなく、広く用例などにもふれさせる機会を設定する。 □時間を決めた視写に取り組ませる。
	5年	○普段のテストも含め、文章の読み取りはできる。 ●問題に慣れておらず、最後までできない児童もいる。 ●内容を聞き取る力や自分の考えをまとめて書く力が弱い。	□話す側は、要点をまとめて話すようにし、聞くときには、集中して話を聞くよう促す。 □作文や日記等の文章を書くときに、何が書きたいのかを意識させる。また、「始め・中・終わり」で段落にしたり接続詞に注意して書いたりするよう指導する。
	6年	○正答率は、県、全国平均とほぼ同じである。無回答率が全体的に低く、粘り強く取り組む児童が多い。 ○文章をしっかり読んで考えることや目的に応じて質問を工夫することができる。目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、条件に合わせてまとめて書くことができる児童が多い。 ●ことわざの理解や漢字の習得にかなり個人差がある。 ●文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って書く力がやや弱い。	□練習プリントなどを使って、資料と文章を関連付けて考える力や言語理解を深める。 □授業の中や、日記、作文を書く時に、接続語を意識させる指導を行う。
算数	4年	○全般的に目標値を上回っている。 ●ひっ算の繰上がり繰下がりがりや位取りの理解が不十分である。 ●問題を読み、意図を理解して考えることが課題である。	□たし算や引き算のひっ算の復習をする。また、2学期、わり算のひっ算が出てくるときに、計算の仕方だけでなく、その意味を図や操作活動を通して理解させる。 □習熟度別で学習をすることにより、説明する機会を増やす。
	5年	○学習にまじめに取り組む、習ったことを使って問題を解こうとする意欲が見られる。 ●基礎的な内容の定着に課題があり、割り算の技能や小数の加法減法の仕方がしっかり身に付いていない。●自分の考えを表現することが苦手で、理由を記述する問題に無回答の児童が4分の1いる。	□放課後に補充学習を行ったり、基礎的な計算の復習を家庭学習プリントで行ったりする指導を行う。 □友達と理由を話し合ったり、ホワイトボードやノートに理由を書いて説明したりする活動を学習過程の中に取り入れる。
	6年	○全体の平均点、すべての領域において、県、全国の平均点を上回っている。 ○無回答率が低く、粘り強く取り組む児童が多い。 ●小問ごとに求める対象が変わっていることに気づかないなど、問題文を読む力に課題がある。●減法、除法の性質を理解し、計算を工夫して行うことはできているが、そのことについて、自分の言葉で説明する力は弱い。	□操作活動を通してイメージがもてるようにし、問題文を図や表で表したり、自分の言葉で説明させたりする機会を増やす。 □復習プリントやテストをするたびに、問題文をしっかり読むことや見直すことを徹底する。
社会	5年	○見学したり、話を聞いたりした内容・領域については、大理解している。 ●普段のテストも含め、知識理解の分野の正答率が低い。	□知識理解を深めるために、毎時間5分間は、県や国、海洋、地球儀など基礎的な知識の習得を図る問題を出す。
	6年	○学力調査の結果から、ほとんどの領域で目標値を上回っている。 ○思考力、表現力が育っており、記述問題や活用問題の正答率が高い。 ●資料を読み取る力にやや課題がある。	□資料の見方や比べ方、書き方のパターンを示して、児童が取り組みやすいようにする。
理科	5年	○実際に観察したり実験したりしたことは、大理解している。 ●実験結果等から理由を考えたりすることは苦手である。	□知識理解の領域の定着度が低いので、毎時間5分間は、基礎的な知識の習得を図る問題を出し、復習しながら学習を進めるようにする。
	6年	○思考力、表現力が育っており、活用問題や記述問題の正答率が高い。 ●植物の発芽と成長、花のつくりと実に関する基礎的な内容や顕微鏡の使い方の手順や各部の名称についての知識が十分ではない。	□6年生の内容を学習する際に、既習事項をしっかり確認することで、定着している内容と定着していない内容についての自覚を促す。また、復習プリントを用いて繰り返し練習問題に取り組ませる。 □実験の際に、実験器具の名称や使い方の手順等を細かく確認することで、知識の定着を図る。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「理科の観察や実験を行った」と答えた割合が高く、実感を伴った学習が児童の理解を高めている。 ●「授業の内容がわからないことがあれば先生に質問している。」という児童は半数である。人に尋ねたり自分で調べたり、友達と話し合ったりして理解や考えを深めようとする児童を育てる必要がある。 ●自分の考えを適切な言葉を使って文章に書くことや資料を読んで分析しながら考えを書くことに苦手意識がある。	□ペア対話やグループでの話し合いの場を設定し、図や文章を使って自分の考えを説明したり、討論したりすることで考えや理解を深めさせる。 □毎時間、本時のねらいとゴールを意識した「めあて」を立て、授業を進める。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○「宿題はきちんとしている。」児童がほとんどである。また、「自分で勉強の計画を立てて勉強しているか」という問いに対して「はい」と答えた割合はどの学年も70%をこえ、計画的に宿題をする習慣は身につけている。 ●新聞記事をほとんど読まない児童が約60%、多様な問題に積極的に挑戦している児童が約30%と、積極的に取り組む意欲が低い。自分から進んで学習に取り組ませる工夫が必要である。 ●「読書は好き。」という児童は約80%で、1日当たりの読書の時間が1時間～30分程度の割合が昨年度より増えている。しかし、2時間以上読む児童の割合は約10%もいる一方で、10分に満たない児童が約30%いることから、読書量に個人差があると言える。	□漢字計算練習や音読などの基礎基本の定着を図る宿題や視野を広げるような課題を出したり、工夫した自主学習を紹介したりするなどして、「学年×10分+10分」の家庭学習の時間を確保し、自ら進んで学習に取り組ませる。 □お薦め本リストの配布や委員会活動の企画を工夫し、学校図書館などの利用を促し、読書の推進を図る。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「自分の住んでいる地域が好きか。」の問いや「地域社会などでボランティア活動に参加している。」項目の割合が、どの学年も70%以上と地域への関心が高いと言える。 ●今までの生活習慣改善の取組の結果から、学校で設定する理想とする睡眠時間を達成している児童は約60%である。また、メディア1日2時間以内が守られていない児童は、約20%である。睡眠やメディア利用について家庭との連携が必要である。	□学校保健委員会や町内保幼小中連携によるチャレンジ週間を中心に、基本的な生活習慣を見直す機会を設けたり、学習環境を整えたりする取組を家庭や地域と連携して行う。(早寝、早起き、朝ごはん、質の良い睡眠、メディアの利用、読書習慣など)

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立荒木小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- (1) ○算数の基本的な計算問題は解くことができています。  
 ●国語では、条件に合わせて作文を書いたり、理由を挙げて文章を書く力が弱い。  
 ●社会では、グラフや地図など資料を読み取る力が弱い。
- (2) 学年によって差異は見られるが、領域別にみると、全体的に「書く能力」が、弱い。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	●条件に合わせて作文を書く力が弱い。 (指定された長さ・2段落構成) ●理由や事例を挙げて文章を書く力が弱い。	<input type="checkbox"/> 朝学習で、条件に合わせた短作文を書く。 <input type="checkbox"/> 授業の中で、自分の考えに理由を書く活動を取り入れる。 <input type="checkbox"/> 日記や作文を書くとき、段落を意識して書くようにする。
	5年	●条件に合わせて作文を書く力が弱い。(指定された長さ・2段落構成・無回答が多い) ●理由や事例を挙げて文章を書く力が弱い。	<input type="checkbox"/> 朝学習で条件に合わせた短作文を書く。 <input type="checkbox"/> 授業の中で、自分の考えに理由を書く活動を取り入れる。
	6年	○目的に応じて、文章全体を読むことができています。 ●文と文のつながりを考えながら、接続詞を使って書くことが苦手である。	<input type="checkbox"/> 日記や作文を書くとき、文と文のつながりを考えながら、接続詞を使って書くようにする。
算数	4年	○基本的な計算問題はできています。 ○数の相対的な大小の比較はできています。 ●小数の理解や□を使った乗法の立式が不十分である。 ●計算の工夫の仕方の理解が不十分である。	<input type="checkbox"/> 文章をイメージする力を付けるために、問題の大事な箇所を囲む、線を引く、図で表すなどの時間を十分にとる。 <input type="checkbox"/> 立式の理由を説明する時間をとるようにする。
	5年	●作図(特にひし形)が正確にできていない。 ●数量関係を図に表したり、図を読み取ったりする力が不十分である。 ●2次元表の読み取り(無回答が多い)が不十分である。	<input type="checkbox"/> 他教科を含め、資料の読み取りを丁寧に行う。(表やグラフ) <input type="checkbox"/> 学習で図を使って説明する活動を増やす。
	6年	○図形の性質については理解できている。 ●立式はできるが、求め方の説明を記述する力が不十分である。 ●式の意味の理解が不十分である。	<input type="checkbox"/> 授業の中で、立式の説明をしたり、書いたりする活動を取り入れる。
社会	5年	○安全な暮らしについての理解はできている。 ●県の様子(資料の読み取り、土地の断面図の読み取り)や、国旗の読み取りが不十分である。	<input type="checkbox"/> 複数の資料からの読み取りや、新聞からの引用等、興味深く取り組める宿題を出す。 <input type="checkbox"/> 学習で地図や資料の読み取りの見方を指導する。
	6年	○「世界の中の国土」についての理解はある。 ●知識・理解が弱い。(工業生産と貿易、身の回りのメディア) ●資料の読み取り、資料をもとに考える力が弱い(工業生産と貿易、日本の農業・水産業)	<input type="checkbox"/> 復習プリントや自学プリントを活用して、複数の資料を比較して内容を読み取る力や、読み取った内容を活用する力をつける。
理科	5年	●植物の成長や電気のはたらき(図の読み取りと説明)の理解が不十分である。	<input type="checkbox"/> 体験的な学習を取り入れることによって、学習する内容を身近なものとして理解できるようにする。 <input type="checkbox"/> 視覚教材を活用し、理解を深めるようにする。
	6年	○概ね良好である。(科学館での学習が効果的) ●理科用語(専門用語)の理解や、理科用語を使って説明することが不十分である。 ●顕微鏡など、実験器具の使い方が理解できていない。	<input type="checkbox"/> 使い方の順番や名称を復習する <input type="checkbox"/> 理科用語を使った説明を意識させる。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	( )は、全国平均と比べて ○授業では、きちんとノートをとっている児童が多い。(＋3%) ●話し合いで、自分の考えを進んで発表していない児童が多い。(－5%)	<input type="checkbox"/> 「だんだんタイム」として、週に1回15分間のショートエクササイズを行う。そこで、身に付けた、聞き方や話し方を学習の中に取り入れていく。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	( )は、全国平均と比べて ●本や新聞記事を読んでない児童が多い。(－9%) ●授業のために予習・復習をしている児童が少ない。(－5%)	<input type="checkbox"/> 図書館に、小学生用の新聞を置き、児童が身近に新聞を読むことができるようにする。 <input type="checkbox"/> 学年ごとのおすすめ本を紹介したり、家庭で保護者と一緒に読書をする機会を設けたりする。 <input type="checkbox"/> 自主学習の中で、予習・復習を取り入れるようにする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	( )は、全国平均と比べて ○夜は時刻を決めて寝ている児童が多い。(＋10%) ●家の手伝いをしていない児童が多い。(－10%)	<input type="checkbox"/> 道徳の時間や、家庭科の学習で、家族の一員であることを自覚させ、自分が家族のためにできることを考えてするようにする。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

## 出雲市立遙堪小学校

### 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 国語は、4、5、6年生ともに全国平均を下回った。
- 算数は、4、5、6年生ともに全国平均とほぼ同等であった。
- 社会、理科は、5、6年生ともに、全国平均を上回った。
- 4、5年生では、家庭学習を自分で計画を立てて進めている児童や家の人に言われなくても進んでいる児童の割合が全国平均よりも高かった。
- 5、6年生で、就寝時刻が決まっていない児童の割合が多かった。

### 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○「話すこと・聞くこと」の正答率は全国平均を若干上回った。 ●作文の正答率が市・国平均よりも大きく下回った。	□「書く」学習を定期的に取り入れる。特に、論理的な文章を書く活動を行う。 □たくさんの文章を読む機会をもつ。(読書、新聞記事等)
	5年	○情報を適切に読み取り、文章に書く問題の正答率が高かった。 ●「物語の内容を読み取る」の正答率が、市・国平均を大きく下回った。	□声に出しながらの漢字練習を行い、耳で漢字の読みになれることができるようにする。 □物語の学習では、どうしてそう思ったかを、本文中の言葉を根拠に説明する活動を大切にする。
	6年	○「目的に応じて、文章を効果的に読む」「目的に応じて、質問を工夫する」の問題の正答率が高かった。 ●「書くこと」「言語についての知識・理解に関すること」の領域が県・全国平均を大きく下回った。	□読書量・幅が少ないため、朝読書に向けて本の紹介をするなど関心をもたせる。 □「新聞記事を読む。辞書を活用する。投書を書く。」中で、読む力や書く力を養う。
算数	4年	○「かけ算」「長さ・重さ」の問題は、市・全国平均を上回った。 ●「時刻と時間」の問題の正答率が低かった。	□日常的に時刻や時間を意識させていくようにする。 □スモールステップで進めたり、ペア学習を効果的に行ったりしながら、思考時間を確保する。
	5年	○数量や図形についての技能の正答率が高かった。 ●数学的に思考し、論理的に理由を説明する問題の正答率が低かった。	□発展的な問題について、児童が協働的に課題解決する時間を単元ごとに設定し、その理由を自分の言葉で考えて書くという時間を十分に確保する。
	6年	○数量や図形についての技能が県・国平均を上回った。 ●数量や図形についての知識・理解が県・国平均を下回った。	□基礎基本の定着のため、練習問題の時間を確保し、個別の支援を行う。 □振り返りのできるノートづくりの指導をする。(筆算欄、考え方コーナー、コメント等)
社会	5年	○基礎問題、活用問題ともに、市・全国平均を上回った。 ○資料の読み取りの問題の正答率が高かった。 ●「地図の見方」の正答率が、市・国を大きく下回った。 ●語句を答える「短答」の解答形式の問題の正答率が低かった。	□授業の中で、地図帳を活用する場面を設定し、地図に慣れることができるようにする。 □重要語句を丁寧に扱う。まとめや、ふりかえり場面に、語句を使って、まとめたりできるようにする。
	6年	○基礎問題、活用問題ともに、市・全国平均を上回った。 ○「農業や水産業」「工業生産」の正答率は、市・全国平均を大きく上回った。 ●「情報産業や情報化社会」には課題があった。	□身の回りのメディアや情報ネットワークについて、もっと具体的に捉えられる資料を準備して用語についての理解を図る。 □板書を工夫して内容を整理し、学習したことの関連性を視覚でわかりやすくとらえさせながら理解を図る。
理科	5年	○理科の4つの観点全てにおいて、市・全国平均を上回った。 ○「物の体積と力」「物の体積と温度」の問題の正答率が特に高かった。 ●「1年間の植物の成長」の正答率が、市・全国平均を大きく下回った。	□学習と日常生活とが結びつくように、授業や単元のおわりでのまとめ、ふりかえりを工夫する。
	6年	○基礎問題も市・全国平均を上回ったが、特に活用問題の正答率が高かった。 ○「植物の発芽と成長」「電流のはたらき」の問題は、市・全国平均を大きく上回った。 ●顕微鏡の使い方に課題があった。	□グループの実験では、一人一人が実験の準備に関わったり、実験道具を使ったりすることができるようにする。また、使い方について繰り返し確認をする。

### 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思うと答えた児童が国平均と比べて16.6%高かった。 ●「新聞記事を読む」という質問を全国と比較すると4年生で6.8%、5年生で14.8%、「テレビのニュースを見ている」という質問では4年生で1.9%、5年生で12.3%低かった。	□児童から出た疑問や調べたいこと、深めたいことから学習の課題を設定する。 □個人や集団思考を深めるための手立てとして思考ツールを使ったりペアやグループ学習を行ったりする。 □新聞記事や資料の見方を丁寧に指導し、自分の考えをまとめたり、深めたりできるようにする。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○4年生で自分で計画を立てて勉強している児童の割合が国平均より5.3%高く、5年生で家の人から言われなくても進んで勉強している児童の割合が17.2%高かった。 ○自分で時間を決めてテレビを見ている児童が全国平均より、4年生で11.2%、5年生で10.6%高かった。 ●毎日、同じ時刻に寝ている児童が、5年生で全国平均よりも8.5%、6年生で10.8%低かった。 ●6年生で家で自分で計画を立てて勉強している児童の割合が国平均より12.6%低かった。	□家庭学習パワーアップ週間を通して、学習時間や内容の見直しができるようにする。各学年の自主学習ノートを公開することで、友だちのまとめ方から学べるようにする。また、学級通信で紹介したり、保護者コメント欄を設けたりして、家庭の協力を得ながら進める。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○全国平均と比べ、4年生で25.8%、5年生で17.5%、6年生で14.3%と、全ての学年で「地域の行事に参加している」と答えた児童の割合が高かった。	□生活科や総合の学習で地域の「ひと・こと・もの」を積極的に活用していく。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

## 出雲市立荘原小学校

### 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

<p>○4年生、6年生は、各教科とも市平均、全国平均を上回っている。特に、4年生の算数は平均を大きく上回っている。</p> <p>○国語では言語についての知識・技能・理解、社会では社会的現象についての知識・理解、算数で数量や図形についての技能、理科では自然現象への知識・理解の正答率が高く、基礎・基本の学習内容が定着している。</p> <p>○基本的な生活習慣や家庭学習の習慣が身につけている児童が多く、発達段階に応じた家庭学習の時間が確保できている。</p> <p>●日々の授業には落ち着いて取り組めているが、国語や算数の学習への関心や意欲はやや低い。</p> <p>●「伝えたいことを明らかにして文章を書いている」「改行など形式を工夫して文章を書いている」に肯定的な回答が多いが、「書くこと」の領域は全国平均を下回っている。</p> <p>●算数では、「数や計算」、「量と測定」の領域は正答率が高いが、「図形」や「数量関係」の領域の正答率が低くなっている。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	<p>○漢字の読み書きはほぼできており、ローマ字の綴りをよく理解している。</p> <p>○物語や説明文の内容の読み取りはおおむねできている。</p> <p>●説明文の段落の役割を理解して内容を読み取ることに課題が見られる。</p> <p>●指定された文字数で文章を書いたり2段落構成で文章を書いたりすることに、大きな課題がある。</p>	<p>□文章題を読み取る際、題材文の大事な文や言葉に印をつけることを習慣づける。</p> <p>□水曜日の朝学習の時間を活用し、書く力やいろいろな文章を読み取る力など、基礎的な能力を高めるようにする。</p>
	5年	<p>○「話すこと、聞くこと」については、おおむね良好である。</p> <p>●「漢字を読む」と「物語の内容を読み取る」に課題がある。</p> <p>●領域「読むこと」、観点「読む能力」に課題がある。</p>	<p>□授業で読みのスキル(大切な言葉や文に線を引く、キーワードを引用するなど)を提示し、具体的に指導していく。</p> <p>□家庭学習や朝学習で読みとりプリントに継続して取り組む。</p> <p>□音読を家庭学習だけでなく、授業の中にもとり入れ、漢字の読みの定着を図る。</p>
	6年	<p>○ことわざの引用、文の中で漢字を正しく使うことなど、言語についての知識・理解・技能についてはよくできている。</p> <p>●図表やグラフなどを用いた目的を捉えて書く、情報を相手に分かりやすく伝えるために記述を工夫して書くなど、書く能力の育成に課題がある。</p>	<p>□読書をしたり新聞を読んだりする機会を設け、まとまった文章を読む経験を増やし、語彙を豊かにし言語表現の基礎を養う。</p> <p>□目的や必要に応じ、情報の中から必要な部分を抜き出して、文章にまとめる学習を多く取り入れる。</p>
算数	4年	<p>○全体的に算数の学習内容はよく理解できている。</p> <p>○「加減乗除の計算」、「分数のたし算」、「少数の仕組み」等、基礎的な内容はよく理解できている。</p> <p>●活用の問題で理由や説明を記述する問いに対して、自分の考えを文章で説明することに課題がある。</p>	<p>□算数プリントやドリル学習に毎日宿題で取り組むとともに、間違いを直すことを徹底し、基礎学力の定着を図る。</p> <p>□自分の考えや理由を説明する際、説明上ポイントとなる内容やキーワードを落とさずに書く活動を、学習の中に意識的に取り入れる。</p>
	5年	<p>○「面積」の分野においては、学習内容を理解しておりおおむね良好である。</p> <p>●「いろいろな形」と「折れ線グラフと表」に課題がある</p> <p>●領域「図形」、観点「数量や図形」についての知識・理解に課題がある。</p>	<p>□自分の考えを持ち、主体的に参加できる授業構成を考え実施する。</p> <p>□習熟度別少人数指導を活用し個に応じた指導を徹底する。</p> <p>□家庭学習や朝学習で基礎的事項や既習の内容を繰り返し指導し、習熟をはかる。</p>
	6年	<p>○場面の状況にあわせて、単位量当たりの大きさを基に考えることはよくできている。</p> <p>●2つのグラフを関連付けながら、数量関係を捉えることに課題がある。</p> <p>●計算のきまりを使って、工夫して計算することに課題がある。</p>	<p>□毎週1回実施している補充学習の時間に、課題が見られる問題を取り上げるようにする。</p> <p>□複数の条件が示された文章問題を解く機会を増やし、必要な情報を選択して問題を解く力を伸ばすようにする。</p>
社会	5年	<p>○全国平均とほぼ同程度で、学習内容が定着している。</p> <p>●「地いきの発展につくした人々」に課題がある。</p> <p>●領域「先人の働き」に課題がある。</p>	<p>□ポケット社会ブックや教科書を利用したり、継続して5問テストをしたりして、基礎的事項、用語の定着を図る。</p> <p>□社会現象や地域の話題に触れさせる機会を持つなど、興味関心を高めると共に、調べ学習を積極的に取り入れる。</p>
	6年	<p>○「日本の国土と人々の暮らし」、「日本の農業と水産業」については理解している。</p> <p>●「日本の食料生産」、「自動車を作る工業」については理解が十分でない。</p> <p>●概念を捉え切れていない用語があり、理解を深めたり、活用できるようにしたりする必要がある。</p>	<p>□ポケット社会ブック等を活用し、社会の学習で扱う用語の定着を図り、知識として押さえるべきことを明確にして学習を進める。</p> <p>□資料を読み取ってノートやワークシートまとめたり、自分の考えを表現したりする機会を増やし、用語の活用、定着を図る。</p>
理科	5年	<p>○「物の体積と力」と「水のすがた」においては、学習内容を理解している。</p> <p>●「1年間の動物のようす」と「電気のはたらき」に課題がある。</p> <p>●領域「生命・地球」、観点「自然現象についての知識・理解」に課題がある。</p>	<p>□ポケット理科ブック等を利用して、基礎的事項の定着を図る。</p> <p>□実験や観察などの活動を重視し、実際に見たり、感じたりすることにより、「分かった」という実感を持たせる。</p> <p>□ICTの活用をし、実際の体感できないことも理解できるようにする。</p>
	6年	<p>○「植物の発芽と成長」、「魚のたんじょう」、「物のとけ方」、「ふりこのきまり」について理解している。</p> <p>●顕微鏡の使い方、水に溶けた物の取り出し方については理解が十分でない。</p> <p>●概念を捉え切れていない用語を、活用できるようにする必要がある。</p>	<p>□顕微鏡の使い方について復習の機会を設け、十分理解できるようにする。</p> <p>□水に溶けた物の取り出し方については、「水溶液の性質とはたらき」の学習の中で重点的に取り上げ、定着を図る。</p> <p>□ポケット理科ブック等を活用し用語の定着を図る。</p>

### 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	<p>○「分からないことがあれば先生に質問している」に肯定的な回答が、各教科とも全国平均を上回っている。</p> <p>●各教科で「授業のために予習をしている」と答えた児童の割合が、全国平均よりも10%程度低い。</p>	<p>□まとめ、振り返りの中で、児童に次時への見通しを持たせたり、次時につながる課題を与えたりする。</p> <p>□めあてを提示し、そのめあてと照らし合わせたまとめや振り返りを行う。</p>
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	<p>○1日の家庭学習の時間が1時間を超える児童が6割以上で、学年相応の家庭学習時間が確保できている。</p> <p>●各教科で「新聞記事を読んでいる」「地図を使って調べている」「分からない言葉があれば辞書を使っている」についての肯定的な回答は、全国平均を下回っている。</p>	<p>□全校で共通理解を図り、週1回取り組む日を決めるなどして、全校で共通理解を図り身につけた力を活用する自学に取り組む。</p> <p>(例) 新聞記事を読んだ分かったことと感想を書く、詩や俳句をつくる、算数の問題作りをする、など。</p>
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	<p>○「自分が住んでいる地域が好きである」について、約7割の児童が肯定的に回答しており、自分が住んでいる地域への関心や愛着が高い児童が多い。</p> <p>●「地域の行事に参加している」に「あてはまる」と答えた児童は、4年生65.3%、5年生59.7%とほぼ全国平均と同じであるが、4年生に比べ5年生が5ポイント以上低かった。</p>	<p>□地域とのつながりを持つ学校行事や学習(弥生の舞、しめ縄づくりなど)を継続して行い、更に地域への関心や愛着心を高める。</p> <p>□地域の行事(盆踊り、地区民運動会等)に積極的に参加し、更に地域との連携を強めていく。</p>

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

## 出雲市立西野小学校

### 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○6年生に日頃の指導の成果が表れている。特に6年生の理科はおおむねよい。  
 ○6年生の国語ではやや全国平均を上回っており、特に「読み取り」や「言語についての知識・理解」で力を発揮できている。  
 ○5年生の社会の「安全を守る」や5年生の理科「観察・実験の技能」などではやや成果がみられる。  
 ●4、5年生に課題がある。4、5年生の国語と算数は、どの項目でも全国平均を下回っている。特に国語の「書くこと」や算数の「図形」に課題が見られる。

### 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○国語辞典の使い方が理解できている。 ○第3学年配当漢字を読むことができる。 ●主語、述語など、文章の構成の理解が十分ではない。 ●複数の条件を満たした文章を書くことに課題がある。	□読書活動を積極的に勧める。好きな本だけでなく、長文のものや、おすすめの本にも目が向くようにする。 □教科書の言葉やキーワードを使って、理由を明確にして文章を書いたりまとめたりすることを授業に取り入れる。
	5年	○目的や必要に応じて、場面の様子や登場人物の気持ちを読み取ることができる。 ●段落のまとまりを理解して、文章の内容を的確に書くことに課題がある。 ●第3・4学年配当漢字を読んだり書いたりする力がついていない。	□朝読書を中心に普段から読書量を増やしていく。 □普段の授業で、文章から読み取ったことを目的や形式を明確にして伝えたり、書いたりする活動を増やす。 □日記など、普段から文を書く習慣をつけ、習った漢字を使うようにする。
	6年	○漢字はおおむね書くことができる。 ○選択式で正答率が高いことから、おおむね理解している。 ●複数の条件を満たして文章を書くことに課題がある。 ●下線部のみに着目してしまい、問われていることが何を理解するのが難しい。	□授業の中や宿題で、意味調べを行うなど、辞書と触れ合う機会を多く取り入れるようにする。 □授業の中で漢字や言葉の意味をおさえるようにする。
算数	4年	○整数や小数の相対的な大きさ、はかりの目盛りの読み方、整数や小数の加法減法など基本的なことを理解している。 ●計算の仕方や自分の考えを説明することができにくい。 ●棒グラフを正しく読み取ること課題がある。	□計算の仕方について、自分の言葉で説明することを習慣化する。 □朝活動などの時間をつかって、理由や根拠を考えるような学習を継続的に行う。 □授業の中で操作活動や図に書くことを丁寧に行う。
	5年	○概数に対応する数の範囲が分かる。 ●文章問題の中で図を使って表したり、図を理解したりすることが難しい。 ●伴って変わる2つの量の関係を式に表したり、一方の値からもう一方の値を求めることができにくい。	□文章問題の中から必要な情報を抜き出し、図式化する活動を増やす。 □伴って変わる2つの量について、その変化の特徴を見つける学習を表を使って繰り返し指導する。 □平行や垂直といった図形用語を覚え、説明できるようにする。
	6年	○発展問題にも取り組んだので、類似した問題に対応することができた。 ●問題の一部に関してしか回答できず、問われていること全体についての説明がしにくい。 ●多くの情報の中から必要な情報を見つけ出し用いることが難しい。	□単に答え合わせで終わるのではなく、式に着目し、説明できるようにしていく。 □普段の授業の中で、一回の演習で終わるのではなく、別の数に置き換えて取り組むなど、何回か試してみても、どんな場合でも成り立つということを実感させる。
社会	5年	○交通事故を防ぐための工夫やきまりについて、資料をもとに考え、表現することができる。 ●資料から分かったことを、適切な言葉で表現することに課題がある。 ●方位、等高線の理解、地形図の読み取りなどに課題がある。	□地図の読み取りの能力をつける。地図から分かることは何かを考えさせる。 □社会分野の用語と児童の生活経験を結び付けて理解できるようにする。
	6年	○日本近海の漁獲量や日本の食糧自給率について、資料を読み取ることができる。 ●問題文の読み取りに課題がある。 ●地形図の読み取りに課題がある。	□地形図や資料の読み取り能力をつける。地図や資料から分かることは何かを考えさせる。 □社会科分野の用語の意味をおさえ、児童の生活経験と結び付けて理解できるようにする。
理科	5年	○記述問題は、意欲をもち取り組んでいる。 ●実験などで分かったことを知識として定着させることが難しい。 ●科学的な視点で考え、説明することに課題がある。	□実験とその結果をしっかりとおさえ、理科の用語で説明したり答えたりすることができるようにする。
	6年	○自分たちで実験したことについては、よく理解できている。 ●顕微鏡を正しい手順で使うことができにくい。	□顕微鏡を使う経験を増やす。台数が少ない場合は、同じ子どもだけが操作するのではなく、誰もが触れることができるようにする。 □顕微鏡の使い方(手順・名称等)をはじめ、学習したことについて足跡が分かるように掲示しておく。

### 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「話し合いで、自分の考えを話す。」5年生(60.4)4年生(58.9)と、進んで話そうとする児童の割合が高い。 ●6年生で「算数の勉強はすきですか。」(35.4)「算数の勉強は大切だと思うか。」(70.8)「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法が無いかなと考えますか。」(40.7)というような質問で、全国よりも数値が低く、算数の学習意欲が低い傾向にある。	□授業の中で辞書を使う機会を増やす。 □友だちの説明をよく聞き、自分の言葉でもう一度説明できるようにする。 □算数で習熟度別の授業を行う。 □コンピュータなどのICTを活用した授業がやりやすいように環境整備を行う。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○「家で自分で計画を立てて勉強をしている。」6年生(53.1)「家の人から言われなくても進んで勉強している。」5年生(82.3)4年生(86.3)と、全国よりも高い割合で家庭学習に意欲的に取り組んでいる。 ●「勉強に辞書を利用している。」5年生(43.8)「分からない言葉があれば辞書を引いている。」4年生(38.9)と、辞書などを用いて調べることが少ない傾向にある。 ●「本を読んでいる。」4年生(58.9)と、読書の習慣が定着していない傾向にある。	□本を読む習慣をつける。読書仲間や読み聞かせを継続する。 □自分の力で調べたり考えたりするような自主学習を推奨する。 □計算練習だけでなく、思考力を高める課題を家庭学習で出す。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「朝食を家の人と食べる。」5年生(85.4)4年生(80.0)「時刻を決めて寝ている。」5年生(63.5)4年生(66.3)など、規則正しい生活習慣が身に付いている。 ●「学校が好き。」、「自分のことが好き。」「家の人から認められている。」などの項目で全国の数値を5ポイント以上下回っており、自尊感情の低さが伺える。	□家庭でも自尊感情が高まるような関わりの仕方を啓発する。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

## 出雲市立中部小学校

### 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

<ul style="list-style-type: none"> <li>○継続的な取組(家庭学習、朝スキル)により、基礎的・基本的な学習が身についている。</li> <li>○基本的な学習習慣はできている。また、話し合い活動で、相手の話をしっかり聞き取ったり、自分の考えを進んで話したりしている。</li> <li>○ひかわ図書館が近いこともあり、どの学年も図書館を利用する児童が非常に多い。</li> <li>●与えられた条件(文字数、段落数等)に合わせて、自分の考えを書く力に課題がみられる。</li> <li>●社会的事象についての知識・理解に課題がみられる。</li> <li>●実験技能の習得に課題がみられる。</li> </ul>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字を読み書きする力や、物語の内容や登場人物の気持ち等を適切に読み取る力が身についている。</li> <li>●書くこと(作文)の個人差が大きい。指定された長さや段落構成で文章を書く力や、書こうとすることの中心を明確にして書く力に課題がみられる。</li> <li>●大事なことを落とさないように聞き取る力に課題がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□日常的に書く活動を増やし、書くことへの抵抗感を減らす。また、文字数や段落数などの条件を設定して作文を書く活動を取り入れる。</li> <li>□短文を読み聞かせてから、いくつかの質問に答えさせる活動をし、大事なことを聞き取る力を育成する。</li> </ul>
	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○質問の意図を捉えながら聞き取ることができる。</li> <li>○登場人物の心情や場面の様子などを捉える力が身についている。</li> <li>●前学年の配当漢字を読む力や漢字辞典の使い方について課題がみられる。</li> <li>●書くこと(作文)の個人差が大きい。自分の考えが明確になるように具体的に文章を書くことに課題がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□漢字辞典を日常的に活用する場面を増やし、語彙力を高める。</li> <li>□書くときには、テーマについて自分の考えをもたせ、目的や必要に応じた内容を表現する活動を取り入れる。</li> </ul>
	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報を相手に分かりやすく伝えるために記述の仕方を工夫する力が身についている。</li> <li>○書くこと(作文)では、文と文の意味をつながりを考えながら、接続詞を使って内容を分けて書く力が身についている。</li> <li>●前学年の配当漢字を文の中で正しく使うことに課題がみられる。</li> <li>●質問の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる力に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□日々の漢字練習を積み重ねるとともに、漢字を使った短文づくりの活動を取り入れる。</li> <li>□全体構成を考えて文章が書けるように、テーマや条件を設定して書く活動を取り入れる。</li> </ul>
算数	4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的、基本的な算数の力が身についている。</li> <li>●時刻間の時間の計算、グラフや表を理解して読み取ったことを説明する力に課題がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□日常的に自分の考えの根拠を添えて書く活動を増やし、書くことへの抵抗感を減らす。</li> </ul>
	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○面積を正しく求めたり、複雑でない計算を正しく行ったりする力が身についている。</li> <li>●真分数と帯分数の計算、小数と整数の計算に課題がみられる。</li> <li>●折れ線グラフや二次元表を読み取り、説明する力に課題がみられる。</li> <li>●式を読み取ったり、式に表したりすることに課題がみられる。</li> <li>●概数、分数の大小関係、小数を用いた単位換算に課題がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□根拠を添えたり、条件を設定したりして書く活動を増やす。</li> <li>□プリントを用意して、授業や家庭でも復習する機会を設ける。</li> <li>□図や表などを使い、視覚的に理解しやすい授業を展開する。</li> </ul>
	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○棒グラフを読み取る力が身についている。</li> <li>○必要な数量を選び、立式する力が身についている。</li> <li>●加法と乗法の混合した整数と小数の計算に課題がみられる。</li> <li>●文章を読み、目的に適した数量を見出し、応用して考えることに課題がみられる。</li> <li>●求め方を説明する問題の無回答率が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□授業や家庭でも復習や発展問題に取り組めるようにする。</li> <li>□日常的に自分の考えの根拠を添えて書く活動を増やし、書くことへの抵抗感を減らす。</li> </ul>
社会	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全な暮らし(火事)についての理解している。</li> <li>●地域の発展につくした人々についてや、ごみの処理と利用についての理解に課題がみられる。</li> <li>●都道府県名や位置を正しく理解することに課題がみられる。</li> <li>●複数の資料から読み取り考える力に課題がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□地域の発展につくした人々とごみの処理と利用について、自分達との生活と関連づけ、地域の方に話を聞いたり見学をしたりして、理解を深める。</li> <li>□資料を活用する経験を増やし、資料の見方や考え方を授業で学習する。</li> </ul>
	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本の国土と人々の暮らし、わたしたちの生活と環境について理解している。</li> <li>○基礎問題に比べ、活用する力(思考・判断力、表現力)が比較的優れている。</li> <li>●世界の中の国土、自動車をつくる工業の理解に課題がみられる。</li> <li>●社会的事象についての知識・理解に課題がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□世界の主な大陸の名称や位置を図に表す活動を通して世界の中の国土への理解を深める。</li> <li>□自動車工場の組み立て作業の順序を図や表に表す活動を通して、自動車の製造工程への理解を深める。</li> <li>□社会科の問題を反復して行うことにより、社会的な事象の基礎的な知識・理解を深める。</li> </ul>
理科	5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年間の植物の成長をとらえたり、物の体積と温度の関係を理解したりしている。</li> <li>●自然の中の水の蒸発の仕方についての理解に課題がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□予想、実験方法、実験(観察)、結果、考察という流れで授業を行う。特に、実験結果からなぜそうなるのかという考察をしっかりと行い、全体で説明したり確認したりすることで、理解を深める。</li> </ul>
	6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人が誕生するまでの過程について理解している。</li> <li>○ふりこのまわりについて理解している。</li> <li>●実験で扱う器具の名称(顕微鏡)の理解に課題がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□実験技能を正しく習得できるように、できるだけ少人数で実験する機会を増やしていく。また、実験で扱う器具の名前や目的、使い方を説明し、理解したうえで実験ができるようにする。</li> </ul>

### 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話し合い活動で、「相手の話をしっかり聞き取ったり、自分の考えを進んで話したりしている」と回答した児童の割合が全国平均に比べて高かった。</li> <li>●「国語や算数の勉強は好き」と答えた6年生児童の割合が、県及び全国平均を下回っている。一方で、「算数や国語の勉強は大切だと思う。将来役に立つと思う。」と答えた児童の割合は、県及び全国と同じように高かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□話し合い活動に意欲的な児童の思いを大切に、自分の考えを広げたり深めたりする授業づくりに取り組むために、学年に応じた話し合い活動や課題解決学習を工夫していく。</li> <li>□国語や算数の学習を大切に考えている児童の思いを大切にして、引き続き、興味関心を高める授業づくりと「できる・わかる」指導体制の充実を図る。</li> </ul>
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○6年生は1日に1時間以上学習している児童が8割以上で、家庭学習の時間は十分取れている。</li> <li>●家庭学習の時間が30分未満の児童が3.6%いる。</li> <li>○図書館を利用する児童が多い。</li> <li>●4年生の辞書の利用が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□家庭学習チェック週間を継続し、児童や保護者に家庭学習の時間の確保を呼びかけます。</li> <li>□国語の授業や宿題などで、意識的に辞書を利用する機会を増やします。</li> </ul>
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の住んでいる地域が好きで、地域の行事にも参加している児童が多い。</li> <li>○自分には良いところがあり、自分の力をできる限り伸ばしたいと思っている。</li> <li>○いじめは悪いことである、いけないことであると考えている児童がほとんどである。</li> <li>●地域や社会をよくするために何をすべきかを積極的に考えることは苦手である。</li> <li>●外国の方が多く地域であるが、日本のことを知ってもらいたいという積極性には少々欠ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□学校・地域生活全般について、自分からアピールするという点で消極的な面がみられるので、さまざまな活動をおとして、積極的に取り組むよう支援していく。(運動会などの自発的な児童会活動、学習発表会での発表、地域行事への積極的な参加など)</li> <li>□自尊感情を高めるための児童会活動などを工夫していく。</li> </ul>

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立出東小学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

全国・県・市平均正答率と比較すると、学年ごとに教科によって、下回るもの、同程度のもの、上回るものがある。国語と算数は4年と6年に、理科は6年に、社会は5年と6年に課題がみられる。【国語】○書かれている言葉や描写から、内容や登場人物の気持ち等を読み取る力が身につけている。●文章の中で適切に漢字を使う力や、指定された条件に合わせて文章を書く力を伸ばしていく必要がある。【算数】○5年生においては、数と計算、量と測定の領域での知識・技能が身につけている。●計算技能の一層の定着や、文章から必要な条件を見出し、筋道を立てて考えることに課題がある。【社会】○日ごろから興味・関心を持っている農業や、見学など体験を伴って得た知識をきちんと身につけている。●領域「県の様子」「水産業」に課題がある。地図を読み取る技能に課題がある。【理科】○学習した知識や技能はおおむね身につけている。●事象から予想を立てたり、結果を類推したりする力や、結果を考察し、説明することに課題がある。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	4年	○文章を書く力がある。 ○最後の問題まで粘り強く取り組める。 ●漢字を書くことに課題がある。普段から使おうとする意識が高くない。 ●主語、述語など文の構成について理解できていない。	□習った漢字を意図的に使って小作文を書く活動を計画的・定期的に行う。主語・述語の指導もそれをもとに行う。
	5年	○物語・説明文の読み取りができています。書かれている言葉や描写から心情を読み取ることができる。 ●文章を書くために必要な条件を選ぶこと、条件を満たして書くことに課題がある。	□読み取ったことから、理由や考えをまとめ、書き表す活動を入れる。 □自分の意見をもてるように、発問を吟味し、自分の考えをまとめる時間をとる。
	6年	○説明文の中で、題材が身近な内容であったり、わかりやすい挿し絵があったりする問題では、他の問題に比べて正答率が高かった。 ●グラフなどの資料と関連づけて書くことや、条件に即して書くことに課題がある。 ●同音の漢字の中から正しい漢字を選ぶことに課題がある。	□説明文・意見文の単元で、主旨を読み取ること、適切な資料を使うことに重点を置いて学習する。 □中心となる段落を視写したり、要約文を書いたり、主述の明確な文章を読んだり書いたりする活動を計画的に行う。
算数	4年	○活用問題が比較的できています。 ●四則計算の定着が十分でない。 ●小数の仕組みの理解が十分でない。	□基礎を繰り返し学習する時間を設ける。(フラッシュカード、計算カード、100マス、割り算プリント)
	5年	○ほとんどの項目で全国平均を上回っている。 ○計算の技能が高い。 ●小数÷整数の計算にやや課題がある。 ●折れ線グラフを読み取り、根拠や理由を説明することに課題がある。	□活用問題を用いて、理由を言葉で説明したり、文章で書いたりする機会を朝学習や授業に計画的に取り入れる。 □割る数が二桁の整数や、小数のわり算の計算の復習を定期的に行う。
	6年	●小数の加法乗法の混じった計算をはじめ、計算技能に課題がある。 ●単位数あたりの大きさを求め、それを基に条件に当てはまるかどうか判断することに課題がある。	□式を具体的な場面と関連付けながら理解できるように、ノート指導を行う。 □多様な考え方を同時にとりあげず、思考する部分を絞り、押さえたい考え方を丁寧に理解させる。
社会	5年	○安全を守る活動の単元は全国を上回っている。 ●地図の見方に必要な基礎的な技能の習得が十分でない。 ●県の様子の問題で社会科の用語の意味が十分に理解できていない。	□地図帳を使って、場所を探したり、方位で表したりする活動を取り入れて、習得した技能を使えるようにする。 □資料を読み取る時には、学習した中で重要な言葉を用いて理由や考えをまとめる活動をしていく。
	6年	○「国土のようす」、「農業」、「個人情報」の取り扱いについて理解できていた。 ●「水産業」や「工業」についての知識や、資料と関連付けて説明することに課題がある。	□資料集を活用して、資料を読み取る学習を増やし、理解を深める。 □重要な語句や用語については、教科書の学習の後、プリントの問題で復習するなどして、繰り返し理解を図る。
理科	5年	○全体的におおむねよくできている。 ○温度計の使い方や気温の変化のグラフの読み取りができる。 ●自然の中の水、物のあたたまり方について、結果を推測したり、理由をわかりやすく説明したりすることに課題がある。 ●電流・蒸発・半月などの用語の理解が不十分である。	□学習内容の復習をし、知識の定着をはかる。 □実験結果の予想や結果を、理由をはっきりさせて説明したり、文章で表したりする学習を計画的に取り入れ、思考力を伸ばす。
	6年	○流れる水のはたらきが理解できていた。 ○「物の溶け方」では、予想やその結果をもとに考察することができていた。 ●顕微鏡の使い方に課題がある。 ●実験の手順の理解や、結果を数値などで表すことに課題がある。	□顕微鏡や、実験器具を正しく使えるように、少人数で使用し、操作や観察時間を十分にとる。 □根拠をもとに、言葉や数字を使って予想を行い、それを実験や観察結果の振り返りと関連づける。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○先生の話をしっかり聞き、きちんとノートに取ることができている。 ○安全に気をつけて実験をしたり、決められたことを守って活動したりすることができる。 ●自分で課題を立てて、情報を集めることに課題がある。 ●自分の考えを資料や文章、話の組み立てなどを意識して表現することに課題がある。 ●学習したことを比較したり、他のことと関連づけて深めたりすることに課題がある。	□国語や社会、総合的な時間を中心に、資料やデータを基に、自分の考えを整理し、表現する学習の機会を増やす。 □図書館と連携して、必要な情報を収集したり、学習に関連した書物に出合わせたりする学習を充実させる。 □めあてとまとめが対応する授業を行い、振り返りの機会や質問できる機会を増やす。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○宿題をきちんと提出できる。 ○自分で進んで宿題をしている。 ●予習・復習の取組みに課題がある。 ●家で計画を立てて勉強することに課題がある。 ●進んで読書に取り組むことに課題がある。	□授業の中ですべて教えず、自分でもう少し調べてみたいものを残すようにする。 □授業の振り返りで出てきた疑問を紹介し、さらに考えてみたくなるようにする。 □自主学習で取り組むとよい例を示したり、友達の良いものを紹介したりし、内容を充実させる
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○家の人に挨拶をしたり、家族に学校のことを話したりすることができている。 ○人の役に立ちたいと思っている。 ○学年が上がるにつれ、朝、自分で起きにくく、寝る時刻が遅くなる傾向にある。 ●新聞の記事に興味をもち、進んで新聞を読むことに課題がある。 ●地域や社会をよくすることを意識して行動することに課題がある。	□「家庭学習のしおり」を配付し、めあてとする家庭学習の時間や内容を共有する。 □家庭・地域へ校内の取組の情報発信をし、価値観の共有を図る。 □年2回の「家庭学習調査」で児童の家庭学習状況を把握し、成果や課題を家庭と学校が一緒になって考える。 □毎学期1回実施する「メディア・生活リズムチェックカード」で、子どもの生活習慣について把握し、評価・指導する。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立第一中学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 2年国語、数学、社会、理科では、全国、出雲市の平均をいずれも上回った。
- 3年国語は全国、県の平均を上回った。「話す・聞く」能力では平均を下回った。3年英語は全ての領域で全国、県、市の平均を上回った。
- 3年数学は市、県の平均を上回ったが、全国平均を下回った。「数と式」「図形」の領域では全国、市の平均を上回ったが、「関数」がやや低かった。
- 2年英語は全国、市の平均を下回った。内容理解のリスニングは平均を上回った。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	2年	○市平均、全国平均共に上回っている。特に文章の内容を読み取る力は、説明文も文学作品も優れている。また、話す・聞く力や漢字の読みなどの力も高い。 ●書く力、特に自分の考えを明確にして書く問題の正答率が低い。	□授業で毎時間行っている「漢字テスト」や、自学ノートの活用といった活動を通して、基礎基本の力の定着を図る。 □教科書の「書く」単元の活用や、作文の課題に取り組むことで、自分の考えを文章で表現する力をつける。
	3年	○多くの分野で県平均、全国平均をわずかで上回っている。情報を整理して内容を捉えるという読解の基本的な力や言語に関わる知識についての基礎的事項は定着している。 ●自分の考えを明確にして表現することに課題がある。	□基本的な力の定着を大切にした学習を継続する。 □話し合い活動など表現する活動を工夫し、適切に表現する力の向上につなげる。
数学	2年	○基本的な内容の定着はしている。 ●関数や図形の分野で正答率の低いところがある。	□授業でめあてを掲示し、本時に学ぶ内容を意識させる。 □基本的な計算がしっかりできるよう、反復練習を授業で取り入れる。 □授業の最後に本時の授業のまとめ・振り返りシートを書かせ、内容の定着につなげる。
	3年	○多くの分野で市平均、県平均を上回っている。基本的な内容は定着しており、特に数と式・図形領域では正答率が高い。 ●関数領域の正答率がやや低い。	□プリントや宿題等で繰り返し練習する。 □既習事項を確認しながら授業を進める。特に関数の学習では、比例・反比例、一次関数と比較していくことで理解を深める。
社会	2年	○多くの分野で市平均、県平均を上回っている。特に、世界各地の人々の生活と環境・古代までの日本の問題の正答率が高い。 ○観点別に見ると、知識・理解の能力が高い。 ●西アジアや中央アジアの産業について、資料を読み取って把握する問題の正答率がやや低い。	□学習課題に応じて世界地図や写真や動画等による視覚的資料を積極的に用いる。 □表やグラフを読み取ったり、説明したりする活動を設定する。
理科	2年	○基礎問題、活用問題共に全国・市の平均を上回っている。物化生地の4分野において、いずれも基礎・基本的内容が定着している。 ○実験・観察の技能を問う問題において、特に正答率が高い。 ●物理分野で、実験結果をもとにして考察をしたり説明をしたりする部分を苦手としている。また、公式を用いた計算問題を苦手とする生徒もいる。	□引き続き、観察実験を行う。一人ひとりが考察する時間を十分に確保し、意見交換や議論などを通して思考力を伸ばす。 □計算問題は小プリントや単元プリントを活用して反復練習を行う。
英語	2年	○内容理解のリスニングについては、全国・市の平均を上回っている。 ●一部のリスニング以外については、全国・市の平均を下回っているものが多い。特に3文以上の英作文については、他の部分に比べて正答率が低い。	□授業で毎時間行っているリスニングのトレーニングを続け、さらに能力を高めていく。 □表現する力(話す・書く)をのばしていくための言語活動を工夫する。
	3年	○多くの分野で県・全国の平均を上回っている。 ○与えられた情報に基づいて英文を書くことや、適語補充に関する能力が高い。 ●自分の考えを英作文する力は、他の部分に比べて正答率が低い。 ●会話が成り立つように英文を書いたり、与えられたテーマについて考えを整理し、まとまりのある英文を書く問題では無解答率が高い。	□与えられたテーマについて自分の考えを書いたりする機会を設ける。 □表現する力(話す・書く)をさらに伸ばしていくための言語活動を工夫し、強化する。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○【3年】課題の解決に向けて、自分で考え取り組んでいた生徒の割合は全国や県の平均とほぼ同じである。 ●【2年】数学(59.9%)、英語(55.7%)以外の教科で分からないことを質問する生徒が少ない。(国46.1%、社46.1%、理49.7%)	□授業の中で話し合い活動や学び合いの場を取り入れ、自分の考えや意見を発表する場を設ける。 □授業で質問しやすい学習環境づくりを心がける。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○【2年】宿題をきちんとしている生徒が多い。(全ての教科で80%以上) ○【3年】県平均よりは学習時間が多いが、全国よりは低い。(3時間以上2.9%、県2.6%、全国9.9% 2~3時間21.5%、県14.1%、全国25.6%) ●【2年】予習をしている生徒は全体的に少ない。(国21.6%、社44.3%、数49.7%、理44.3%)	□定期テストや習熟度テスト前は、学校で学習計画を立て、それに沿って家庭学習ができるよう、声かけをする。 □学活・総合的な学習の時間などで進路学習を行い、家庭学習への意欲を高められるようにする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○【2年】学校での出来事を家の人に話している生徒が全国に比べて多い。(81.4%、全国72.9%) ●【3年】地域や社会への関心が低い傾向にある。地域の行事への参加に当てはまると答えた生徒の割合(15.7%、県24.3%、全国21.0%) ●【2年】地域の行事に参加している生徒が少ない。(37.7%)	□総合的な学習の時間等で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会を増やす。 □生徒に地域の行事を紹介したり、住んでいる地域の行事にできるだけ参加するよう呼びかけをしたりする。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立第二中学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

【全国学力調査:中3対象】

- 国語の平均正答率は「県・全国」平均値を上回り、おおむね良好な状況であった。
- 数学と英語の平均正答率は「全国」平均値を下回り、弱さの伺える状況であった。特に、自分の考えを表現する(記述する)ことに課題がある。

【市学力調査:中2対象】

- 全教科の平均正答率は「県・全国」平均値とほぼ同じでおおむね良好な習得状況であった。中でも理科は4領域の学習内容全てにおいて「全国」平均値を超えた。
- 数学では「活用」問題における「表現力」において、英語では「言語や文化についての知識・理解」領域において、弱さが伺えた。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	2年	○「話す・聞く」領域の平均正答率は全国平均値を上回り良い状況となった。 ○「展開内容の整理、表現の特徴を捉える」問題は全国平均値を上回った。 ●「伝統的な言語文化と国語の特質」問題に弱さが伺え、文法等に係る正確な理解が望まれる。	□「小テスト」「月例漢字テスト」を行い基礎的・基本的事項の定着を図る。 □授業において、次の学習活動を多く設定する。 ・「語句」を国語辞書で調べ、「言葉」の意味理解を助け深める ・読み取った内容、自分の考え、短作文等、「文章で書く」活動
	3年	○全区分の平均正答率は県・全国平均値を上回り、概ね良好な状況となった。 ●「話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ」ことに弱さが伺えた。 ●「記述」問題に対する無解答率がが高く、課題と言える。	□授業において、「話し合い」の場面を多く設定する。 □「感想や創作作文」等、「短作文」を計画的かつ継続的に設定し、生徒の「書く」ことへの抵抗感を軽減していく。
数学	2年	○「数と式」と「図形」領域、および「基礎」区分問題の平均正答率は全国平均値を上回り、良好な状況となった。 ●「関数」と「資料の活用」領域、および「活用」区分の問題に弱さが伺えた。 ●「発展」区分の問題において無解答率がが高く、課題と言える。	□「単元テスト」を計画的に実施する。 □「関数」「資料の活用」領域では「数学的活動」を多く設定し、数学的表現の機会を増やす。また小テスト等、「自分なりの言葉で表現する」問題を設定する。 □「発展」問題の時間を設定し、「協調学習の考えを生かした授業」を行う。
	3年	○「図形」領域の平均正答率は全国平均値を少し上回りよい状況となった。 ●「数と式」、「関数」、「資料の活用」領域では弱さが伺えた。 ●「記述」問題においては無解答率がが高く、課題と言える。	□基礎・基本的事項の定着を図るため毎時間小テストを実施する。 □数学的表現力の向上を図る。 ・授業中、グループ学習や学び合い活動を設定し数学的表現を行う機会を増やす。 ・ワークシートに自分の考えの記入欄を設定し、自分なりの言葉で表現する場面を設定する。
社会	2年	○「雨温図」問題の平均正答率は高く、「記述」問題の無解答率も少なくなった。 ●「歴史」領域において「時代の流れを大観する」ことに弱さが伺え、「基礎」よりも「活用」問題に対して弱さが伺えた。	□「作図する」「文章にまとめる」等、十分な時間を設定するとともに個別指導を継続する。 □「学習内容に関連するニュースや新聞」も使用し、「社会」は身近に感じるよう教材を工夫する。
理科	2年	○学習内容「エネルギー、粒子、生命、地球」の4領域、また評価の4観点「知識・理解、思考・表現、実験技能、関心・意欲」、全ての平均正答率が全国平均値を上回り、良好な状況となった。 ○「濃度計算やグラフ化」、「粒子モデル」の正答率が非常に高い。 ●「力と圧力」問題では「力の大きさを考える」、「地層」問題では「地殻変動の様子を推測する」など、弱さが伺えた。	□「生徒が理科の見方・考え方を働かせながら観察や実験を行うよう学習課題の焦点化を図る。 □協調学習の考え方を生かし、より深い学びとなるよう促す。 □科学映像等を積極的に視聴させ生活との関連づけを図る。 □学習課題の追究が自学へと繋がるよう努める。
英語	2年	○「読み取る」問題では、「長文」「対話文」どちらも良好な状況で、「聞き取る」問題も同様に良好な状況となった。 ●「書くこと」領域の平均正答率は全国平均値を下回り、弱さが伺えた。 ●「知識・理解」領域の「語彙」に関する問題の平均正答率が全国平均値を下回り、弱さが伺えた。	□授業では「英文を書く活動」を多く設定し、生徒が積極的に取り組めるようALTとも協力して支援する。 □「単語テストや文型テスト」を定期的に設定し、基礎的・基本的事項の定着を図る。
	3年	○「話す」「読む」領域の平均正答率は全国平均値を大きく上回り、良好な状況となった。 ○「まとまりのある文章を聞いたり読んだりして話の概要を理解する」問題の平均正答率は全国平均値を大きく上回り、良好な状況となった。 ●与えられたテーマについて「まとまりのある文章を書く」ことに弱さが伺えた。	□授業では「英語で書いて表現する」場をより多く設定するとともに、自学でも課していく。 □「小テスト」を継続し、基礎的・基本的事項の定着を図る。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「国語の勉強が好き」と回答した生徒の割合が「県・全国」平均値より高い。 ○「読書時間」「図書館利用頻度」が「県・全国」平均値より高く、よい習慣化傾向となった。 ○「授業は楽しいか」に対して、「国語」「英語」において肯定的回答率が高い。 ●「授業でのICT利用頻度」が「県・全国」平均値を下回り、今後の課題と言える。	□実践研究の推進 □教科部による授業公開を計画的に設定 □学習指導研修の推進 ・夏期休業時(2回)、冬期(1回)の設定 □ICT機器の整備と利活用の推進 ・事務部との協働により整備を進める
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○「計画的に勉強」と回答した生徒割合は「県・全国」平均値を上回り、よい傾向となってきた。 ○「朝食を毎日食べる」、「同時刻に寝る・起きる」生徒割合は「全国」平均値を上回り、よい傾向となっている。 ●「学習時間」は「県」平均値を上回るが「全国」平均値を下回っており、取組の継続化が望まれる。	□「学習の習慣化」を目的とした「自主学習」の奨励と学年部による推進を図る。(例:1日1ページの取組)また、真正な意味の「自主学習」ができるよう、「学習の振り返り」が繋がっていくよう検討する。 □「学びと仕事と社会」の繋がりが意識できるようキャリア教育プログラムを継続実践する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「家族と学校での出来事について話す」と回答した生徒割合は「県・全国」平均値より高い。家庭でのコミュニケーションの大切さ等、啓発活動の継続化が望まれる。 ●「地域行事への参加」状況は「県・全国」平均値を下回り、課題と言える。	□地域のボランティア事業に参加できる体制を整えていく。 ・ボランティア掲示板の設定 ・ボランティアウィークに併せ、学校全体の取組の設定

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

## 出雲市立第三中学校

### 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

<p>○3年生はすべての教科が全国の平均正答率と同程度で、市や県の平均正答率をほぼ上回っている。</p> <p>○授業中ノートをとりながら先生の話をしっかり聞き、授業内容を理解していると答えた生徒が多く、まじめに授業に取り組む様子が見られる。</p> <p>●2年生では、理科を除く他の教科で全国の平均正答率とほぼ同程度またはやや下回っている。特に英語ではすべての項目で、全国および出雲市の平均正答率を下回っている。</p> <p>●記述する問題での無解答率が高く、数学では全国に比べて全体的に無解答率が高くなっている。</p> <p>●「解答時間が足りなかった」と答えている生徒の割合が高く、問題の意味を正しく読み取ったり、時間配分を考えて問題を解いたりすることに課題があると考えられる。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	2年	<p>○全国の平均正答率とほぼ同じ水準である。学習活動では、「宿題」「予習」等の家庭学習に関する割合は高い。</p> <p>●文法・語句に関する知識の正答率がやや低い。個別の問題を見ると、文学作品で人物の心情を読み取る力もやや弱い。</p> <p>●「分からない言葉があれば辞書を引く」割合が、全国平均より低い。</p>	<p>□文法事項の学習をする際は、1年時の復習を行い、既習事項を想起してから学習するようにする。</p> <p>□図書館の利用率は比較的高いので、図書館を使った指導を取り入れ、辞書や新聞に親しませるとともに、読書量を増やし、語彙力を高めていきたい。</p>
	3年	<p>○全国の平均正答率とほぼ同じ水準である。</p> <p>●読む能力の正答率が低い。問題別に見ていくと「短歌」についての鑑賞がやや低い結果となっている。</p> <p>●評価の観点では、「国語への関心・意欲・態度」の値と「読む能力」の値がやや低く、問題形式では、「記述式」の正答率がやや低くなっている。</p>	<p>□日常的に文章を読む習慣が少なかったり、興味をもていなかったりするものが「関心・意欲・態度」や「読むこと」に関係していると考えられるので、授業の少しの時間を利用し、新聞の小コラムを読む時間を取る。</p>
数学	2年	<p>○全国の平均正答率とほぼ同じ水準である。学習活動では、「返された答案の見直しをしている」「予習・復習をしている」割合が、全国平均より、5～9ポイント程度高い。</p> <p>●活用(表現力)、数学への関心・意欲・態度の正答率が低い。「授業で分からないことがあれば、先生に質問する」割合が、全国平均より約13ポイント低い。領域では一次方程式、比例・反比例の正答率が低い。</p>	<p>□基礎となる計算については、定期的に小テストを実施するなど、くり返し練習する場を作る。</p> <p>□問題を、数学としてどのように捉え、どのように解決していけば良いかという見方や考え方に注目させる。</p>
	3年	<p>○全国の平均正答率とほぼ同じ水準である。図形の領域の正答率は全国平均を上回っている。</p> <p>○数学の勉強が好きだと答えている生徒の割合が全国平均より高い。</p> <p>●記述式の問題の正答率が全国平均を7%近く下回っており、全体的に無解答率が高いのが目立つ。</p>	<p>□既習事項の定着を図るため、定期的に復習問題に取り組む時間を設定する。</p> <p>□答えを求めめるだけにとどまらず、自分の考え方を説明したり、理由を書いたりする活動を増やし、いろいろな考えを共有する時間を授業の中に組み入れていく。</p>
社会	2年	<p>○全体的には全国の平均正答率とほぼ同じ水準である。観点別に見ると特に「社会的な思考・判断・表現」が目標値を4ポイント程度上回っている。</p> <p>○解答形式別に見るとすべてで目標値を上回っており、特に「記述」による解答が4ポイント程度上回っている。</p> <p>●「世界の諸地域」における西アジア・中央アジアの産業と、「中世の日本」における時代区分と室町時代の国際関係についての理解度が低い。</p>	<p>□地図を活用して、自然、産業、生活・文化、歴史的背景を概観し、基礎的・基本的知識を身につけさせる。</p> <p>□時代の移り変わりを考察し、表現する学習の中で、資料から情報を読み取ったり、年表などをまとめる活動を取り入れる。</p>
理科	2年	<p>○基礎・活用を含め全体的には全国の平均正答率をやや上回っている。特に地球領域では全国の平均正答率を大きく上回っている。エネルギーと生命分野以外の項目では、全て目標値を上回っている。</p> <p>●自然に関する本を読んだり、TVを見たりする割合が低く、理科で学習した知識を周りに伝える活動をしている割合も高くない。授業で分からないことがあっても、質問をしない生徒が半数はいる。</p>	<p>□単元の導入やまとめではデジタル教材を活用し、身の回りの現象についてより興味を持たせるようにする。</p> <p>□自然科学に関する新聞記事やニュース内容を適宜授業に取り入れ、身の回りに起こる現象を積極的に知ろうとする機会をつくる。</p>
英語	2年	<p>●全てのカテゴリーにおいて全国、市の水準を下回っている。特に観点別で見た「表現の能力」と「知識・理解」、領域別の「書くこと」の正答率が低い。</p> <p>●単語や語順を問う基本的な問題の正答率が低く、正しく文を書くまでに至っていない。短文、記述など「書く」解答形式も目標値を下回っている。</p> <p>○「聞くこと」に関しては全国の水準に近い。「関心・意欲・態度」にも同じことが言える。授業等で英語に耳から触れることには慣れていると感じられる。</p>	<p>□単語や基本文の反復練習を帯活動に入れ、その知識を生かして自己表現にまで至る工夫をし、書く機会を増やす。</p> <p>□ペアラーディングや歌など、生徒が好きだと感じている部分は継続して話したり聞いたりする力を伸ばしつつ、コミュニケーションへの関心・意欲が薄れないようにしていく。</p>
	3年	<p>○領域別の「聞くこと」や「短答式」の問題形式では、正答率は比較的高い。</p> <p>●まとまった英文を読んだり、聞いたりして、内容を表す絵や文を選ぶ問いの正答率が全国平均より6ポイント程度低い。</p> <p>●自分の考えを書くなどの「表現」に関する問いの正答率が全国平均より低く、無解答率が全国平均より高い。</p>	<p>□「話すこと」に関しては、帯活動等に話す活動を入れるなど工夫し、話す機会を増やす。</p> <p>□与えられた文を英語にするという活動だけでなく、自分の考えや意見を表す活動を積極的に取り入れる。</p>

### 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	<p>○「話し合い」活動で相手の話をしっかり聞き取っていると答えた生徒の割合は高い。</p> <p>●「授業でわからないことがあれば、先生に質問をしている」と答えた生徒の割合がすべての教科で低い。</p> <p>●「話し合い」活動で自分の考えを積極的に話したり、考えを深めたりしたと答えた生徒の割合が全国に比べて10%以上低い。</p>	<p>□学習規律の徹底を図り、特に、傾聴力を身に付けさせる。</p> <p>□受け身ではなく、主体的に活動する取り組み(教え合い学習やグループ活動)を積極的に取り入れていく。</p> <p>□課題解決のプロセスを踏む場面を意図的に授業に組み込んでいく。</p>
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	<p>○「計画を立てて勉強に取り組んでいる」と答えた生徒の割合が、全国に比べて約9%高く、「宿題にきちんと取り組んでいる」と答えている生徒の割合は90%を超えている。</p> <p>●新聞の記事を読んだり、本や辞書を利用したりしていると答えた生徒の割合が低く、知らないことを自分で進んで調べようとする意識が低い。</p>	<p>□次時の授業の取組に結び付く課題を提供する(宿題の質や出し方を各教科で見直す)。</p> <p>□メディア接触時間について生徒の実態を把握し、個別指導を推進する。</p>
(3) 家庭・地域との連携・社会との関わり	<p>○「朝食を毎日食べている」、「学校での出来事を家の人に話している」という項目で肯定的な回答をする生徒の割合が全国に比べて高い。</p> <p>●睡眠やメディアに関する項目で肯定的な回答が低く、家庭の中で自分の生活をコントロールできていないという実態が見受けられる。</p> <p>●地域の行事に参加していると答えた生徒の割合が低い。</p>	<p>□学校保健委員会と連携し、睡眠不足や過度なメディア接触が及ぼす健康被害についての講演会を開催する。</p> <p>□新聞やニュースをもとに地域や社会で起こっている問題やできごとを積極的に話題にしたり、総合的な学習の時間に地域のことを調べる活動を取り入れたりとすることで地域について興味や関心をもたせる。</p>

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立河南中学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○2年生は、国語・数学・社会・理科の教科全体の平均正答率が、出雲市・全国平均を上回っているため、中学1年生の学習内容をおおむね理解し、定着させることができていると考えられる。  
 ●英語は、教科全体の平均正答率が、全国に比べて少し低い結果となった。授業で話をしっかり聞き、宿題や復習をきちんとしている生徒の割合は高いので、1年生の学習内容を復習し直し、基礎・活用の力を付けていく必要がある。  
 ●3年生は、昨年度の市学力調査ではどの教科も全国平均を上回っていたが、今回は伸び悩んだ。2年生での学習内容が十分理解できていないことや、新しい傾向の問題に戸惑ったことが原因として考えられる。各教科の不得意な領域・観点を中心に、基礎力を定着させ、さらに表現力を身に付けさせることが課題である。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	2年	○全国平均を少し上回るか同程度で、おおむね良好な状況である。 ○宿題やノート整理をきちんと行い、分からないことは授業で質問している。 ●今回は「漢字を読む」問題の正答率がやや低かった。 ●文章全体の意味を把握せずに、その問題の前後の文や接続詞などだけで、登場人物の心情を捉えようとしてしまう生徒が多い。	○文章の種類に関係なく、文章全体を読んで、書かれている内容を捉えるような読み方を習慣づける。 ○教科書掲載の漢字については、反復練習だけでなく、語彙として使えるような学習を取り入れる。 ○読書活動を推進し、様々なジャンルの文章に触れさせる。
	3年	○課題に合わせて、作文を書こうとする意欲が見られた。 ○宿題や課題に、真面目に取り組もうとしている。 ●質問の内容を正確に捉えずに、問題に答えようとしている傾向が見られた。 ●既存の知識を照らし合わせて、課題を考える力が十分ではない。	○文章を読むときに、自分の考えを持ちながら読んでいけるように、日頃から授業の中で意識させる。 ○積極的に語彙を増やすという意識を生徒に持たせ、授業の中でも言葉に関する知識を紹介していくようにする。 ○作文を書く機会に、いろいろな種類の作文の書き方を練習する。
数学	2年	○平均正答率は市や全国を上回っている。基礎問題の正答率が高い。 ○領域、観点別でも、ほとんどの項目で市や全国の平均を上回っている。特に「関数」領域、「技能」観点の正答率が高い。 ●基礎に対して、活用問題の正答率が市や全国より若干低い。領域では、「資料の活用」のみ、正答率が市や全国より低く、課題があるといえる。	○「資料の活用」については、前年度末に学習した内容が定着していないので、機会を見て振り返りし、定着を図る。 ○各単元末にあるまとめ問題等を利用して、活用問題を時間をかけて考えさせ、話し合い活動も行いながら、数学的な見方・考え方を高めていく。
	3年	○領域では「関数」、評価の観点では「数学的な技能」の正答率が高い。 ●「資料の活用」に関する問題や、グラフや数式が表すものを読み取る問題の正答率が、市や全国に比べて、かなり低い。「資料の活用」については、グラフや数式を作ることはできても、そのグラフや数式の表す意味を十分に理解していない。	○「資料の活用」については、1年次に授業したあとで扱う機会がほとんどなかったため、折に触れて用語の意味等振り返るようにする。 ○グラフや数式を作るだけでなく、その表す意味を口頭や文章で表現する活動を多く取り入れる。
社会	2年	○平均正答率は市や全国を上回っている。 ○観点では、「社会的事象についての知識・理解」が市や全国を上回っている。その他の観点は目標値に対して同程度である。 ●資料を読み取る力が不十分である。 ●既存の知識と問題の選択肢を見て考える力が不十分である。	○授業で多くの資料を用いる。 ○授業で複数の資料を対比させる活動をする。 ○資料から得た知識や複数の資料の対比から得た概念を表現する活動をする。
理科	2年	○「観察・実験の技能」の正答率が全国平均を大きく上回っている。基礎・活用ともに全国平均を上回っている。 ●「表現力」に関しては市の平均よりやや低く、課題がある。内容を分析すると、力を矢印で表す選択問題と力とばねの伸びる長さの関係を考える穴埋め問題での表現力が不十分であった。	○力を矢印で表現するとき、矢印の始点、向き、大きさが力の何を表すかを理解していないことから、今後はまず基礎的な内容をきちんと理解させる必要がある。 ○比例式の計算式を用いて問題を解くこと、基本的な計算力を高めていく必要がある。数学科と連携を図り、表現力を高めていく。
英語	2年	○問題の内容別では、リスニング(内容理解)、様々な英文の読み取りの正答率が高い。観点別では、外国語理解の能力が高い。 ●問題の内容別では、リスニング(対話文の応答)、場面に応じて書く英作文、3文以上の英作文、領域別では書くことの正答率が低い。観点別では、外国語表現の能力が低い。	○リスニング(対話文の応答)の練習を定期的に行う。 ○ライティングの練習を多く取り入れる。 ○場面設定をした表現活動をさせる。(外国の友達に手紙を書く・海外の人に道案内をする)
	3年	○領域では「聞くこと」、評価の観点では「言語や文化についての知識・理解」、問題の内容では「英文の空所に入れる適切な語句を選択する」正答率が高い。 ●「聞いて把握した内容について、適切に応じる」、「与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書く」問題の正答率が低い。スピーキングでの無回答が多く、正答率が低い。	○テーマを与えて、2~3文で文章を書く練習をくり返し行う。 ○単元ごとに、最後には英語を使って表現する場面を作る。 ○やや長めの文を用いた英問英答のペア学習をするなど、スピーキング問題に慣れる活動を多く取り入れる。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○2年生は、国語・理科の授業では、「分からないことがあれば、先生に質問している」生徒の割合が全国より高い。 ●分からない言葉や事柄について、辞書を引いたり調べたりする生徒の割合が全国より低い。 ●3年生への質問で、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができる」と感じている生徒の割合が、全国・県と比較すると、約10%低い。	○授業のために予習をして、生徒自身が興味や課題意識を持って学習に臨めるような習慣を身に付けさせる。 ○授業で、辞書を利用して調べる機会を増やす。 ○話し合う必然性のある課題を設定し、ペアやグループで互いの考えを交流し、思考を広げられる活動を積極的に取り入れていく。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○2年生は、「自分で計画を立てて勉強している」と答えた生徒の割合が、全国より高い。3年生も、全国・県より高いが、より多くの生徒が計画的に勉強すべきだと考える。 ●「学校に行く日に、学校の授業時間以外に、1日2時間以上勉強をする」生徒の割合が、2年生は7.4%、3年生は10.3%と、全国と比べてかなり低い。	○現在実施している学力向上のための取組、「自学ノート」と「月例テスト」の成果と課題を把握し、家庭学習の時間確保と質を高める方法を検討していく。 ○基本的な生活習慣の確立を促すとともに、家庭でのメディアとの接し方について、PTA活動を通して働きかける。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「地域の行事に参加している」と答えた生徒の割合は、2年生・3年生とも44%を超えているが、3年生は全国・県の割合よりやや低い。学校全体としては、地域のボランティア活動に進んで取り組んでいると思うが、参加していない生徒も多くなる。 ●「将来の夢や目標を持っている」と答えた生徒の割合が、2年生は72.2%で全国より高いが、3年生は、62.9%で全国・県よりやや低い。	○ふるさと・キャリア教育を通して、自らの生き方を見つめさせるとともに、「職場訪問」「職場体験学習」「ボランティア活動」など、地域や社会に触れる経験を多く積ませていく。 ○修学旅行自主研修に「出雲子ども観光大使」の活動を取り入れ、ふるさと出雲のよさを再認識する機会を設ける。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立浜山中学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 学年や教科によって多少の差はあるが、平均正答率は、市・県・全国の平均値と同等または上回っている。
- 授業規律が整っており、学習に対して真面目に取り組む生徒が多い。
- 家庭や地域との関係は良好な結果が出ており、積極的にボランティア活動に参加する生徒も多い。
- 基礎的な知識を活用して考え、記述して解答する問題には課題がある。
- 家庭学習については、与えられた課題に対しては真面目に取り組めるが、主体性には課題がある。また、時間についても全国平均を下回っている。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	2年	○全体的に、平均正答率は全国・出雲市平均とほとんど変わらず、概ね良好である。特に、文法・語句に関する問題、文章中の描写や表現の特徴をとらえる問題において、成果を上げている。 ●漢字の読み書きや文章の構成をとらえる問題においては課題がある。	□基本的な漢字の読み書き指導に継続的に取り組む。基礎力テストや定期テストに向けての宿題(漢字練習帳)を点検し、間違えた箇所のやり直しをさせるなど、きめ細かな指導を行う。 □説明的文章・文学的文章の単元においては、全体の構成をとらえるような課題をもとにした授業づくりを行う。
	3年	○平均正答率は、全国・県・市平均に比べて、全ての項目で上回っており、概ね良好である。とりわけ書く能力、言語についての知識・理解・技能の問題においては、平均を大きく上回っている。 ●記述式の問題においては一定数無回答の生徒がいる。	□新聞コラムを利用し、さまざまな分野の文章を定期的に見る機会を設定する。段落ごとの要約や全体の感想や批評文を書かせることで、中心文を見つける力、自分の思いを文章にして表現する力をつける。優秀な作品や主旨や意味があいまいな例を提示することで考える視点やヒントを与え、推敲させる。
数学	2年	○全体的に、平均正答率は全国・出雲市平均を上回っており、良好である。特に、「資料の活用」の問題において、成果を上げている。 ●活用問題について、平均正答率が全国・出雲市平均を上回っているものの目標値には届いておらず課題である。	□計算問題の反復練習や小テストなどに取り組ませることで基礎の定着を今まで以上に図り、その上でペア・グループ活動を利用して活用問題に取り組ませる。
	3年	○平均正答率は、全国・県とほぼ同等であり、概ね良好である。特に、数学的な見方・考え方に関する面が優れている。 ●正答率が生徒によって大きく異なり、学力が二極化している様子が窺える。	□発展的な問題に多く取り組ませることで、数学的な見方・考え方に関わる力を一層伸ばしていく。 □基礎力テストなどを実施し、結果をもとにした補充学習に取り組ませることで個別の学力保障に努める。
社会	2年	○全体的に全国・出雲市平均よりも高い正答率であり、特に歴史的分野の知識・理解面が優れている。 ●「世界の諸地域」の正答率が若干低い。これは、地球を立体的にとらえることや、緯度・経度についての理解、グラフ・地図を読み取る力が充分定着していないと考えられる。	□グラフ、地図などの資料を読み取る学習を更にすすめ、資料活用能力を鍛える。 □グループやペアでの話し合い活動を積極的に取り入れて、お互いの意見を聞き、発表しながら、思考を深めさせる。
理科	2年	○平均正答率は、全国平均を上回っている。市平均にはわずかに及ばないものの概ね良好な状況である。特に実験・観察の技能に関する面が優れている。 ●「エネルギー」の領域に課題がある。特に「光の性質」と「音の性質」の正答率が低い。	□生徒に計画、仮説を立てさせて実験・観察を実施する。実験を通して事象を正しく理解させる。 □見方考え方を深め、思考力を高めるために、実験・観察後の考察については、科学的根拠に基づく話し合いをさせ、自分の考えをワークシート等に文章で記録させる。
英語	2年	○平均正答率は、市・全国をやや下回るが、おおむね同程度であり、良好な状態と考えられる。 ●語彙の知識・理解と語順の理解が不十分で、正答率が低い。特に書くことについて課題のある生徒が少なくない。	□単語テストや復習テストを継続して行い、基礎基本の定着を図る。また文型ドリルを通して、語順の理解と定着をめざす。 □ワークシートやノートで「書くこと」を徹底して行う。 □スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動を取り入れる。
	3年	○正答率は、市・県・全国ともに上回っており、概ね良好である。特に聞くこと、読むことについて優れている。 ●書くことについて、十分に定着していない文法事項が認められる。また話すことについては、用いる語句はよいが、文章で正しく答えることに課題がある。	□単語テストや復習テストを継続して行い、更なる基礎内容の定着を図る。 □ペアやグループでの言語活動を積極的に取り入れ、内容の充実を図るとともに、正しい文章で話せるようになることを目指す。また、スピーチやプレゼンテーションなどの活動の機会を増やす。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○自己肯定感・集団への帰属意識に関わる質問への肯定的回答が全国平均に対して高く(10%程度)、対話的な学びに取り組むやすい集団であることが窺える。 ○対話を通して学びが深まったり広がったりしていると回答している生徒が多い。(約75%) ●授業での学びを生活の中で生かしたり、将来の夢につなげようという主体性に課題がある。	□各教科・領域での「学び合い」や学級活動での話し合い活動を積極的に取り入れ、課題解決型の授業を展開する。また、計画的に授業公開を行い、お互いの授業を見合うことで研修を深める。 □望ましい勤労観・職業観の育成を図り、学ぶ目的や教科の有用性を明確にさせる。(キャリア教育の充実)
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○各教科において「授業で習ったことを復習している」「宿題をきちんとしている」との回答が全国平均に対して高く(各5～10%程度)、与えられた課題に真面目に取り組める生徒が多い。特に、「学力調査結果中間層の生徒が粘り強く学習に取り組んでいる」。 ●予習をするなど自ら進んで学習に取り組んでいる生徒は少なく、時間的にも平日2時間以上家庭学習をしている生徒の割合が全国平均より低い。(2年 7.2%・3年 16.1%)	□家庭学習の充実と生活習慣の見直しを、保幼小や保護者と連携して継続的に取り組む。 □学習計画表を活用し、短期的な課題を設定することやその課題に計画的に取り組むことを指導する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「学校での出来事を、家の人に話している」等の回答が全国平均に対して高い(各8%程度)。また「地域が好きである」と回答した生徒も全国平均をやや上回っている(3%程度)。職場体験学習等の学校の活動に地域が非常に協力的であり、家庭や地域との連携は取りやすい状況にある。ボランティア活動に参加する生徒も多い。 ●「新聞の記事を読んで」「ニュースを見ている」との回答が全国平均に対して低く(各5～10%程度)、社会に関心をもって関わろうとする意欲は低い。	□生徒会や部活動単位でのボランティア活動や地域の行事への参加を働きかける。 □地域学校運営協議会やPTAとの連携を密にする。 □図書室や廊下などに生徒が新聞を手に取りやすい環境を作る。また、生徒会活動の中で生徒が時事問題に関心を持つような取組を継続して行う。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立南中学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 3年生の国語、数学で全国等の平均正答率を上回っており、基礎・基本の定着が概ね確認できる。
- 2年生の数学、社会で全国等の平均正答率をやや上回っている。
- 2、3年生の英語で全国等の平均正答率を下回っている。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	2年	○全体的に市・全国平均値を上回っているか同等であり、昨年度までの学習内容が概ね定着していると思われる。 ●文章の読み取りに課題が見られる。	□今後も「学び合い」学習(4人グループやペアで話し合い、考え合い、聴き合う学習)を通して、さらに学習内容の定着を図る。 □段落構成を考えて文章を書いたり、要約文を書き推敲し合ったりする機会を設定し、書く力の向上を図る。
	3年	○全体的に市・全国平均値を上回っており、昨年度までの学習内容が概ね定着していると思われる。 ●文章の展開に即して、与えられた情報を整理する力を伸ばしていく。	□説明文を読み取る時には、事実と意見をしっかりと区別し、内容を整理したり、図や表を読み取り、内容をさらに深めたりする時間を授業中意識して設定する。
数学	2年	○市平均値とは同値で、全国平均値をやや上回っている。 ○正の数・負の数、文字式に関して正答率が高い。 ●関数の分野で誤答が多い。	□今後も「学び合い」を通して、さらに学習内容の定着と向上を図る。 □比例・反比例の本質的な理解が深められるように、題材を工夫して授業づくりを行う。
	3年	○市、県、全国平均値とも上回っており、昨年度までの学習内容が概ね定着していると思われる。 ○全領域で県平均値を上回っている。 ●関数領域でわずかに全国平均値を下回っている。	□今後も「学び合い」を通して、さらに学習内容の定着と向上を図る。 □関数領域を復習しながら、応用問題に取り組み、さらに学力の向上を図る。
社会	2年	○市平均とは同値で、全国平均値をやや上回っている。 ○思考力・判断力の問題は、市・全国平均値を上回っている。 ●知識・理解の問題で、全国平均値を下回る場合が比較的多かった。	□今後も「学び合い」学習を通して、学習内容の定着を図る。また、不得意分野を適時復習することで定着を図る。 □小テストを定期的に行う。また、家庭学習での復習を促し、学習内容の定着を図る。 □自主学習のやり方を示したり、基礎・基本をさせるためのプリント・ワークシートの作成や小テストの実施をしりする。
理科	2年	○化学分野は全国平均値を上回っている。 ●市・全国平均値を下回っている。 ●特に物理分野を苦手としている。 ●記述問題や活用問題への苦手意識が感じられる。	□実験や観察を多く実施し、実験結果を考察する過程を重視して、思考力や表現力を養いたい。 □ワークやプリントを利用し、基礎的な知識の定着を図る。また、「学び合い」学習を通して、活用問題に取り組みよう授業展開の工夫を行っていく。 □家庭学習での復習を促し、学習内容の定着を図る。
英語	2年	●市・全国平均値を下回っている。 ●リスニングでの対話文の応答、語彙の知識・理解、語形・語法、英作文での問題を特に苦手としている。	□授業での生徒同士のコミュニケーション活動は上手にできているが、正確な表現ができるまで高まっていないので、授業の工夫を行っていく。 □語彙の知識・理解、語形・語法の不足が顕著。正確に表記できないことが原因で、他の問題もできないことに波及している。語彙力を強化するため、毎時間小テスト等の実施で苦手意識の克服を目指す。
	3年	●市・全国平均値を下回っている。 ●特に書くことが苦手な英作文が弱い。	□普段の授業から英語で「書く」活動を多く取り入れるように工夫する。 □語彙力、文法力を伸ばせるよう引き続き小テスト等を実施する。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」など学習活動に関する意識調査では、肯定的な回答をしている生徒が全国等の平均値よりも高い傾向にある。(3年生調査) ●「グループ活動等をよく行っていたか」に対する肯定的な回答が90%を超えている一方、「授業で自分の考えを発表したり、書いたりする」ことを苦手としている回答が80%を超えている。(2年生調査)	□各授業で、授業の目標を示したり、振り返りなどをしたり授業法の改善や工夫を行っていく。 □道徳教育の取組を通して、学級づくりを行い、安心して学べ、お互いを高め合う学習環境をつくる。 □言語活動を充実させ、生徒が主体的に取り組んでいける授業、学校行事、生徒会活動等を積極的に行っていく。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○「家の人に言われなくても進んで勉強している。」など家庭学習に関する意識調査では、肯定的な回答をしている生徒が全国平均値よりも高い傾向にある。(2年生調査) ●「自分で計画を立てて勉強している」生徒は県・全国平均値並みだが、学習時間では「1時間未満」の生徒が42%程度あり、全国平均と比べても高い傾向にある。	□各授業で家庭学習の課題を明確に示し、課題への取組を点検し、授業の中にかかす。 □基礎・基本の定着を図るために、個別に家庭学習の指導を行う。 □学習計画表を作成したり、学習ガイダンスを行ったりして、学習への向き合い方に気付き、見直す機会とする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「地域の行事に参加している」生徒の割合は80%前後で、全国平均値と比べてもかなり高い傾向にある。(2、3年生調査) ○「規則を守る」、「困っている人がいれば助ける」など社会的、道徳的に関する意識調査では、肯定的な回答をしている生徒が90%を超えており、全国平均値を10~20%上回っている。(2、3年生調査)	□道徳教育の取組を通して、心身ともに強くたくましく、思いやりの心を持ち、想像力豊かな生徒の育成を図る。 □コミセンと連携し、ごみゼロ活動や地区民運動会等への参加を継続的に行う。

平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析及改善策

出雲市立平田中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 「学校に行くのが楽しいと思う生徒」の割合が全国平均よりも大幅に多い。
- 全国平均と比較して、「平日にテレビ・DVD・ゲームを1時間以上利用する生徒」が多い。また、家庭での学習時間が全国・出雲市平均と比べて少ない生徒が多い。
- 社会科、理科の平均正答率は、全国平均を上回っている。
- 数学・英語には課題がある。

2 学力調査結果分析及改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	2年	○問題の内容別では「文法・語句に関する知識」に関する正答率が、全国・市と比較して高かった。歴史的仮名遣いや故事成語など、1年生古典分野で学習したことが定着していると考えられる。 ●「記述問題(55字)」「作文問題(200字)」において、無回答や条件に合わない解答が全国・市と比較して多かった。「記述問題(20字)」では、大差はなかった。	□記述の力を高める手立てとして主題や筆者の主張を50字程度で書く活動を取り入れる。答え方のポイントや必要なキーワードを示し、書くことに抵抗がある生徒も取り組みやすくする。 □「書くこと」の領域の学習では、その単元で身につけたスキルを明示する。手本を示したり、応用的な課題に挑戦したりして、獲得したスキルを確実に使えるようにする。
	3年	○全体として全国、県の平均くらいの結果となっており、「読むこと」については高い正答率となった。 ○「国語への関心・意欲・態度」の平均正答率が高く、前向きに取り組んだ様子がうかがえる。 ●「封筒の書き方」は、生活の中での経験も少なく、低いポイントとなった。 ●「全ての書く問題で最後まで解答を書くことと努力した。」生徒の割合が国や島根県平均と比べて少ない。	□書く問題については、様々なタイプの問題を提示し、書き方も示しながら指導して、問題に取り組もうとする意欲を高める。 □「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について、生徒が興味を持てるような学習内容や話題を提供する。
数学	2年	○基本的な計算はできている。 ●「図形」「資料」の単元において、無回答が多く、正答率が低かった。 ●1年生の学習内容で、後半に学習する単元と、「文字式」や「方程式」などのように、学年の前半に学習し、なおかつ繰り返し登場してくる単元での正答率に差がある。	□後半行う単元(繰り返し登場しない内容)については、特に数学的活動を工夫する等して充実を図る。 □単元毎に単発的な指導をするのではなく、より全学年や単元間などの学習内容の関係づけを意識した授業改善をする。 □「プリント配信システム」を効果的に活用する。
	3年	○基本的な計算や、問題文が短い問題は正答率・回答率共に高い。 ●「図形の証明」「数の性質の証明」の無回答率が高い。 ●問題文が長い問題の正答率が低く、無回答率が高い。問題文が長くなると選択式、記述式問わず、回答を避ける傾向にある。 ●数学に対する苦手意識が高い。	□定期テスト、各授業において積極的に記述問題を扱う。授業では、スモールステップによる、きめ細かな指導をより徹底する。 □各単元の活用の場面等で教科書の問題だけではなく、長い問題文の問題や、全国学力調査の問題を積極的に扱っていく。 □「プリント配信システム」を効果的に活用する。
社会	2年	○どの観点においても全国並みの力がついており、特に関心・意欲は全国平均を上回っている。 ●資料を読み取って考えたり判断したりすることが苦手である。 ●分からないことを能動的に調べたり、友達と考えを深めたり、生活経験とつなげて考えたりすることが少ないと考えられる。	□自分で資料を用いて調べて、レポートや作文にまとめるような学習内容を仕組むことで、資料を活用したりじっくりと考えたりする力を伸ばす。
理科	2年	○どの領域でも全国平均よりも正答率が上まわっており、特に「実験技能」は高かった。 ○化学分野の「粒子」の内容の理解が高かった。 ●生物分野や地学分野の正答率が市平均を下まわった。 ●実験結果から考察し、表現する力が弱い。	□習熟度テスト等に合わせた復習の機会をつくる。 □実験・観察をもとに何がわかるかを考え、表現する力をつけていくために、話し合い活動を積極的に取り入れていく。
英語	2年	○「基礎」は、概ね出雲市の平均正答率と同じであった。 ○領域では、「聞くこと」の正答率が出雲市平均を上回った。 ●「活用」は、出雲市・全国平均を下回った。「観点」では「外国語表現の能力」領域では「書く」、問題の内容では「語彙の知識・理解」と「3文以上の英作文」に課題が見られた。	□新出単語・文型の理解・定着を図るため、単元やページごと的小テストを継続して行う。また丁寧な反復して指導を行う。 □単元ごとに、教科書本文を内容理解した後、自分の意見を「書くこと」につなげられるよう工夫して、習ったことを「活用」する時間を確保する。
	3年	○生徒質問紙では「1・2年生の授業ではスピーチやプレゼンテーションなどまとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか」「英語の授業はよくわかりますか」という質問に肯定的に答えた生徒が全国平均を大きく上回っている。 ○「理解の能力」は県平均を上回り、「表現の能力・話す」は全国平均を上回った。 ●「表現の能力・書く」「基本文や語彙の知識・理解」は県平均を下回った。	□授業で基本文や語彙のテストや復習を行ったり、家庭学習の内容を指導したりして、既習事項の定着を図る。 □即興で、応答したり、自分の考えを表現したりする学習活動を増やして、思考力・判断力を養うとともに、自信をもって表現する力を養う。

3 学習状況調査結果分析及改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	【2年生】 ○「授業の始めのめあてやねらいが示されていた」が92.3%、「授業の最後に学習した内容を振り返る活動がよく行われていた」が84.4%と高い。 ○授業では、「学級の友達と話し合う活動をよく行っていた」が82.6%、「授業などで、自分の考えを発表したり文章に書いたりすることは難しい」という質問に、あてはまると答えた生徒が61.2%で、出雲市平均とはほぼ同じであった。 【3年生】 ○総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いませんか。」「70.8%「学級みんなで話し合っで決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか。」「90.7%「学校に行くのは楽しいと思いませんか。」「87.5%と全国平均を大きく上回っている。 ●昼休みや放課後、休日に、図書室や地域の図書館に行って、本を読んだり借りたりする生徒が少ない(全く行かない生徒が61.6%)。しかし、「読書は好きだ」と答えた生徒は、全国・県平均よりも高い。	□授業とつながる家庭学習、家庭学習につながる授業を設計する。 □日頃から200字程度の長さで自分の考えとその理由をまとめる活動を授業の中で繰り返し行う。学習の記録、感想文、日記など数多くの場面で書いたり話したりする場面を設け、経験を積ませる。 □各教科で図書館を活用する授業を積極的に取り入れる。また、図書ホールが生徒にとって落ち着いて読書を楽しめる空間になるように、書架などの配置変えを行い環境を整えたり、生徒会活動の一貫として「おすすめ図書コーナー」を設置し、読書の幅を広げる活動を行ったりする。 □学年部の取組(学級におけるグループ活動等)との連携をさらに深め、学び合いや表現力の育成等各教科の授業改善の充実を図る。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	【2年生】 ●学校に行く日の家庭学習の時間で最も多いのは「30分くらい」の生徒で32.0%。(全国平均は「1時間くらい」が最多で26.0%)「2時間以上学習する生徒」は5.8%と大変少ない(全国平均は16.3%)。土日に1時間以上家庭学習する生徒が43.7%で出雲市平均(59.6%)より大幅に少ない。 ●睡眠については、「11時頃に就寝する生徒」が27.2%、「7～8時間程度の睡眠をとる生徒」が28.2%であり、全国平均とはほぼ同じ傾向であった。平日「テレビ・DVD・ゲームを1時間以上する」生徒が83.5%で出雲市平均より15%以上多い。 ●家庭学習に「参考書・問題集を利用している」が44.7%、「図書館利用」が14.6%、「辞書利用」が28.2%と低い。 【3年生】 ●平日2時間以上家庭学習をする生徒の割合が14.5%で、全国平均35.5%と比較して半分以下である。	□「学習の手引き」をもとに、各教科で家庭学習の仕方を指導する。 □家庭学習の時間の確保のために生活時間の見直しやメディア利用の改善の働きかけをする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	【2年生】 ○将来の夢や目標をもっている」と答えた生徒が、75.7%で全国平均71.9%より多い。 ○家族との関係では「決めた約束やまきりを守っている」「家の人にあいさつをしている」「家の人に出かける先を伝える」が85%を超え、「学校での出来事を話している」が75.7%と高かった。 ○「地域の行事に参加している」が58.3%であり、全国と比較して大幅に高い。 【3年生】 ○地域の行事等への参加率は、全国平均よりも高かった。 ●将来の夢や希望をもっている生徒が63.6%で全国平均70.5%より少ない。	□様々な職業に触れたり、働くことの意義を考える等のキャリア教育を行い、将来の夢や目標を具体的にするとともに、見直しをもって計画的に実現を目指すように指導する。 □保育園(園)・幼稚園・小学校・中学校が連携をして、基本的生活習慣の確立を図る。 □校報や通信、ホームページ等によって、学校の情報提供を充実させる。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立向陽中学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 国語、社会、理科が全国・県・市の平均正答率を上回りました。
- 2年生数学が全国・市の平均正答率を下回りました。
- 2、3年生英語が全国・県・市の平均正答率を下回りました。
- 学習状況調査(学習への姿勢や学校・家庭での生活の様子の調査)においては、全ての設問で肯定的回答の割合が、全国・県・市の平均と同等か上回りました。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	2年	○全領域で、全国平均、市平均を上回っています。特に、説明文・文学作品の内容を正確に読み取る力が身についています。 ●「話し合いの内容を聞き取る」問題では、全国平均、市平均を下回っています。 ●「漢字を書く」問題での正答率がやや低いです。	□日々の授業の中で、繰り返し漢字指導を行い、基礎的な漢字の力の定着をはかります。漢字検定等への呼びかけも行います。 □「話す・聞く」力を伸ばすための学習活動(少人数での話し合い活動や聞き取り問題など)を計画的に実施します。
	3年	○全領域で全国・県の平均正答率を上回り、特に「話す・聞く」分野でより上回りました。 ○無解答率が低い傾向にあります。 ●「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」「語の一部を省いた表現について、適切な活用の仕方を理解する」という問題の平均正答率がやや低いです。 ●言語に関する知識を高めていく必要があります。	□授業や定期テストにおいて「根拠を明確にして書くこと」の練習を行ったり、目的に応じて情報を読み取ったり、資料を活用したりする学習を行います。 □授業中適宜、語彙に関する解説を行います。また、慣用句・ことわざ等の語彙を増やす学習を行います。
数学	2年	○全国平均とほぼ同程度で、概ね良好な状況です。 ○領域では「数と式」「図形」に強みがあります。問題の内容では、特に「一次方程式」「空間図形」に強みがあります。 ●領域「資料の活用」に課題があります。問題の内容では、「資料の散らばりと代表値」に課題があります。	□復習として行っている毎時間の小テストで「資料の活用」領域の回数を増やします。 □自学用のノート「Bノート」の材料として、「資料の活用」領域の問題を生徒に紹介します。 □「資料の活用」領域の不十分だった点は、補充指導を行います。
	3年	○領域別では「数と式」「図形」「関数」の分野で全国・県平均を上回りました。 ○「数と式」の分野では、計算問題を解く力は概ね定着しています。 ○数学Bの記述式問題の正答率は、ほぼ全国平均ですが、無解答率は全国平均や県平均と比べて大きく下まわっています。 ●「資料の活用」は、全国平均、県平均を下回りました。	□「資料の活用」の領域を中心に復習していきます。 □記述式の問題を今後も出題していきます。 □単元ごとのテストを今後も定期的に行います。
社会	2年	○全国平均、市平均を上回っており、おおむね良好です。 ●「地球の姿をとらえる」「世界の地域構成」が全国平均、市平均を下回りました。	□世界地理を復習する機会を随時設けていきます。 □習熟度テスト前に、世界の地域構成を確認します。
理科	2年	○全体の正答率は全国、市の平均を上回っており、基礎の定着についてはおおむね良好といえます。 ●「力と圧力」の領域で目標値を0.1ポイント下回りました。目に見えない力の大きさや力のはたらく点などの物理現象をとらえることに課題があります。	□問題演習、作図練習をする機会を設けていきます。 □自然現象を論理的にとらえ、自分の言葉で説明したり、文章で説明したりする機会を設けていきます。
英語	2年	○英文を理解する力は概ね良好です。 ●基礎に課題が見られます。特に語彙の知識・理解、英文を書くことに課題があります。	□1年生の時に学習した英単語を復習する機会を設けます。 □まとまった量の英文を書く活動を多く取り入れます。 □話す力を伸ばすために即興のやり取りをする活動を増やします。
	3年	○与えられたテーマについて自分の考えを書いたり、書かれた内容について自分の考えを述べることは県平均を上回っています。自分の考えを述べる等の作文に関しては概ね良好です。 ○無解答率が極めて低いです。 ●「話すこと」、特にやりとりに即興で加わることに課題があります。	□正確に質問に答えるために既習事項を繰り返し練習する機会を増やします。 □語順を定着させるための活動を増やします。 □話す力を伸ばすために、即興のやり取りをする活動を取り入れます。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○友達と協力して学習する機会が多く設けられていると回答した生徒の割合が、全国・県・市の平均を上回っています。グループ活動などの協働学習がよく行われていると考えられます。 ○授業で話し合い活動を通して自分の意見を話し、考えを深めたり広げたりできていると回答した生徒の割合が、全国・県・市の平均を上回っています。主体的に対話を重視した学習がよく行われていると考えられます。	□授業において効果的な「めあて」と「ふりかえり」の場面を設定します。 □授業においてグループやペアでの活動を積極的に導入し、対話を通して学びを深める学習をさらに進めます。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○1時間以上家庭学習をしていると回答した生徒の割合が、全国・県・市の平均を上回っています。家庭学習の時間は概ね確保されています。 ○家で自分で計画を立てて勉強していると回答した生徒の割合が、全国・県・市の平均を上回っています。定期テスト前の家庭学習を、全学年で学習計画を立てて行っている影響が考えられます。	□家庭学習を2時間以上行う生徒の割合を増やすために、授業と連動した効果的な宿題の提示に努めます。 □生徒・保護者と学級担任の教員との面談において家庭学習の状況を確認し、それぞれの生徒に合った家庭学習の方法について助言をします。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○地域や社会の出来事や問題に関心を持つ生徒の割合が、全国・県・市の平均を上回っています。 ○地域の行事に参加していると回答した生徒の割合が、全国・県・市の平均を上回っています。地域へ愛着を感じ、実際に地域のために行動している生徒の様子がうかがえます。	□総合的な学習の時間や学校行事などにおいて、地域についてより深く学ぶことができる学習活動を推進します。 □ホームページや学年・学級だよりを通して、地域や保護者への情報発信を積極的に進めます。 □学校だけでなく、地域の皆さんへの挨拶がしっかりとできるように指導していきます。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

## 出雲市立佐田中学校

### 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○3年生は、昨年度2年生時の「市学力・学習状況調査」と比較すると、すべての教科にわたって平均正答率が上がった。その結果、今回はほとんどの教科で全国・県・市の平均正答率を上回ることになった。  
 ○2年生はすべての教科で全国・市の平均正答率を大幅に上回った。特に〔観点別〕では、概して関心・意欲・態度でその割合が高い。  
 ○基本的な生活習慣、生活規律が身につけており、主体的な生活の仕方や他者との関わりが上手くできていることから、自己肯定感も比較的高いと言える。

### 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	2年	○文学作品の内容の読み取りについては、市の平均正答率を大きく上回っている。 ●説明文の内容の読み取りについては、市の平均正答率を下回っているところに課題が見られる。	□説明文の作品を、文章の構造や組み立てに気を付けながら読み取る機会を多く持つ。 □筆者の主張、事実、具体例を明確に区別して読み取るように指導する。
	3年	○概ねどの領域でも市・県・全国の平均正答率を上回っている。 ●文章の構成や展開、表現の仕方を捉え、書き手の目的・意図を考えたり、その効果について考えたりすることに課題が見られる。 ●話し合いの中で、課題の解決に向けた自分なりの考えをもつことに課題が見られる。	□文章の構成を意識し、筆者の展開や表現の特徴を考えながら読む。 □読み取った内容や自分の考えを整理し、的確にまとめ、伝え合う機会を多くもつ。課題のある生徒については、予め自分の考えを文章にさせておくなどしたい。
数学	2年	○全体を通して、全国の平均正答率を上回っている。〔領域別〕では、資料の活用、数と式、関数、図形、〔観点別〕では、数量や図形などについての知識・理解、数学的な技能、数学的な見方や考え方、関心・意欲・態度で、特に平均正答率が高い。 ●関数の定義、図形の移動、図形の作図にやや弱みが見られる。	□関数の定義については、授業の中で、意識をしながらことばを使う。 □図形では、移動については、具体物を操作して、移動前と移動後の変化に気付かせる。また、作図の際には、その意味や根拠をしっかりと考えさせる。
	3年	○平均正答率は、国・県・市ともに上回った。特に〔領域別〕では、図形、資料の活用、数と式が、〔観点別〕では、数学的な技能、数学的な見方や考え方で平均正答率が大きく上回った。 ●〔領域別〕では、関数が、〔観点別〕では、数量や図形などについての知識・理解に弱みが見られる。	□関数については、表、式、グラフの互換を意識させることに加え、実生活と関連させながら関数をイメージさせる。 □言語活動の中で、正しい言葉や単語を積極的に使う取組をする。教師の説明も模範となるように努める。
社会	2年	○全体を通して、目標値および全国・市の平均正答率を上回っている。特に歴史的分野の正答率は全般的に高い。 ●地理的分野の問題で、「地図中の緯度と経度を読み取ることができる」「緯線と経線が直角に交わる地図について、その特色を把握することができる」が目標値を下回っている。	□緯度・経度・時差についての理解が弱いことから、地球儀や視覚資料を活用し、視覚的・体験的に理解させることが必要である。その際、ペアやグループでの活動によって互いに教え合うなど、協働して課題を解決できるように工夫していきたい。
理科	2年	○全国・市の平均正答率を上回った。〔領域別〕はすべてにわたり、また、〔観点別〕では、自然事象への関心・意欲・態度、観察・実験の技能、自然事象についての知識・理解が特に高い。 ●科学的な思考・表現として、植物の分類(生命)、水溶液の性質(粒子)、地層(地球)に弱みが見られる。	□今後習熟度テストなどを実施した後、授業で問題の解説をするなどして指導していく。例年弱みとなりやすいところなので、時間をかけて授業で取り扱う。
英語	2年	○全国および市の平均正答率を大幅に上回った。〔基礎・活用〕では、特に活用の正答率が高い。〔領域別〕では、書くこと、読むこと、また、〔観点別〕では、外国語表現の能力、言語や文化についての知識・理解が特に高く、コミュニケーションへの関心・意欲・態度、そして外国語理解の能力の点でも平均正答率を大幅に上回っている。	□弱みではないが、外国語理解の能力(書くこと)をいっそう向上させるため、日本語と英語の特徴や言語の豊かさに気付き、発想力豊かな英文を書くための土台作りをそれぞれの単元で行っていく。
	3年	○無回答が少なく、特に記述する問題に強いなど、日頃から積極的にテストに取り組んでおり、この調査でもその傾向が顕著に見られた。 ●平均正答率は、県を上回ったが、全国の結果を下回った。特に、〔領域別〕では、書くこと、読むこと、聞くことが、〔観点別〕では、外国語理解の能力、表現の能力、言語や文化についての知識・理解に弱みが見られる。	□読み取る力(リーディング)は、リスニング力と同様に、主体的に聴きとること、読み取るという意欲を持つことで、単なるメッセージの受け取りから、一段レベルアップした活動になる。単元にあった手法を用いて、読み取る力を伸ばしていく。

### 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○各教科の学習の大切さを理解し、真面目に学習活動に取り組んでいる。また、物事にあきらめずに挑戦しようしたり、学校の決まり、時間、提出期限を守るなどの規範意識も強い。 ●読書や新聞を読むなどの習慣が身につけているとは言えず、概して読解力に弱さが見られる傾向がある。	□主体的に考え、物事を判断する力が身に付くよう、図書や新聞、ICT機器を活用した調べ学習の充実を図っていきたい。それとともに読解力の育成にもつなげたい。また、学習成果を発表したり、自分の考えを説明したりするなど、言語活動の充実を図りたい。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○基本的な生活習慣、生活規律が身につけており、主体的な生活の仕方や他者との関わりが上手くできていることから、自己肯定感も比較的高いと言える。 ●将来の夢や目標をもっている生徒とそうでない生徒とでは学習に取り組む意識が違ってきている。 ●読書は好きだが、家庭では本を読んでいない。	□個人面談、保護者面談の充実によって、家庭との連携強化に努める。 □キャリア教育の充実を図ることで、進路に対する意識を高め、家庭学習の定着化を支援・推進していきたい。 □生活アンケート等で生徒のメディア利用時間を把握し、時間の使い方の見直しを促していきたい。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○ほとんどの生徒が、「自分が住んでいる地域が好き」と答えている。これまで本校が取り組んできたふるさと教育やキャリア教育、さらには地域を挙げて取り組んできた保小中連携の教育を通して、生徒たちに郷土への愛着や誇りが芽生えてきていると感じられる。 ●その反面、外部との関わりが希薄だと感じている生徒が多い。	□読書ヘルパーや放課後学習ボランティア、部活動支援のボランティア(外部指導員)、交通安全指導員など、学校外部の地域の方々に厚く支えられていることを折々に伝えて気付け、地域の方々への感謝の気持ちを大切にしつつ、地域社会に積極的に関わろうとする意欲を高めさせたい。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立多伎中学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 2年生についてはほとんどの教科で出雲市、全国の平均正答率を上回っている。
- 2・3年生ともに、選択問題や短答式の問題については無回答が少なく、意欲的に学力調査に取り組んだことがわかる。
- 3年生については、すべての教科で出雲市、島根県、全国の平均正答率を下回っている。
- 2・3年生ともに、学級内での学力差が大きい。

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	2年	○概ね目標値を上回る正答率である。 ●目標値を下回った4つの問のうち3つが漢字の読み書きであり、下学年で学んだ漢字が身につけていないことがわかる。 ●文章の構成についての問いは半数近くが無回答であり、理解できていない。	□新出漢字を日常的に使うように指導したり、漢字テストを実施し、積極的に覚えられるような工夫をする。 □物語文や説明文を読む際に、文章の内容だけでなく場面の転換や論じ方にも注意しながら学習を進める。また、文章を書く際、構成を立ててから書かせるなどの指導を行う。
	3年	○短歌を1首選び、感じたことや考えたことを答える問いについては100%が正答していることから、文章に表れているものの見方や考え方について自分の考えをもつことができる生徒が多いことがわかる。 ●文章の展開に即して内容を整理する問いについては正答率が低く、文章の展開を考えながら読むことができていないことがわかる。	□文章の展開や構成を考えながら読むことができるように、文章の内容指導だけでなく、起承転結や序・本・結を確認しながら学習を進める。また、書く指導においても構成を立てさせ、論理的でわかりやすい文章が書けるよう指導する。
数学	2年	○全体的に正答率が高い。 ●関数領域については、学習内容の定着が不十分のため、正答率がやや低い。	□関数領域では、2つの数量関係を表、式、グラフに表すことを大切にし、復習をしながら、新しい内容を学習していく。 □発展した内容についての学習も積極的に行う。 □苦手な生徒もいるので、毎時間の授業で、基本的な計算問題をできるだけたくさん解かせ、計算力をつけさせる。
	3年	○基本的な計算問題をたくさん解いてきたことで、計算力がついてきた。 ○2年生で学習した図形や確率の正答率が高い。 ●関数と資料の活用は、学習内容の定着が不十分のため、正答率が低い。 ●記述式の問題が苦手な生徒が多い。	□基本的な計算問題をできるだけたくさん解かせるようにする。 □関数、資料の活用は、習熟度テストの度に復習の機会を設ける。 □記述式の問題を授業の中で積極的に取り組む。 □複数の教員により、きめ細やかに指導を行う。
社会	2年	○全体的に正解率が高い。 ●緯度経度についての理解が不十分な生徒が多い。 ●中世の日本と東アジアとの関わりの部分が弱く、他の時代と混同しやすい。 ●地理問題で複数の資料から読み取ることが苦手である。	□複数の資料から検討していく問題を多く用意する。 □各時代の特徴をまとめさせ、他の時代と混同しない学習を展開する。
理科	2年	○出雲市は科学館の学習もあり、生徒の興味関心が高く、実験技能も高く、学習内容の定着も良い。 ●めしべの位置など基本的なところができていなかった。	□復習で簡単な質問に答えさせることから始め、自分の考えをみんなの前で表現できる力を育てていく。 □実験や観察を大切にして、多くの実物に触れ合わせる。
英語	2年	○全体的に全国の平均値とほぼ同じで、市を上まわっている。 ○「聞くこと」や「書くこと」(英文作文や正しい語順で書くこと)において好結果がでている。 ●語形・語法を理解し正確に書くことにおいて誤答が多く、きちんと身につけていない。	□授業では、「読む」「聞く」「話す」「書く」をバランスよく取り入れるが、特に書くことにおいては、今まで以上に正確性を重視していくようにする。 □語形、語法に関して、効果的な課題を出すように工夫する。
	3年	○英会話を聞いて答える問題は、概ね良好な結果である。 ●「読む」「書く」「話す」の領域において全国平均を下回っている。特に記述式の問題においては誤答や無答の割合が高い。	□授業では、1、2年生の内容もおさえて復習しながら展開するよう工夫する。 □記述式の問題や課題を重視し、今まで以上に授業の中で効果的に取り入れるようにする。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○授業の中で「解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいた」また、「自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表していた」生徒は県、全国の平均を上回った。(3年) ●授業でICTを週1回以上活用したと答えた生徒は県、全国を下回る4.5%だった。(3年) ○授業をきちんと聞いている生徒は9割以上おり、全国の数値を上回っている。(2年) ●授業中に自分の考えや意見を発表することが得意ではない生徒は68%で、出雲市の数値を上回っている。(2年)	□「わかる授業」実現の一助として、適切な場面でICT等の視覚教材を用いるなど、授業の工夫をする。 □自分の思いを話せる学級集団づくりを学校教育全般を通じて行うとともに、授業の中でさまざまな形態での発表機会をつくり、意欲的に自分の思いを話そうとする生徒を育成する。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○「家で自分で計画を立てて勉強している」という生徒は県、全国を上回る22.7%であり、「どちらかといえばしている」という生徒も合わせると半数を超える54.5%いる。(3年) ●授業以外で普段勉強を全くしないという生徒が県、全国を上回り13.6%いる。(3年) ○授業以外で勉強しない生徒はほとんどおらず、半数以上が1時間以上上している。(2年) ●平日、メディアに触れる時間が1時間以上と答えた生徒は68%で市の数値を上回っている。(2年)	□家庭学習に取り組みにくい生徒の学習の手立てとして、授業内容に沿った課題を適宜与える。 □「学習の手引き」を配布し、家庭学習の方法に併せて家庭での適切な時間の過ごし方についても家庭で話し合ってもらおうきっかけづくりをする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「今住んでいる地域の行事に参加しているか」という問いに対して「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」という生徒は77.3%おり、県、全国を上回っている。(3年) ●「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」という生徒は0%で県、全国を下回っている。(3年) ○「自分の住んでいる地域が好きである」という問いに対して「とても当てはまる」「まあ当てはまる」と答えた生徒は合わせて96%おり、全国を上回っている。(2年)	□職場訪問や職場体験などのキャリア教育等を通じて、自分の住む地域について知る機会をつくる。 □地域ボランティア等に積極的に参加するよう促す。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

## 出雲市立湖陵中学校

### 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

市学力・学習状況調査：○数学は、昨年度の結果をふま様々な取り組みを行い、数値として改善が見られつつある。●全教科とも総合的に問題があり、継続的な学習指導を家庭学習においても行う必要がある。●生活面においても目標を設定できない生徒が多く、家庭での生活習慣づくりを継続して取り組んでいく。  
 全国学力・学習状況調査：○国語と数学については、全国を上回っている。●表現する力については、各教科とも授業改善を工夫する必要があると思われる。●生活面においても家庭での生活習慣づくりを継続して取り組んでいく。

### 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	2年	○「文法・語句に関する知識」の正答率は、目標値を上回っている。 ●「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域の正答率が目標値及び全国平均を下回っている。 ●「言語についての知識・理解・技能」の観点の正答率が目標値及び全国平均を下回っている。	□授業の中に学習ゲームの活動をなるべく取り入れ、学習に対する興味・関心を高める。 □漢字の宿題を出し、その小テストを毎時間しているが、そのテストの問題数を減らし、満点を取れるようにし、自信と達成感を持たせる。
	3年	○「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の正答率は全国平均を超えている。 ●「話すこと・聞くこと」の正答率が全国平均をやや下回っている。	□問われていることについて読み取れているか確認し、的確に答えられるように指導を工夫する。 □授業の中で、意見の分かれるテーマについての議論を積極的にに行う。
数学	2年	○「数と式」の領域は、市平均値や目標値に近い。 ●「図形」の領域が、市平均値や目標値と比べて低い。特に「空間図形」に課題がある。 ●「数学への関心・意欲・態度」の観点が市平均値や目標値と比べて低い。	□「図形」の領域を授業するときは、模型などの具体物を用いて視覚的な支援で理解をうながせるよう工夫する。 □グループ学習などを活用し、自分の力で問題を解く機会を増やし、解けたという達成感を味わえるようにする。
	3年	○観点「数学的な考え方」と「記述式」形式の正答率は全国平均を超えている。 ○「数学への関心等」が全国平均を超えている。 ●「数量や図形などについての知識・理解」の正答率が市平均を下回っている。 ●分布が二極化しており、学力に開きがある。	□自主学習ノートや課題テストへの取り組みを通して、基礎的な技能を身に着ける。 □数学的活動や日常生活の中から課題を取り入れ、探求していく学習を取り入れる。 □学び合いの学習を通して、互いに関わり合いながら学習する機会を作る。
社会	2年	○「世界各地の人々の生活と環境」「古墳時代まで」の正答率は目標値に達している。 ●「世界の諸地域」「中世の日本」の正答率は、目標値及び全国平均を大きく下回っている。 ●観点「資料活用の技能」に課題がある。	□グラフや図などの資料を読み取り、考える活動や課題を多く取り入れる。 □新聞記事やニュースを積極的に取りあげ、社会の出来事に対する関心を高める。
理科	2年	○4つの単元については、全国平均を超えている。 ●市と比べて、基礎と活用の表現力に差がある。 ●自然現象についての関心や意欲または知識、理解に問題がある。	□授業日以外にも復習ができるようプリント教材などを準備しておく。 □身近な自然現象に目が向くように、生活の中で関連することを多く事例として取り上げるように工夫する。
英語	2年	○リスニングの内容理解では、市平均値と近く目標値を超えている。 ●リスニングの対話文の応答や長文の読み取りに課題がある。 ●語彙の知識・理解も低いので、基礎基本の定着が弱い。	□調査の結果を受け、復習テストや補習を実施する。 □教科書以外の少し長い英文に触れさせる。長文を解く場を作る。 □復習テストや小テストを実施することで、自主学習ノートの取り組みに意味を持たせ意識を高める。
	3年	○話すことについては、全国平均を上回っている。 ●書くことについては、全国平均を下回っている。 ●英語の関心、意欲等については、全国平均を下回っている。	□話す活動については定期的にパフォーマンステストを行っており、その成果が表れているので、継続していく。 □書く活動については自分で考えて書く活動を増やすことで表現力向上に努めたい。 □ペア活動を多く取り入れることでコミュニケーションの力を向上させたい。

### 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	2年：○各教科の特性も考慮し、定期的に活動形態は記録をしている。 ●授業での学習活動は行われているが、深い学びには不十分な面がある。 3年：○自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表することができる。 ●話し合いの中で、お互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていく力は弱いと思われる。	□授業中での「めあて、学級活動、振り返り」を充実させ、生徒活動の内容も記録し、研修資料として活用する。 □授業中の学級活動については、全教科内容を取り上げ研修を行う。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	2年：○10割近くの生徒が、主体的に家庭で、自主学習に取り組んでいる。 ●家庭での学習時間が課題と自主学習を含めて60分未満で少ない。 3年：○自主的な家庭学習をしないといけない意識は、市や国と比べても高い方である。 ●家庭での学習平均時間が少なく、今後の改善点である。	□各教科自主学習として取り組んでおり、さらに質と量の検討を行う。 □自主学習の成果が視覚的に分かるようにグラフなどにして、生徒に伝える。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	2、3年：○家庭内のあいさつや会話も多く外出時も連絡をきちんとしている生徒が多数いる。また決められた手伝いもしている生徒の割合も高い。 ○地域活動への参加も7割近くで多く、家庭や地域のつながりは高い。 2、3年：●地域活動に参加するだけでなく、活動を通して地域に貢献できる姿勢を持たせることが改善である。	□地域活動への積極的な参加が多く、郷土愛やボランティア精神の表れであるため、継続的な活動を支援していく。 □生活習慣づくりとして、生徒と家庭との話し合いの場を数多く設定する。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

## 出雲市立大社中学校

### 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

<ul style="list-style-type: none"> <li>○学年・教科によって差はあるが、概ね基礎的な学力は身につけている。</li> <li>○学習に対する関心は全体的に高く、学習することの大切さや必要性を認識している生徒が多い。</li> <li>○生活習慣の定着や家族との関係に関して、良好な結果が得られている。</li> <li>○住んでいる地域への愛着を持つ生徒が多く、ボランティアや伝統的な活動に積極的に参加する生徒も多い。</li> <li>●「資料の活用」「自分の考えを的確に書いて表現する」など、応用的に考え、答えを導き出すような問いに対応する力を伸ばす必要がある。</li> <li>●学習への意欲という点では個人差が大きく、それが上位層と下位層に分かれる状況を生んでいると思われる。</li> <li>●長い文章を読んだり、難易度の高い問題に根気強く取り組んだりすることが、できにくい生徒がいる。</li> </ul>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	2年	○「読む能力」と「言語についての知識・理解・技能」の正答率が高い。具体的には、「文法・語句に関する知識」についての問題や、「説明文の内容を読み取る」問題での正答率が、目標値を5ポイント以上上回っている。 ●漢字を「書く」力、文学作品の内容を「読み取る」力、「段落の構成をとらえる」力、読み取った内容や自分の「考えを明確に書く」力が弱い。	□漢字小テストや課題テストの見返しと反復練習を徹底する。 □文学作品を扱う際に、場面の展開や登場人物の心情をとらえるグループ活動を行い、互いの考えを交換させ、考えを深める。 □200字程度の条件作文を書く機会を増やす。
	3年	○ほとんどの領域で、正答率が高く、中でも「話すこと・聞くこと」、「伝統的な言語文化や国語の特質に関する事項」の領域での正答率が県や全国の平均を大きく上回っている。 ●文章を読むことに関しては比較的できているが、自分の考えを作文することが苦手である。	□書く機会を更に増やす。 □書いた文章をペアやグループで吟味しながら読むことで、文末表現や前後のつながりを考えながら文章を書く力につなげていく。
数学	2年	○数や文字式に関する基本的な計算、基本的な1次方程式を解くこと、空間図形に関する知識・理解が概ね良好である。 ●数学的な表現に関して、正確な知識・理解が不十分である。 ●関数に関する学習の定着、身につけた技能を活用して問題を解決する力、数学的な表現を用いて説明する力が弱い。	□数学的な表現に関する理解を深めるため、授業の中で「学びなおし」の時間を取り入れたり、ペア学習・グループ学習などで数学的な表現を使って説明する場面を設定したりする。 □活用力、応用力向上の視点に立ち、問題演習を取り入れて、基本的な技能の定着を図る。
	3年	○『図形』に関しては、正答率が高い。同様に「数学的な技能」の観点も高くなっている。これは日頃から継続的に自学ノートに取り組みせたり、毎月課題テストを行い、その結果によって学習会を開催したりした成果だと思われる。 ●『関数』領域に関しては、全国平均と比べると低い。また、問題形式が「記述式」になると正答率がそれ程高くない。	□比例・反比例の意味と式・グラフがどう関連しているのかを復習プリントを使い習熟させていく。 □「説明する力」「書く力」をつけるために、日頃から数学的活用のある問題に取り組みさせていく。 □自分の考えを文章や図、言葉で表現したり、互いの考えを伝え合い分かり合うための場を設定したりする。
社会	2年	○基礎・活用の分類では活用に関する正答率が、また、観点別では感心・意欲・態度に関する正答率が概ね良好である。 ●「世界の地域区分の理解」、「各州の地形についての理解」、「西アジアや中央アジアの産業について資料をもとに把握する」、「時代区分の習得」の4つに関して、目標値に対して極端に正答率が低い。 ●歴史的分野の問題に対する「無回答」の割合が高い。	□授業の終末に重要事項を確認する時間を設けたり、小テストを実施したりすることで、基礎的な知識の定着を図る。 □学習に対する興味・関心がより高まるよう、地図やグラフ、写真といった資料を効果的に提示し、生徒が主体的に社会的現象の背景を考察する場面を作る。
理科	2年	○「内容別」では、『気体の性質、水溶液の性質、物質の状態変化、光の性質』について、「領域別」では、『粒子』について、「観点別」では、『自然事象への関心・意欲・態度、観察・実験の技能』についての正答率が高い。 ●コケ植物とシダ植物の分類に関する問題、岩石の特徴から岩石の種類を同定する問題、ばねを使った作図問題の正答率が低い。 ●計算問題にグラフの読み取りが加わるなど思考過程が多くなると困難さが増す。	□実物を観察したり映像資料を用いたりし、様々な観点から植物の分類や岩石の同定をする時間を設定する。 □さまざまなタイプの作図や計算の問題に繰り返し取り組む。 □観察・実験後の考察の時間を確保し、思考・判断・表現力を身につける。また、統括法を用いて理論的に説明できるようにする。
英語	2年	○「読むこと」「書くこと」の領域、英文の読み取り、対話文を読んで内容を理解する力は平均を上回っている。また、3文以上の英作文はほぼ平均値を得ている。 ●基礎的な文法事項や語彙などの定着が低く、特に「聞くこと」に関しての対策が必要である。 ●学力差が大きく、学習意欲との相関関係が認められる。	□ペアワークやグループ学習を積極的に取り入れたり、TTを有効に活用したりすることで、英語を苦手とする生徒を中心に学習集団全体の底上げを目指す。 □クラスルームイングリッシュの時間を増やしたり、ALTとの授業を工夫したりして、コミュニケーションへの意欲・関心・態度を高める。
	3年	○「聞くこと」「読むこと」の正解率は、全国・県の正解率を越えている。 ○「語彙の知識・理解」力が高いため、作文などの応用に強い。 ●全体を通して、自己表現問題の正解率が低い。書きたいという意欲はあるが、それを表現するだけの語彙力がないことが予想される。	□自己表現活動を帯活動で行うことにより、自分の思いを相手に伝えたり、まとめた力をつけていく。 □語彙を増やすため、辞書を活用した活動を定期的に行う。 □クラスルームイングリッシュに触れる機会を充実したものにすることで、ALTとの連携を図る授業を積極的に行う。

### 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○個人差はあるが、自分から学習に取り組もうとする生徒が多くみられ、授業にも積極的に取り組む様子が感じられる。また、授業で学んだことを他の学習に活かしているという生徒の割合も多い。●話し合い活動を通して考えを深めることについて、「あまりしていない」と答えた生徒の割合が多い。生徒が考え、話し合っ、さらに考えを深める時間をもっと設定する必要がある。●1日当たりの勉強時間が県平均を下回っている一方で、ゲームやネットなどに長時間向かう生徒もおり、学習の習慣化に家庭と協力して取り組む必要がある。	□ペア学習や小グループでの話し合い活動を充実していく。 □課題テストを定期的実施し、学習内容の定着を図るとともに、必要に応じて学習会などを行い、補充的な学習の場を設ける。 □生徒が考え、話し合っ、さらに考えを深める場面と時間を意識して増やす。また、議論の方法や手順を学ぶ場を、学習場面に組み込む。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○規則的な家庭生活を送っている生徒の割合が高く、家庭での教育力はある程度安定している。メディアとの関わりも、全国の結果と比較して時間・内容ともに好ましい結果であり、小学校と連携し地域が一体となって取り組んでいることが成果を上げていると考えられる。●「自分にはよいところがありますか」という質問への結果から、自己肯定感が低い生徒がやや多いことがわかる。また、家庭学習や読書の時間が短いため、タイムマネジメントを行う力を身につける必要がある。	□自学ノートについて、自学の内容や範囲を具体的に示し、生徒がより意欲を持って取り組むことができるようにしていく。 □テスト計画表など、自分で計画を立て自主的に学習に取り組むことができるよう、家庭の協力を得る。 □PTA主催のメディア講演会の開催、小学校と連携して行うチャレンジ週間を今後も継続する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○地域の行事やボランティア活動参加への意欲を持っている生徒が多く、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」という質問結果からも関心の高さが伺える。長年取り組んできた「すくらむ学習」など、ふるさと学習の成果である。 ○全国的にも有名な【大社ブランド】に対して、多くの生徒がプライドを持っている。 ●ふるさとへのプライドを持っている一方、将来も住み続けたいと考えている生徒の割合は少ない。	□1年生が行う「すくらむ学習」、3年生が行う「職場体験学習」、伝統行事の「社中生吉兆」など、地域と共に学び、共に成長していく生徒を育成する取組を継続する。 □地域のボランティア活動への参加を呼びかけたり、地域の課題や自分たちに何ができるかを考え話し合う授業を行ったりし、【大社ブランド】への意識をさらに高めていく。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

## 出雲市立斐川東中学校

### 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- ほとんどの教科・領域において、学習内容の定着が見られる。  
 ○家庭学習を1時間程度行っている生徒の割合が高い。  
 ●与えられた複数の情報の中から必要なものを選択し、それを活用して課題を解決したり表現したりする力に課題が見られる。

### 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	2年	○ほとんどの領域において学習内容の定着が見られた。特に、話すこと聞くこと・読むこと・言語事項の定着の度合いが高い。 ●最終問題(作文)の無回答率が高い。作文を書くことに抵抗がある、または時間が足りず最終問題までいかなかったといえる。 ●読むことにおいて、文章の表現の特徴をとらえることに課題が見られた。	□定期的に、制限時間を設けて課題作文をする。指導者が添削を行い、模範解答を複数配付する。さらにその解答を参考に、作文を推敲する活動を行う。 □複数の教材を比較し、構成や表現の特徴を捉える学習を行う。
	3年	○どの領域においても学習内容の定着が見られた。 ○無回答率が低く、記述問題に対しても最後まで解答を書こうと努力した生徒が9割程度いた。 ●論の展開に適した語句や文の使い方を検討することに課題が見られた。 ●封筒の表書を、適切な字の大きさと楷書で正しく書くことに課題がある。	□自分が書いた文章を読み返し、読み手にとってより分かりやすいものになるように、推敲をする学習をする。この時、相互に読み合う活動も行う。 □書写において、実生活や社会生活を想定した学習や、場面や相手に応じて適切に文字を書く学習を行う。
数学	2年	○どの領域においても学習内容の定着が見られた。 ○数学の授業で学習したことを復習をしている生徒が9割程度いる。 ●活用問題の正答率が目標値より低く、他領域との融合問題や求める方法を説明する問題に課題が見られる。	□授業初めに取り組んでいる「5分間ドリル」裏面の「入試問題」にも全員が取り組めるよう時間を確保する。正答率が低い問題は授業で取り上げ、解き方などを確認する。 □活用問題を取り入れ、自分の考えや求め方を説明する場を増やす。
	3年	○数学の授業への取組意欲が高まり、どの領域においても学習内容の定着が見られた。 ●確率の問題では、同様に確からしいことに着目したり、起こり得る場合を表現したりすることに課題が見られた。 ●一次関数で、表やグラフを読み取って説明する問題に課題が見られた。	□確率の復習の時間を設け、落ちや重なりがないように樹形図や表に整理する方法を確認する。 □今年度の関数の授業で、表・式・グラフの関係性をおさえる。また、1、2年生で学習した関数の活用問題を週末課題に出題する。
社会	2年	○基礎・活用、ほとんどの領域や観点において定着が見られた。 ○社会科の学習に対して、肯定的にとらえている生徒が多い。 ●社会の出来事を新聞から得たり、習ったことを生活の中の事象と関連付けて考え・発表することが苦手な生徒が多い。	□新聞を授業の中で活用したり、身近な地域を題材した単元を組み込んだりする。 □自分の考えを発表できる場(機会)を増やす。
理科	2年	○基礎的・基本的な知識・技能は身に付いている。 ●知識・技能を活用する力に課題がある。 ●複数の資料を活用し目的に応じて情報を活用する力に課題がある。 ●自分の考えを相手に効果的に伝わるように表現する力に課題がある。	□多くの情報から問題解決に必要な情報を選ぶ学習を行う。 □既習の学習内容との関連性や系統性を考えたスパイラル的な学習過程を組み、既習の内容を確認しながら理解を深める。 □実生活の中で問題解決の場面を設定し、与えられた情報を表、図やグラフ等に整理し、説明できる表現力を育成する。
英語	2年	○リスニング(内容理解)、語形・語法・語彙の知識・理解、長文の読み取り、単語の並べかえによる英作文において、定着が見られた。 ●場面に応じて英作文を書く力に課題がある。	□授業で学んだ新出表現を使って、自分の考えや意見を2～3文のまとまりのある英文で書いたり、話したりする活動を行う。 □平日の課題や週末課題で、既習表現を使って英作文する練習をする。
	3年	○まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解する領域や、与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く領域に定着が見られた。 ●グラフを見て、その内容を正しく表している英文を選択したり、与えられた情報に基づいて人物を説明する英文を書いたりする力に課題が見られた。	□表やグラフを説明する英文を読んで答える問題に普段から取り組む。 □与えられた情報に基づいて英作文する活動を授業で行う。

### 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「授業中に、自分の考えや意見を発表することは得意ですか」(2年生)「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」(3年生)に対して、肯定的に答えた生徒の割合が高い。 ●3年生で「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている」と答えた生徒の割合は、県や国に比べて低い。	□授業で自分の考えをまとめて発表する学習を工夫して行い、互いに意見を聞き合う雰囲気を高める。 □関連する、既習事項や他の教科の学習内容を教師が把握し、授業の中で意識して生徒に想起させる。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○平日に1時間以上家庭学習を行っている生徒の割合は8割近くいる。また、2時間程度行っている生徒も全国平均程度いる。全く行っていない生徒はいない。 ○家で計画を立てて勉強を行っている生徒の割合も高い。	□自学ノートの取組を継続して行う。よい取組を紹介し、学級・学年全体の家庭学習への意欲を高める。 □自学ノートの取組が不十分な生徒に対しては個別指導を行う。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「地域の行事に参加している」と答えた生徒の割合は高く、地域のボランティア活動への参加者も多い。 ○3年生で、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」に対して肯定的に答えた生徒が増えた。 ●2年生で、「新聞の記事を読んでいる」と答えた生徒が3割に満たない。	□社会のニュースへの関心を高めるために、朝礼で新聞等で読んだことをもとにしたスピーチを行う。 □現在行っている「ふるさと学習」を継続し、地域を知り地域のよさに気付く学習の場とする。また、学んだことを発信する機会を設ける。

# 平成31年度(令和元年度)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立斐川西中学校

## 1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

<p>【全国学力調査】 ○国語については、教科の正答率が全国平均正答率を上回った。●数学、英語については、教科の正答率が全国平均正答率を下回った。特に、数学は、根拠をあげて筋道を立てて説明すること、英語は、書くことにそれぞれ課題が見られた。</p> <p>【出雲市学力調査】 ○国語、数学、理科、英語については、教科の正答率が全国平均正答率を上回った。また、教科の正答率のうち、活用に関して、国語・理科は全国平均正答率を上回った。●社会については、教科の正答率が全国平均正答率をやや下回った。また、教科の正答率のうち、活用に関して、社会・数学・英語は、全国平均正答率をやや下回った。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	2年	○聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞きとることができる。○話の構成を工夫して、相手に分かりやすく伝えることができる。 ○指定された文字数で書くことや、自分の考えを明確にして書くことができる。 ●歴史的仮名遣いを、現代仮名遣いに直すことが苦手である。 ●文学作品の読み取りで、場面の展開を捉えることが苦手である。 ●作文を、3段落構成で書くことが苦手である。	□歴史的仮名遣いの復習を行い、現代仮名遣いに直して正しく古文の音読ができるようにする。また、暗唱テストで定着を図る。 □文学作品の読み取りでは、場面の展開やその効果について考え、展開を意識して読むことができるようにする。 □各単元、定期試験等で条件作文を書く活動を取り入れる。
	3年	○話し合いの話題や方向を捉えることができる。 ○文章に表れているもの見方や考え方について、自分の考えをもつことができる。 ●文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることが苦手である。 ●「根拠を明確にして」自分の考えをもつことが苦手である。 ●封筒の書き方を理解して書くことが苦手である。	□文章中の内容や表現を元に、自分の考えを書いたり伝えたりする活動を繰り返し行う。 □手紙や封筒の書き方について実践的に学ぶ機会を取り入れる。
数学	2年	○正の数・負の数についてよく理解できており、基本的な計算をすることができる。○代表値や範囲などの用語についてよく理解できており、示された値が資料の中でどのような位置にあるかを判断することができる。 ●文字を使った式の基本的な計算をすることが苦手である。 ●文字を使った式で関係や数量を表したり説明をしたりすることが苦手である。	□連立方程式や、一次関数の内容の学習をしながら、改めて文字式についての復習をする。□文字式を使う授業の際には、文字式の計算の中で、間違える傾向の強いパターンを取り上げ、随時復習する。□授業の中に自分の考えを伝える活動を取り入れ、理解を深めることができるようにする。
	3年	○図形の平行移動の意味を理解していたり、結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見出し、説明したりすることができる。 ○簡単な場合についての確率を求めることができる。 ●資料から傾向を的確にとらえ、判断の理由を説明することが苦手である。 ●文字を用いて、ことがらが成り立つ理由を説明することが苦手である。	□資料の見方について、丁寧な説明やグループで資料の傾向を話し合うなどして、理解を深めることができるようにする。□ある数を文字を用いて表したり、文字式が表すことがらを読み取ったりする練習を丁寧に行う。また、文字を使ってあることがらが説明できるような問題に取り組む。
社会	2年	○地理的分野は全体的によく理解できている。特に雨温図を用いた気候の判断や、地形の特色を答える問題では、高い正答率を示した。 ●地理的分野の複数の資料を使う問題では、活用技能に不十分な面が残った。 ●歴史的分野では、中世の内容については理解が不十分な点が多く見られた。	□基礎的内容を確認できるよう、単元ごとに復習の機会を設け、小テストを実施する。特に歴史的分野では江戸時代以降の学習の中で、中世の振り返りを行い、理解を深める。 □資料の読み取りに重点を置いた授業内容を増やすとともに、考えを文章でまとめる活動を増やし、記述問題の指導に力を入れる。
理科	2年	○光の性質以外、全ての項目について、全体的によく理解できている。 ○火山の形からマグマの粘り気や噴火の様子を考えることができる。 ○地層や化石からその当時の自然環境や年代を考えることができる。 ●光の性質「凸レンズを通過する光の進み方」について、レンズの位置とできる像の大きさや向きが十分理解できていない。	□基礎学力の定着を図るために、振り返りの機会を設けたり、小テストを行ったりすることで理解を深める。□実験の基礎操作の丁寧な確認や、結果からグラフや表にまとめて関係を考える活動を行う。□光の性質については、身近な例と教科書の内容を結びつけ、体験的な活動を通して理解を深めることができるようにする。
英語	2年	○対話文の応答(リスニング)の仕方を理解している。 ○語彙・語形・語法を理解することができる。 ○3文以上の英作文を書くことができる。 ●<疑問詞what+名詞>を使った疑問文の語順の理解が不十分であり、苦手である。 ●読みとった内容をふまえて、英文を完成させることが苦手である。	□リスニング活動を毎時間行うとともに、様々な話題の英文を聞き、自分の考えをもつ時間をつくる。 □基本的な語彙、文章についてのドリル学習を行い、定期的に、書き取りテストを行うことで、理解を深めることができるようにする。 □パフォーマンステスト(音読、暗唱、英作文)を実施する。
	3年	○まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる。 ○教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる。 ●与えられた情報に基づいて、3人称単数現在形を使った文が正確に書けない。 ●英語で聞いた内容や、書かれた内容に対して、自分の考えを英語で書くことが苦手である。(書くことの記述式問題で無解答が多い。)	□人称と動詞の活用について復習し、三人称単数現在形の理解と定着を図る。 □単語の発音練習や教科書本文の音読練習を十分に行う。基本文や基本表現を参考にしながら、自分の考えを書く活動を授業に多く取り入れる。

## 3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	【出雲市学力調査】○学級の友達と話し合う活動をよく行っていたと回答した生徒の割合が高い。 ●授業中に、自分の考えや意見を発表することを得意とする生徒の割合が低い。 【全国学力調査】○話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができているという生徒の割合が高い。 ●授業でICTを使用した割合が低い。	□ペア学習やグループ学習を通じ、学習内容の定着を図る。 □各授業の中で、自分の考えをもったり、説明したりする場面を多く設定する。 □教材研究を進める中で、ICTを有効に活用できる場面を見つけ、実践していく。指導者自身のスキルアップを図る。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	【出雲市学力調査】○自分で勉強の計画を立てて、勉強している生徒の割合が高い。 ●新聞の記事を読んでいる生徒の割合、本を読んでいる生徒の割合は、全国平均値を下回った。 【全国学力調査】○読書が好きだという生徒の割合が高い。 ●学校の授業以外の学習時間が少ない。1時間未満と答えた生徒の割合は全国平均値と大差ないが、2時間以上と答えた生徒の割合は全国平均値の半分程度である。	□学習の手引きを活用し、家庭学習の習慣化を図り、授業で身につけた知識・技能を活用した課題にも取り組んでいく。 □定期試験前のテスト計画表の活用、ノーマedia週間に記入する個人カードの活用を通じ、家庭学習の習慣化を図る。 □朝読書の時間を活用する。また、学校図書館と連携し、学年別に文庫本を用意して読書環境を整える。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	【出雲市学力調査】○地域の行事に参加している生徒の割合は、全国平均値よりやや上回った。 ●家での手伝いをしている生徒の割合は、全国平均値を大きく下回った。 【全国学力調査】○日本や自分が住んでいる地域について、外国の人を知ってもらいたいという生徒の割合がやや高い。 ●地域の行事に参加している生徒の割合や、地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあるという生徒の割合が低い。	□道徳の授業の中で、働くことの意義や地域と自分との関わりについて考える場を設定する。 □総合的な学習の時間等を通じて、地域について学び、地域の中でよりよく生きていくことを考える機会を設ける。 □地域行事や、地域のボランティア活動へ積極的に参加するよう、啓発活動を行う。